

盛岡の子どもたちに 「夢」と「誇り」と「志」を

●令和4年度版●

「盛岡の先人教育」実践事例集



盛岡市教育委員会

令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

小・中学校9年間の系統性を踏まえ、教育課程に「盛岡の先人たち」を位置付けた具体的な指導の在り方

盛岡市立仁王小学校

先人教育推進計画

1 本校の先人教育目標

我が国や郷土の発展に尽くした岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の生き方を学んだり地域の方とふれ合ったりすることを通して、「将来の夢」や「ふるさとを愛する心」、「目標に向かって努力する心」を育むことができるように、以下の資質・能力を育成する。

本校の先人教育で育成を目指す資質・能力	
○	岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の業績や生き方・考え方の理解。【知識及び技能】
○	岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の生き方・考え方を 多面的に捉え、その業績と関連付けて考えることで 、自分の生き方・考え方との共通点や相違点を見だし、 生活に生かせることを選択・判断し 、行動する力。【思考力、判断力、表現力等】
○	自分の将来に夢や希望をもち、実現しようとする態度。目標をもち、その実現に向けて粘り強く努力しようとする態度。ふるさとに対する愛着と誇りをもち、岩手の復興と発展にかかわろうとする態度。【学びに向かう力、人間性等】
学校教育目標との関連 ◇かながえる子 イ、ウ ◇おもしろい子 イ ◇たくましい子 イ、ウ	

2 全体指導計画

(1) 学校行事

- 「開校記念式」「仁王歴史館見学」等を通して、仁王小学校の先輩や盛岡の先人の業績や見方・考え方を学び、自分の生活の仕方に進んで生かそうとする心の育成と、仁王小学校やふるさとに対する愛着と誇りの醸成を図る。

(2) 各教科領域

- 各教科領域の学習を通して、先人の業績を学ぶとともに、先人や困難に立ち向かう人々の生き方や考え方にふれることを通して、自分の生き方・考え方に生かそうとしたり、自分の将来に夢や希望をもとうとしたりする態度の育成。

3 学年別指導計画 (太字ゴシックは各学年において重点的に扱う内容)

	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	特学団
4	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」 ・図工「美術館へ出かけよう」	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」	・課外「先人カレンダー」 ・行事「開校記念式」 「仁王歴史館見学」
5	・ 課外「先人パネル原敬(学年集会等) ・道徳「さんさの音が聞こえるよ」	・ 課外「先人パネル金田一京助(学年集会等) ・生活科「とびだせ仁王たんけんたい」	・課外「先人パネル」 田中館愛橋(学年集会等) ・道徳「ソフトボールで金メダル上野由岐子」	・課外「先人パネル」 石川啄木(学年集会等) ・道徳「野の花に思いをよせて～深沢紅子～」	・ 課外「先人パネル新渡戸稲造(学年集会等)	・課外「先人パネル」 米内光政(学年集会等) ・道徳「米内光政『盛岡の先人たち』を基にした自作教材」	
6	春の読書週間「先人に関わる読み聞かせ」	・生活科「とびだせ仁王たんけんたい」 春の読書週間「先人に関わる読み聞かせ」	春の読書週間「先人に関わる読み聞かせ」	●春の読書週間「盛岡の先人たち」 国語「俳句短歌に親しもう」石川啄木	●春の読書週間「盛岡の先人たち」	●春の読書週間「盛岡の先人たち」	●春の読書週間「先人に関わる読み聞かせ」 「盛岡の先人たち」
7						・道徳「ボーイスカウトに希望をたくして」	
8	・国語「小学生俳句短歌大会」	・国語「小学生俳句短歌大会」	・国語「小学生俳句短歌大会」	・国語「小学生俳句短歌大会」	・国語「小学生俳句短歌大会」	・国語「小学生俳句短歌大会」	
9				・道徳「岩手に盲学校を～柴内魁造～」 ・社会「郷土の開発 鹿妻穴堰」	・総合「仁王学区安心防災プロジェクト」～2月	・国語「イーハトーヴの夢」宮沢賢治	
10			・道徳「すきなことから心に決めて～田中館愛橋～」		・道徳「ミッキーマウスの誕生日本一の復興を目指して」	● 総合「輝け！自分の未来」 ・社会「盛岡てがみ館見学」	
11	・生活科「ちいきのみんとなかよしだいさくせん」	・生活科「もつとなかよし仁王たんけん」 ・道徳「安比高原の出会い」		・社会「受けつがれる伝統や文化」	・道徳「太平洋のかけ橋」新渡戸稲造	・社会「近代国家に向けて」 ● 総合「輝け！自分の未来」 ● 課外「一筆啓上」 ・道徳「村のお医者さん」	
12	・道徳「お正月」「チャグチャグ馬つこ」「ともくんの字」「さけがもどる川」					● 総合「輝け！自分の未来」 ・道徳「近代製鉄の父～大島高任～」	
1					・道徳「復興への思いフェニックス」 「ふるさとの道を開く」		
2	・(給食)先人ゆかり給食	・(給食)先人ゆかり給食	・(給食)先人ゆかり給食	・(給食)先人ゆかり給食 ・道徳「花さき山五十年後へのおくりもの」	・(給食)先人ゆかり給食	・(給食)先人ゆかり給食	・(給食)先人ゆかり給食
3							

学校名	盛岡市立仁王小学校	児童・生徒数	377名
研究主題	小・中学校9年間の系統性を踏まえ、 教育課程に「盛岡の先人たち」を位置付けた具体的な指導の在り方		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育振興基本計画における「めざす市民像」は、「多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」である。この「めざす市民像」に迫るため、盛岡の先人たちを中心として、盛岡の歴史や文化、自然や風土を生かした盛岡らしい教育の具体化を図るものとして「盛岡の先人教育推進計画」を策定し、推し進めることとしている。

本校は、めざす教育人間像である「主体的実践人」を志向する過程的目標として「すすんでやりぬく 仁王の子 かんがえる子 おもいやりのある子 たくましい子」という学校目標を掲げている。今年度は、昨年度発足した学校運営協議会をさらに充実させ、学校・家庭・地域総がかりで「共育」にあたることを重点に取組を進めてきた。

このように、家庭や地域と連携・協働しながら子ども達を共に育てる土台の上で、小中学校9年間の系統性を踏まえた先人教育を推進することが、学校教育目標の具現化に資すると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

我が国の郷土の発展に尽くした岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の生き方を学んだり、地域の方とふれ合ったりすることを通して、「将来の夢」や「ふるさとを愛する心」、「目標に向かって努力する心」を育むことができるように、以下の資質・能力を育成する。

- 岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の業績や生き方・考え方の理解 **【知識及び技能】**
- 岩手にゆかりのある先人や困難に立ち向かう人々の生き方・考え方を多面的に捉え、その業績と関連付けて考えることで、自分の生き方・考え方との共通点や相違点を見だし、生活に生かせることを選択・判断し、行動する力 **【思考力、判断力、表現力等】**
- 自分の将来に夢や希望をもち、実現しようとする態度
 目標をもち、その実現に向けて粘り強く努力しようとする態度
 ふるさとに対する愛着と誇りをもち、岩手の復興と発展にかかわろうとする態度 **【学びに向かう力、人間性等】**

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ① 各教科等・総合的な学習の時間と関連させた学習活動の充実
- ② 下小路中学校区での小中学校9年間の系統性を踏まえた実践の充実

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ① 先人教育の実践交流の実施
- ② 実践交流から自校の全体計画の見直し

4 取組の概要

教材名	【伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度】 へいみんさいしょう はらたかし	学年	1 学年
-----	--	----	------

(1) ねらい

仁王小学校の先輩である原敬について理解したり、その生き方について考えることを通して、岩手県の偉人の素晴らしさを知ったり、自分も同じように日本のために頑張ろうとしたりする心情を養う。

(2) 指導計画

- ① けやきホールにある先人パネルを見て、原敬について興味をもつ。
- ② 道徳科において、自作教材「へいみんさいしょう はらたかし」の学習を通して、盛岡の先人の素晴らしさを知ったり、自分も同じように日本のために頑張りたいという思いをもったりする。

(3) 活動の様子

へいみんさいしょう はらたかし

わたしのなまえは 原敬 (はらたかし)。日本で はじめての「へいみん」からそうりだいじんに なったんだよ。「へいみん」ではなく、いっばんじんというんだよ。子どものときは「作人館(さくじんかん)」といって、むかしの仁王小学校でべんきょうしたんだよ。

わたしが子どものころは、いわてけんなどのちほうに すむひとたちは、さべつ(ばかにされること)されてい たんだよ。だから、みんながさべつされることのない、へ いわなよのなをつくりたいとかんがえたんだよ。

おかねがなくてこまつたこともあったけど、ひつしに べんきょうして、ほんのみんなのためになろうとがん ばつたんだよ。


わたしがそうりだいじんになつてしたことはこんなこ とだよ。

- 一、わかものがべんきょうできる大学をたくさんふやし たよ。
- 二、どうろや、てつどうをふやして、みんながせんこく をいきまできるようにしたよ。
- 三、みんながせんきよにさんかできるようにしたよ。
- 四、せんそうのきけんをすくなくしたよ。
- 五、がいこくで、にほんじんがさべつされないようにし たよ。

ほかにも、いわてのためになることもたくさんしたんだよ。 たくさんのおかねをきふして、いわてけんりつとしよか んをつくつたり、おおふなとや、やまだへいけるような せんろをつくつたりしたんだよ。

どうしてわたしが、こんなにみんなのためにがんばる ことができたのかって？それは、わたしが大せつにして いることがあったからだだよ。それは「宝積(ほうじやく) (ほうじやく)」ということばなんだ。このことばは、「みかえりをもとめず(みかえり) じぶんではないだれかのためにがんばるとい ういみがあるんだよ。

仁王小学校の「ねんせいのみんなも、だれかのために がんばるひとなることをまいたしているよ。」



【授業記録より】

- T: 原敬さんは、どんな気持ちで総理大臣としての仕事をしたのでしょう。
- C1: 日本のみんなの暮らしがよくなり幸せに過ごせるようにという気持ちだったと思います。どうしてかという、子どものときに差別を無くしたいと考えていたからです。
- C2: 平和な世の中をつくりたいという気持ちだったと思います。どうしてかという、戦争は危ないし、とても嫌なことだからです。

【子どもの記述より】

- T: 原敬さんのことで、すごいなと思ったことや、真似したいと思ったことはどんなことですか。
- C1: 原敬さんは、戦争の危険を少なくしたのがすごいと思いました。
- C2: 僕も、原敬さんのように「宝積」の心を大切にしていきたいです。
- C3: 私も、自分ではない誰かのために頑張る人になりたいです。
- C4: 私も、原敬さんのような活動をして困っている人を助けたいです。

(4) 考察

- ・ 見返りを求めず人に尽くした原敬の生き方を知り、子ども達は、自分も真似して周りの人の役に立ちたいと考えることができた。子ども達は、「すごい」「僕も原敬さんみたいになりたい。」と話すなど、盛岡から偉人が輩出され、日本で活躍したのだということに誇りをもっている様子が見られた。
- ・ 1年生にとっては、歴史の背景について理解するのが難しい所がある。先人について扱う際には、伝える内容や、言葉の吟味が必要である。

教材名	とびだせ 仁王たんけんたい	学年	2 学年
-----	---------------	----	------

(1) ねらい

地域と関わる活動を通して、地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えることができ、自分たちの生活は様々な人や場所と関わっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、適切に接したり安全に生活したりしようとする。

(2) 指導計画

- ① 絵地図や写真を見ながら、地域の中で知っている場所やまだ知らない場所について話し合う。
- ② 行ってみたい場所や見てみたい場所を思い描きながら、探検の計画を立てる。
- ③ 学区内に、どのような場所があるのか探しながら探検する。
- ④ 詳しく調べたい場所を決め、グループごとに探検の計画を立てる。
- ⑤ 探検に行き、地域の人々の仕事を見せてもらったり、聞きたいことをインタビューしたりする。
- ⑥ 探検に行った場所について、分かったことや気付いたことをまとめる。
- ⑦ 探検に行った場所について、分かったことや気付いたことをもとに、一番伝えたいことをグループでまとめる。
- ⑧ 各グループの分かったことや気付いたことを伝え合い、地域の場所や人々と自分との関わりについて考える。(3) 活動の様子
- ⑨ お世話になった地域の人々に向けて、感謝の気持ちを伝える。(手紙、Zoom での交流等)

(3) 活動の様子



【授業の様子】

T: (地域の) お店の人たちは、どんな気持ちで働いているのでしょうか。

C1: 地域のことをもっとよくしようという気持ちだと思います。なぜかという、どのお店もみんなのために、親切にしたり、ものを売ったりしているからです。

C2: みんながもっと暮らやすくなったらいいなという気持ちだと思います。どうしてかという、どの人も「みんなのために」と言っていたり、お店に来てくれる人のために朝早くからお仕事をしたり、みんながお休みの日に働いているからです。

(4) 考察

- ・ 登下校などで何気なく通り過ぎていた地域の商店の人々が、品物売るだけでなく、地域に貢献しようという思いに触れることで、実際に自分で見学に行っていないお店に行ってみる子どもや行ってみたいという思いをもっている子どもの姿が見られるようになった。
- ・ 2年生の発達段階と地域に向かう学習単元があることを踏まえて、「身近な地域で思いをもって活動する人々」に目を向けさせることができた。3 学年以降の地域の先人の学習をする前段階として、身近な地域の人々の業績や努力に目を向けさせることができた。

主題名 教材名	【希望と勇気、努力と強い意志】 心に決めて ～田中館愛橋～ 『ふるさといわての心』	学年	3 学年
------------	--	----	------

(1) ねらい

自分の決めた目標に向かって努力し続けた先人の生き方から学ぶことを通して、目標をもち、達成するまであきらめずに取り組もうとする心情を育てる。

(2) 指導計画

- ① ホールに展示している先人パネルを見て、田中館愛橋について興味をもつ。
- ② 道徳科「心に決めて～田中館愛橋～」を通して、田中館愛橋の生き方や考え方に触れ、目標の達成に向けてあきらめず取り組もうとする心情を養う。

(3) 活動の様子

<p>授業記録より</p> <p>T: 「心を決めて～田中館愛橋～」を読んで心に残ったことを発表しましょう。</p> <p>C1: 冬でもつめたい水で体をふいたり、健康に注意して勉強を続けたりして立派だと思いました。</p> <p>C2: 小さい時から、目標をもって学習しているところがすごいと思いました。</p> <p style="text-align: center;">～中略～</p>	<p>T: どうして田中館愛橋さんは、「世界でも有名な物理学者」になることができたのでしょうか。</p> <p>C3: 難しいことでも、あきらめずに最後まで勉強したからです。</p> <p>C4: 不安に思っても、途中でやめなくて続けたからです。</p> <p>C5: 自分が決めた目標を、達成するまで努力し続けたから。</p>
---	--

<子どもたちの振り返りから>

田中館愛橋さんことを学んで、自分の目標に向かってあきらめないことが大切だと思いました。途中で不安になったりやめたくなくなったりする時があっても、今日学んだ田中館愛橋さんのことを思い出して、最後まで頑張りたいなと思いました。

途中で面倒くさくなったりしないで、勉強し続けた田中館愛橋さんは、本当にすごいと思いました。今日、学習してみて、目標を達成するためには、「絶対にやるぞ」という強い気持ちが必要だと感じました。目標を決めたら、達成できるように取り組みたいです。

(4) 考察

- ・ 先人パネルを通して、盛岡市の先人への興味を高めていた。子どもたちの機を捉えて、上記の資料を使って先人を紹介したことで、無理なく先人を学ぶことができた。
- ・ 「田中館愛橋」が「みんなについていけるだろうか」と揺れ動いた気持ちに共感することができるように、目標をもって取り組んだが不安に思った自分たちの経験を話し合う活動を位置付けた。この学習活動により、「田中館愛橋さんが夢を叶えることができたのはなぜか」という思いを引き出すことにつながった。
- ・ 今回の学習を機に、仁王小学校の「仁王歴史館」や盛岡市内で先人に縁のある場所へ興味をもち、学びを広げていく姿が見られるようになった。

単元名 教材名	俳句短歌に親しもう(石川啄木の短歌) 石川啄木『一握の砂』他	学年	4 学年
------------	-----------------------------------	----	------

(1) ねらい

石川啄木の詠んだ短歌に興味をもち、31文字の短歌の響きやリズムに親しんだり、情景を想像したりしながら進んで音読や暗唱をする。

評価規準

【知識・技能】情景を想像しながら易しい文語調の短歌を音読したり、暗唱したりして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。

(2) 指導計画

- ① 前時に出会った石川啄木の短歌5首を音読し、本時では、お気に入りの短歌を1つ選んで紹介し合うという学習の見通しをもつ。
- ② お気に入りの短歌を選ぶ観点(響き、意味、リズム)を確かめる。
- ③ お気に入りの短歌を1つ選択し、情景を想像しながら音読したり、暗唱したりする。
- ④ 選んだ短歌について、理由とともに紹介し合う。

(3) 活動の様子

<p>授業記録より 子どもたちのふり返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ○同じ短歌を選んでいても、好きな理由はいろいろあることがわかりました。 ○同じ短歌でも、意味、響き、リズムなど、選び方が人によって違うことがわかりました。 ○「中津川や 月に…」の短歌は、中津川がするする流れている感じで読みました。 ○友達が、歌うように読んでるのが工夫だと思いました。 	<p>ふるさとの山に向いて 言ふことなし ふるさとの山はありがたきかな</p>	<p>教室の窓より逃げて ただ一人 かの城跡に寝に行きしかな</p>	<p>不來方のお城の草に寝ころびて 空に吸はれし 十五の心</p>	<p>岩手山 秋はふもとの 三方の 野に満つる虫を何と聴くらむ</p>	<p>中津川や 月に河鹿の啼く夜なり 涼風追いぬ夢見る人と</p>
---	---	--	---	---	---

【本時使用した石川啄木の短歌】

(4) 考察

本校4年生の子どもたちは、総合的な学習の時間に「中津川探検」をしている。その際には、中津川川原に点在する歌碑を見つけ、進んで声に出す姿があらこちらで見られた。また、秋の遠足では、岩山登山に挑戦し、「啄木詩の道」を通って展望台を目指した。そのときにも、友達と声を合わせて短歌を読んだり、「どういう意味かな」と考えたりする姿があった。これらは、盛岡の様々なところにその香りをのこしている先人「石川啄木」を取り上げたからこそその姿である。子どもたちは、これからも日常生活において、幾度となく「石川啄木」の名前や石川啄木がのこした短歌にふれていくことだろう。学びが生活の中でも繰り返され、つながっていくであろう、先人教育のよさが感じられた実践授業となった。

主題名 教材名	世界とつながるかけ橋に【交際理解、国際親善】 太平洋のかけ橋 新渡戸稲造	学年	5 学年
------------	---	----	------

(1) ねらい

日本と世界との文化交流に尽力した先人の生き方から学ぶことを通して、他国の人々や文化について理解し、交際親善に努めようとする心情を育てる。

【見取りの視点】

- ・ 新渡戸稲造の生き方を支えた心のはたらきは、どのようなものだったのか多面的・多角的に考えることができたか。
- ・ 国際理解、国際親善のために大切にしたい考えについて、自分の生活や経験の中から考えることができたか。

(2) 指導計画

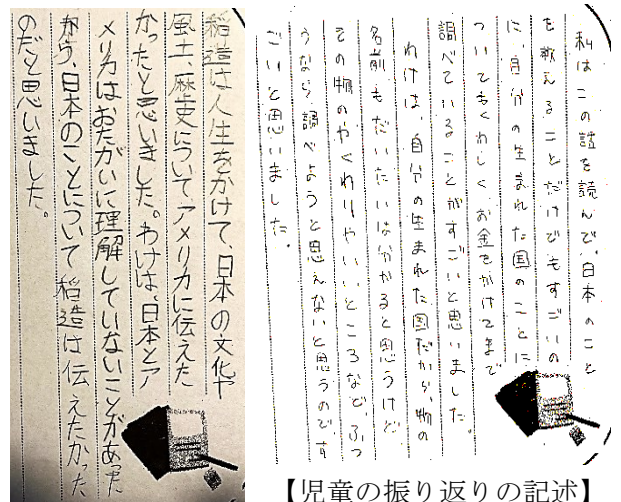
- ① 盛岡市小学校長会が編集した「盛岡の先人たち」から、新渡戸稲造についての人生史を事前に読むことで、登場人物の理解を図る。
- ② 道徳科「太平洋のかけ橋 新渡戸稲造」を通して、新渡戸稲造の生き方や考え方に触れ、国際親善に努めようとする心情を養う。
- ③ 「盛岡の先人たち」から学んだ人物像と道徳科で学んだことをかかわらせながら、これからの生活に向けて実践意欲を高める。

(3) 活動の様子

<p>授業記録より</p> <p>※ ゴシック太線は「盛岡の先人」に記述されていた内容をいかして発言したもの</p> <p>～中略～</p> <p>T: <u>新渡戸稲造さんが、太平洋のかけ橋となるために、努力し続けられたのはどうしてでしょう。</u></p> <p>C1: 好奇心の強かった稲造は、自分が納得するまでやり抜くことを大切にしていたと思うので、続けられたのだと思います。</p> <p>C2: 大学の先生や叔父さん、母親の支えがあり、その期待にも応えたいという思いがあったと思います。</p>	<p>C3: 日本の文化や他の国の文化を交流させることができれば、もっと日本の発展につながると思ったからだと思います。</p> <p>C4: そのためにも英語が必要だったと思います。当時は、英語を勉強する人があまりいなかったけれど、これからの日本を考えると大切なものであると稲造さんは考えていたと思います。</p> <p>C5: 稲造さんは、日本や他の国が好きで、お互いの国のよさを伝えるために諦めなかったのだと思います。自分自身がやらなければいけないという責任感も感じていたと思います。</p>
--	---

(4) 考察

- ・ 道徳に出てくる登場人物の中でも、歴史にも残る崇高なことを行った人物の物語は、子どもにとって現実とかけ離れており、人物像を理解するまでに時間がかかってしまう。事前に「盛岡の先人たち」を読むことで、新渡戸稲造の人物像を捉え、自我関与させることで、道徳科の授業に生かすとともに、ねらいとする価値に迫ることができた。
- ・ 新渡戸稲造以外の先人についても読んでみたいという子が増え、隙間時間や給食の準備時間等に読む子が増えた。その後、学級文庫に保管し、読みやすい環境構成を整えることができた。



【児童の振り返りの記述】

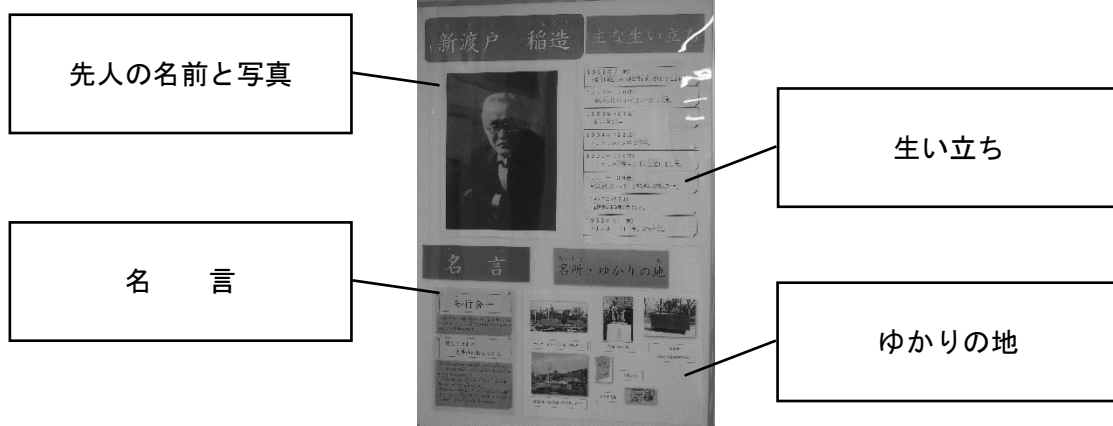
取組	先人パネルの掲示	学年	全学年共通
----	----------	----	-------

本校では、本校出身の先人を中心として「先人パネル」を作成し、各学年棟に設置した。各学年で学習する教科の内容や発達段階を考慮してパネルを設置する先人を決定し、日頃から先人の生い立ちや業績、名言などに触れ、理解を深めることができるようにした。

子どもたちは先人パネルを眺め、先人についての理解を深めたり、親しみをもったりする姿が見られた。

また、パネル作成にあたって使用したデータを中学校区共有のフォルダに保存し、いつでも使用することができるようにし、先人教育における小中連携の一助とした。

学年	先人
1年生	原 敬
2年生	金田一 京助
3年生	田中館 愛橘
4年生	石川 啄木
5年生	新渡戸 稲造
6年生	米内 光政



【作成した先人パネル】

取組	開校記念式や仁王歴史館の見学	学年	全学年共通
----	----------------	----	-------

本校では、毎年4月27日の開校記念日にあわせて本校の卒業生や地域の方をお招きして、講演会を実施している。今年度は、北山地区自治会長の相馬宏さんにご講演をいただいた。感染症対策として、半数は教室でオンライン視聴を行った。

相馬さんから、仁王小学校の歴史や以前の仁王小学区の様子を伺い、子ども達からは、149年の歴史の長さや未来につないでいく大切さに気付く感想が聞かれた。



【開校記念式で講演をされる相馬 宏さん】



【オンラインで視聴する学級の様子】

また、本校には、前身となる藩校「作人館」の頃から保存されている貴重な資料を展示した「仁王歴史館」があり、開校記念日にあわせて、毎年全学年が見学を行っている。現在、改修工事に伴い、見学はできないため、紹介動画を作成し、各学級の教室で視聴した。

取組	先人ゆかりの地をコースに取り入れた遠足	学年	4・5年
----	---------------------	----	------

毎年9月下旬に全学年で実施している徒歩遠足では、4年生が岩山、5年生が中央公園を目的地としている。4年生は、石川啄木の詩碑10点が並べられている「啄木詩の道」を通って岩山展望台に登り、5年生は、中央公園にある「立志の丘」で、岩手山に向かって思い思いの夢や決意を述べている。



【立志の丘で夢を叫ぶ様子】

取組	本校ゆかりの先人を学校教育目標と関連付けたまなびフェストの一体的取組
----	------------------------------------

学校・家庭・地域総がかりで子どものよさやがんばりを認め、励まし、「共育」にあたっていき

本校で目指す具体的な姿 <すすんで やりぬく 仁王の子(自律的に学ぶ子ども)>

<p>かんがえる子</p> <p>理由や経験などを基に考えたり話したりする子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶問題を解決する知識・技能を身に付ける。 ▶多面的に、筋道立てて考え、表現する。 ▶自ら問題を見つけ、協働的に学び、よりよい考えを求める。 	<p>おもいやりのある子</p> <p>「ありがとう」どういたしまして」を互いに伝えられる子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶かけがえない命を大切に生活を送る ▶相手の立場に立って判断し、行動する。 ▶よりよい集団生活に向けて、他者と協調する。 	<p>たくましい子</p> <p>目標ややるべきことに集中して取り組む子ども</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶心も体も健康で安全な生活を送る。 ▶防災・復興について考え、行動する。 ▶めあてに向かって調整し、ねばり強く最後までやりぬく。
---	--	--

9つの姿をバランスよく育成することで、「自律的に学ぶ子ども」を育てます。※ゴシック表示は、今年度、重点的に育成したい力です。

<p>取組の方向</p> <p>自分のアンテナを働かせて</p> <p>伝えたい価値</p>	<p>☆「わけ」を探る(見つける、考える)アンテナ</p> <p>●つなげて考え、伝えるために</p> <p>「知行合一」 新渡戸 稲造</p>	<p>☆「思い」に気付く(つかむ、理解)アンテナ</p> <p>●協力し合い、進んで行動するために</p> <p>「宝積」 原 敬</p>	<p>☆「大切さ」を見抜く(判断する)アンテナ</p> <p>●命を守り、力を高めるために</p> <p>「鉄志玉情」 金田一 京助</p>
--	--	---	--

今年度、本校ゆかりの先人である新渡戸稲造、原敬、金田一京助と大切にしたい言葉「知行合一」、「宝積」、「鉄志玉情」を学校教育目標の知・徳・体に関連付けてまなびフェストに明示した。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・ 「盛岡の先人たち」を先人教育推進計画に位置付け、全学年で先人教育を行ったことにより、目標をもつことや諦めずに粘り強く取り組むことなど、子どもたちに育みたい資質・能力の大切さを、子どもたちに分かりやすく伝えることができた。
- ・ 先人パネルや仁王歴史館、まなびフェストなど、子どもたちを取り巻く環境を「先人教育」の視点で整えたことで、子ども達が先人やその偉業に興味をもったり、自ら調べたりする姿が見られた。
- ・ 同一中学校区の3校で、全体計画を交流したり、実践を見て協議したりする機会をもったことで、互いの取組について理解し、連携を深めることにつながった。共有フォルダを使って資料や指導案のデータを共有したことも、今後の連携の在り方の一つと感じた。

(2) 課題

- ・ 「盛岡の先人たち」を効果的に活用するための発達段階に応じた指導の在り方。
- ・ 地域の人材や魅力を生かし、家庭や地域と共に進める先人教育の在り方。

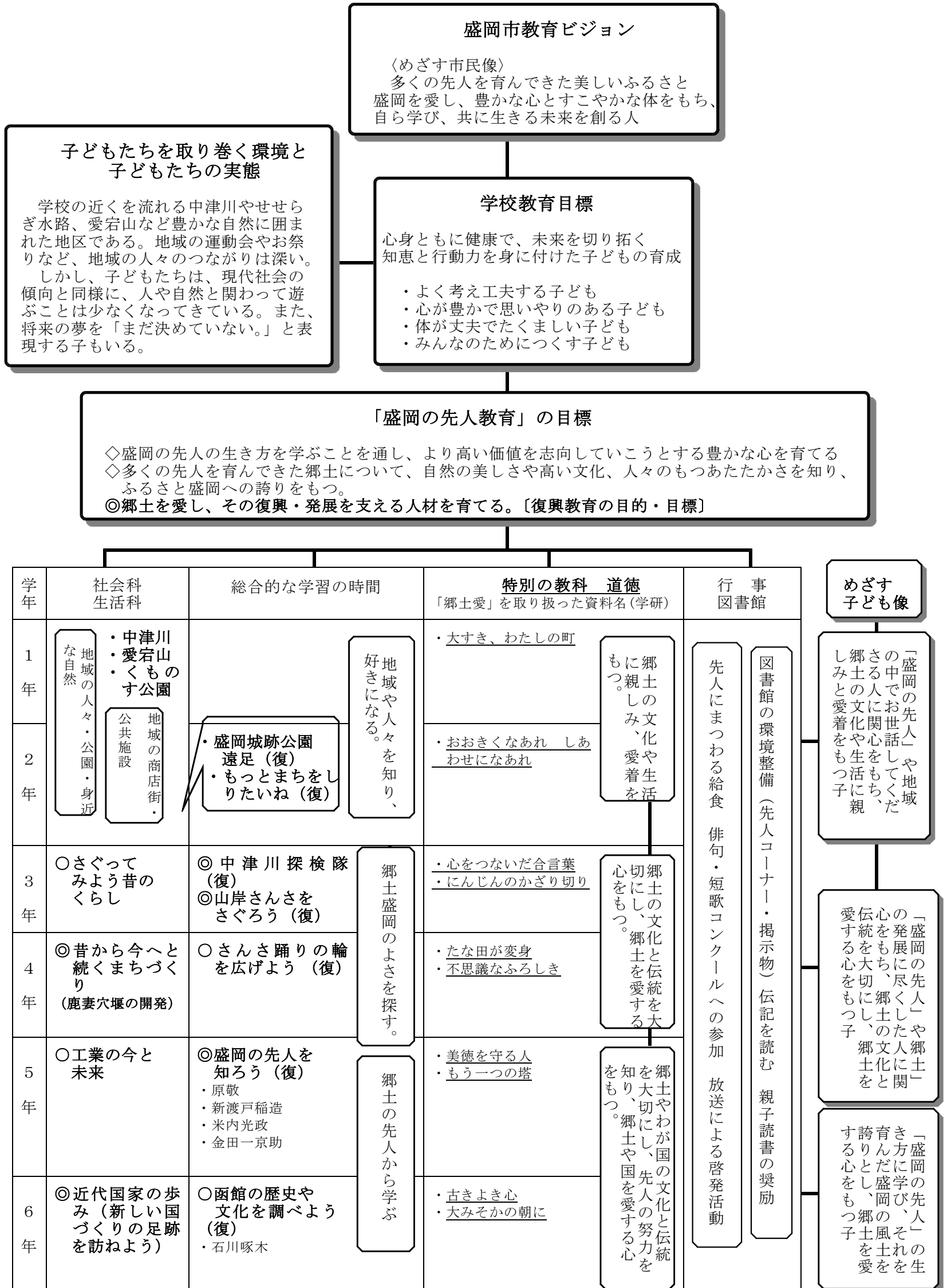
令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

郷土のよさや先人の生き方について学ぶことを通して、自己の生き方について考える子どもの育成

盛岡市立山岸小学校

6 「盛岡の先人教育」全体計画



*各教科での取組については、年間指導計画に重点を記載した。

学 校 名	盛岡市立山岸小学校	児童・生徒数	598 名
研究主題	郷土のよさや先人の生き方について学ぶことを通して、 自己の生き方について考える子どもの育成		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育振興基本計画における「めざす市民像」は、「多くの先人を育んできた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人」である。この「めざす市民像」に迫るため、盛岡の先人たちを中心として、盛岡の歴史や文化、自然や風土を生かした盛岡らしい教育の具体化を図るものとして「盛岡の先人教育」推進計画を策定し、推し進めることとしている。

本校は、学校教育目標を「心身ともに健康で、未来を切り拓く知恵と行動力を身に付けた子どもの育成」とし、教育活動を行っている。盛岡の先人や郷土の発展に尽くした人の生き方や考え方について学ぶこと、地区の豊かな自然とのふれあい、地域の方々とのふれあいを通して、自分自身を見つめ直し、自己の生き方について考える子どもを育成することができる考える。それは、「盛岡の先人教育」がキャッチフレーズとして掲げる「盛岡の子どもたちに『夢』と『誇り』と『志』を」を推進していくことにつながると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

- (1) 郷土盛岡のよさを探したり盛岡の先人の生き方から学んだりすることにより、自分自身を見つめ、将来に対する夢と希望をもち、目的や信念をもって努力していこうとする心情を育てる。
- (2) 先人を育んだ盛岡の風土を誇りとし、郷土を愛する心をもつことができるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ①各教科・総合的な学習の時間と関連させた学習活動の充実を図る。
- ②下小路中学校区での小中9年間の系統性を踏まえた実践の充実を図る。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ①先人教育の実践交流の実施。
- ②実践交流から自校の全体計画の見直しを図る。

4 取組の概要

単元名	いきものと なかよし	学年	第1学年
-----	------------	----	------

(1) ねらい

学校の近くを流れる中津川や、子どもたちにとって身近な愛宕山の豊かな自然とふれ合うことを通して、自然を生かした遊びを楽しみ、地域の自然に親しみと愛着をもつことができる。

(2) 指導計画

月	学習活動
5月	・校庭の木々や植物を見たり、生き物とふれ合ったりして自然に親しむ。
6月	・愛宕山に遠足に出かけ、山岸地区の様子や愛宕山周辺の植物について知り、地域や自然に親しむ。
9月	・中津川での虫探しをきっかけに、捕まえた虫を観察したり飼育したりする。
11月	・校庭の落ち葉や木の実を使って、おもちゃ作りや遊びを楽しむ。

(3) 活動の様子

〈愛宕山探検〉6月

グループで「見つけたよカード」の項目にあるものを探して歩く活動を行った。

- ・大きな木をだっこしよう
- ・鳥の看板を見つけよう など

〈中津川虫探検〉9月

グループごとに虫を探した。採集した虫は、学校で飼育した。



【「見つけたよカード」】



【虫探しの様子】

〈「あきのおもちゃをつくろう」〉11月

校庭の落ち葉や木の実を拾い、飾りやおもちゃを作って楽しんだ。



【落ち葉を使った飾り】



【「かんさつシート」】

(4) 考察

- ・愛宕山遠足では、子どもたちに見てほしい、感じてほしいことをカードにしてウォークラリーをすることで、限られた時間で楽しみながら自然とふれ合うことができた。
- ・中津川の河原では、校庭に比べてたくさんの虫を見つけることができ、学校に戻ってから採集した虫をじっくり観察することができた。
- ・秋のおもちゃ作りでは、みんなで楽しく遊ぶ「秋のおもちゃ祭り」を通して、実りに感謝する気持ちをもつことができたとともに、地域の祭りを楽しみにする気持ちへつなげていくことができた。
- ・年に一度ではなく、季節ごとに中津川や愛宕山を探検し変化を体感することで、より愛着を感じることができると思う。

単元名	どきどき わくわく まちたんけん もっと なかよし まちたんけん	学年	第2学年
-----	-------------------------------------	----	------

(1) ねらい

身近な地域の様子を観察したりまち探検に出かけたりすることを通して、地域の人のが分かるとともに、自分の生活と深い関わりがあることに気付くことができる。

地域のよさに気付き、地域の人や場所への愛着をもち、人々と適切に接したり、地域で安全に楽しく生活したりしようとする心を育むことができる。

(2) 指導計画

月	学習活動
4月	・地域にはどんなものがあるか、どんな人たちがいるか知っていることを話し合う。 ・春のまち探検に出かける計画を立てる。
5月	・地域に出かけ、自然を観察したり、地域の人たちと関わったりする。 ・見つけたことを記録カードにまとめ、友達と交流する。
6月	・グループごとにまち探検に出かけ、地域の施設を調べる計画を立てる。 ・まち探検に出かけ、地域の場所や人と関わる。 ・調べたことをグループごとにポスターにまとめ、発表し合う。
10月	・春のまち探検で気付いたことからもっと知りたいことを話し合い、前回とは異なる施設へまち探検に出かけ、施設や働いている人たちの様子を調べる。
11月	・調べたことをまとめ、交流する。

(3) 活動の様子

〈子どもたちの学習カードより〉

春

- 自分たちにやさしく教えてくれた。
- みんながよるこぶパンを作っていた。
- 買い物に来る人のことを考えているみたい。
- みんなが安心して生活できるように。
- みんなのことを考えて仕事をしている感じ。
- お客さんにやさしく、髪をきれいにしていた。

みんなに喜んでもらうために、工夫していた。

どんな工夫をしているか知りたい!

秋

- 学びたいことを学べるようにこうざをひらいたり、こうしの先生をよんだりしている。
- きせつに合わせたしょうひんを売っていた。
- お客さんのこのみに合うように、さまざまなしょうひんをかいはつしていた。
- 安全にくらせるように、パトロールをしている。
- 仕事のぎじゅつを上げるためのれんしゅうやべんきょうをしていた。
- 安心してりようしてもらうために、アルコールチェックをしたり、GPSをつけて道をまよわず送りとどけることができるようにしたりしていた。

探検に行こう!

(4) 考察

○直接地域の方とふれ合うことで、気付きや新しい発見が生まれた。2回目のまち探検で疑問を解決したり、工夫を知ったりすることができた。それにより、地域のよさを実感し愛着をもつことができた。

○文献や資料などではなく直接会話して確認できることは、低学年にとって、地域の方々の思いや願い、生き方を実感しやすい。生活科の学習を通して、先人教育の素地を養うことができた。

単元名	「山岸のふしぎ発見・山岸さんさを知ろう」	学年	第3学年
-----	----------------------	----	------

(1) ねらい

- ・山岸に昔から伝わる山岸さんさについて名前の由来や歴史などを調べることによって、地域の伝統芸能に関心をもつ。
- ・山岸さんさの太鼓や笛に触れたり踊り方を覚えたりして地域の文化に親しみ、地域の方々と交流をもつ。

(2) 指導計画

月	学習活動
1月	・さんさ踊りについてのビデオを見て、これからの学習について見通しをもつ。
	・ゲストティーチャーに、「たなばたくずし」の踊りを教わる。
	・ゲストティーチャーに教わりながら、太鼓を全員で体験する。
	・山岸伝統さんさの「雀追い（すずめぼい）」の踊りや太鼓を教わる。
2月	・踊りがどういう様子を表現しているか、教わったことを振り返りながら踊りや太鼓を練習する。
	・山岸さんさについて、由来や歴史を調べる。
2月	・学習のまとめをし、発表の練習をする。
	・校内で調べ学習の発表や踊りの発表をする。

(3) 活動の様子（内容、写真は昨年度までのもの）

山岸地区に伝わる伝統さんさについて、「山岸さんさ踊り保存会」の方々に来ていただき、踊りや太鼓を教わった。さらに、それぞれの踊りや太鼓がどんなことを意味しているのかについても教わった。10を超える演目があること、装束や帯の色についても学び、学んだことをクイズにまとめて発表するなどした。



【保存会の方々に踊りや太鼓を教わる様子】

(4) 考察

- 自分たちの住む山岸地区に伝わる伝統さんさがあること、それが長い年月受け継がれていることを知り、そのよさを味わい、自分たちの住む地域に愛着をもつことができた。
- 「山岸さんさ踊り保存会」の方々に話を聞いたり教わったりするなど、直接関わることで、伝統を受け継いでいこうという思いをもつことができた。

単元名	昔の人々の願いと努力	学年	第4学年
-----	------------	----	------

(1) ねらい

地域の発展に尽くした先人の働きについて調べる活動を通して、先人たちの苦心や努力を知り、自己の生き方に生かそうとする態度を養う。

(2) 指導計画

オリエンテーション	1	県内各地には暮らしを高めるために努力してきた多くの先人がいることを知る。
調べる①	7	鹿妻穴堰出前講座の話を聞く。 鎌津田甚六について学習する。
調べる② まとめる	6	郷土のために尽くした人々について、調べたい人物を決め、調べる。 調べたことをリーフレットにまとめる。
交流する	2	リーフレットの交流会をする。 先人の生き方から学んだことをまとめる。

(3) 活動の様子

鹿妻穴堰出前授業の様子



出前授業の感想から

出前授業をうけて、鎌津田甚六さんがいなかったら、村は荒れたままで、いつまでも水をめぐる争いがおきていたと思います。けれども、お米がたくさんとれますように…という村人の願いに答えて、2年間もかけて、考え、工夫し、村人と協力して鹿妻穴堰をつくった甚六さんは、改めてすごい人なのだと思います。鹿妻穴堰と甚六さんについて、もっと知りたくなりました。

郷土のために尽くした方をリーフレットにまとめる

(4) 考察

- 「鹿妻穴堰出前授業」を活用することにより、より深く鎌津田甚六の偉業について知ることができ、興味をもつことができた。
- 調べたことを、リーフレットにまとめたり、それを交流したりすることで、先人たちの強い思いや偉業を成し遂げるための苦勞を感じ、自己の生き方を見つめ直すことができた。
- 先人たちを調べる活動において、子どもたちの興味を引くような分かりやすい資料が少なく、教師の説明が必須となるため、子どもたちの「知りたい」に応えられなかった。

単元名	盛岡の先人に学ぼう①～盛岡の偉人4人を通して～	学年	第5学年
-----	-------------------------	----	------

(1) ねらい

- ・先人から学ぶために必要な資料を集め、問題解決のために調べて解決することができる。(問題解決力)
- ・自分の考えをもち学んだことを交流する中で、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。(学び方・考え方)
- ・盛岡ゆかりの先人の生き方を通して、価値ある生き方について多様な情報を活用して協働的に学ぶことができる。(主体的創造的協働な態度)
- ・先人から学んだことを生かし、これからの自分の生き方について考えることができる。(自己の生き方)

(2) 指導計画

○盛岡の先人に学ぼう①～新渡戸稲造、金田一京助・原敬・米内光政～(5学年)30時間
 ・新渡戸稲造、金田一京助・原敬・米内光政の生涯について学び、価値ある生き方について考え、これからの自分の人生に生かそうとする。

① 「盛岡の先人たち」を読み、主な先人について学ぶ。

② 「出前講座」を開き、詳しく調べる先人を選ぶ。

③ 詳しく調べたい事柄や内容を決める。

④ 調べ学習をする。

・先人ウォークを行い、街中に残る先人の足跡を探る。

・先人記念館・原敬記念館を見学する。

・各種資料やインターネット等を使って調べる。

⑤ 先人について学んだことをリーフレットにまとめ、自分の人生に生かせることを考える。

⑥ 学習の成果を交流する。

⑦ 学習を振り返る。

(3) 活動の様子

(ア) 副読本「盛岡の先人たち」を活用して先人の生涯に触れ、先人学習に対する関心を高めることができた。

(イ) 原敬記念館・先人記念館の出前講座を通して、それぞれの先人の功績をトピック的に知り、自分が特に調べていきたい先人を絞り込んだ。

(ウ) 先人ウォーク・原敬記念館・先人記念館の見学をし、前向きに、先人について調べる様子が見られた。

(エ) 先人学習のまとめとしてリーフレット作りに取り組んだ。自分が特に興味をもった先人に対して記事を絞って書き表すことができた。



【先人ウォークの様子】

(4) 考察

○副読本読書・出前講座・先人ウォーク・記念館見学等、多様な活動を取り入れたことで、常に意欲を失わずに学習に取り組むことができた。

○先人ウォーク・原敬記念館・先人記念館の見学を通して、以下のような気付きの中で、先人を、より身近に感じたり、誇りに思ったりすることができた。

・歩いて行ける範囲の中学校の出身者がいる。 ・先人の生家跡がある。

・盛岡城跡公園には先人の石碑がたくさんある。 ・先人同士でつながりがあることも…。

・岩手県は総理大臣を多く出している。

・お札に肖像画が使われた人がいる。

・政治家、文学者、教育者など、多方面で活躍している。

●林間学校の日程の都合上、先人学習を1学期と2学期に分けて行うことになった。興味を持続させるためにも、連続して2学期だけで取り組みたい。

●先人ウォークは児童が選択した先人と直接関わらない面があるので、活動の時期や意義を見直していきたい。

単元名	盛岡の先人に学ぼう②～石川啄木～	学年	第6学年
-----	------------------	----	------

(1) ねらい

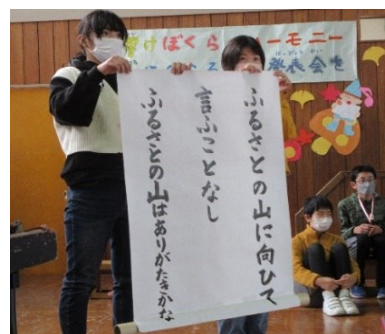
- ・先人から学ぶために必要な資料を集め、問題解決のために調べて解決することができる。(問題解決力)
- ・自分の考えをもち学んだことを交流する中で、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。(学び方・考え方)
- ・盛岡ゆかりの先人の生き方を通して、価値ある生き方について多様な情報を活用して協働的に学ぶことができる。(主体的創造的協働的な態度)
- ・先人から学んだことを生かし、これからの自分の生き方について考えることができる。(自己の生き方)

(2) 指導計画

- 盛岡の先人に学ぼう①～新渡戸稲造、金田一京助・原敬・米内光政～（5学年）30時間
- ・新渡戸稲造、金田一京助・原敬・米内光政の生涯について学び、価値ある生き方について考え、これからの自分の人生に生かそうとする。
- 盛岡の先人に学ぼう②～石川啄木～（6学年）8時間
- ① 啄木の生涯について学ぶ。
- ② 啄木の短歌に親しむ。
- ③ 好きな短歌を選ぶ。
- ④ 選んだ短歌について友達と交流する。

(3) 活動の様子

- (ア) 副読本「盛岡の先人たち」・インターネット等を活用して啄木の生涯を調べ、学生時代の様子、初めから詩人として成功していたわけではなく、北海道や東京などで苦労していたこと、5学年時に調べた金田一京助との関係などを知ることができた。
- (イ) 「啄木カルタ」を通して、特に有名な短歌に親しむことができた。
- (ウ) 短歌を詠んだ時の背景や心情、短歌に表された風景などを調べ、自分の好きな短歌を選んだ。
- (エ) 選んだ短歌について、なぜ気に入ったのかを友達と交流し、友達の考えを聞いて感じ方の違いなどに気づき、考えを広めることができた。



【音楽発表会での発表の様子】

(4) 考察

本校では、以前、6学年の修学旅行で函館に行っていた経緯から、新渡戸稲造、金田一京助・原敬・米内光政については5学年で取り上げ、石川啄木については6年時に扱う計画で学習してきた。しかし、コロナ禍になってからは県内の修学旅行になっているので、それを継続するのであれば、石川啄木についても5学年で学習する4人の先人と同時に学ぶことも検討していてもよいと感じた。

好きな短歌を選んで交流する活動では、「望郷の思い」を感じられる歌に着目する子が多かった。単に啄木の生涯について学び、考えるだけではなく、国語科の「やまなし」や関連資料である「イーハトーブの夢」で取り上げた宮沢賢治についての学習や県内各所を巡った修学旅行等と結びつけ、自分たちの住む岩手のすばらしさに目を向けるきっかけとすることができた。

5 成果と課題

- 先人教育と、生活科や社会科、総合的な学習の時間を関連付けながら学習計画を立てたことにより、発達段階に合わせて学習を進めることができた。
- 低・中学年は、身近な地域の自然や生活している人たちとふれ合うことで、自然、文化、伝統を大切にしていきたいという思いを高めることができた。
- 高学年は、「盛岡の先人」を読むことや、出前講座や施設見学を通して、先人の生き方や考え方について理解を深めるとともに、自分の将来について考える機会をもつことができた。
- 各学年の学びを蓄積したり、調べ学習に活用できる資料を準備したりして、学びの充実を図る。
- 学習を通して、自分はどのように地域社会と関わっていきたいか、自分にできることはないか考え、具体的な活動を計画していきたい。

令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

**地域の財産(人・もの・こと)を
生かした先人教育の在り方
～小中9年間の関連を
図りながら～**

盛岡市立下小路中学校

令和4年度盛岡市立下小路中学校 先人教育全体計画

<p>盛岡の先人教育</p> <p>子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を</p> <p>各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、原敬や新渡戸稲造、米内光政などの盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことをとおして、次代を担う子供たちに「将来の夢」や「ふるさとと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むことを目指す。</p>	<p>盛岡市教育振興基本計画「めざす市民像」</p> <p>多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体をもち、自ら学び、共に生きる未来を創る人</p>	<p>生徒の実態</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温厚で控えめな生徒が多い。 ・自己肯定感が高めであるが、大勢の前で自分の意見を発表することに抵抗感を持つ生徒が多い。 ・将来の夢を持っている生徒の割合が低い。 						
<p>めざす子ども像</p> <p>【中学校】 盛岡の中で、日本の中で、世界の中で生きる「夢」「誇り」「志」をもつ。 【小学校高学年】 盛岡の先人と盛岡の風土に対する「誇り」をもつ。 【小学校低・中学年】 盛岡の先人にかかわる人や土地について「興味・関心」をもつ。</p>	<table border="1"> <tr> <th>学校教育目標</th> <th>学校像</th> </tr> <tr> <td>「心身ともに健康で 学ぶことに意欲を持ち主体的に行動する 力ある生徒の育成」</td> <td>「学びと活力にあふれた清潔な学校」</td> </tr> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○豊かな学び ○豊かな心 ○たくましい体 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○学びが拓かれる学校 ○感動が響き合う学校 ○地域に信頼される学校 </td> </tr> </table>	学校教育目標	学校像	「心身ともに健康で 学ぶことに意欲を持ち主体的に行動する 力ある生徒の育成」	「学びと活力にあふれた清潔な学校」	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな学び ○豊かな心 ○たくましい体 	<ul style="list-style-type: none"> ○学びが拓かれる学校 ○感動が響き合う学校 ○地域に信頼される学校 	<p>保護者の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの夢をもち、その実現に向けて努力できるようにしてほしい。 ・社会に出て通用する学力を身に付けてほしい。 <p>地域の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に愛着をもってほしい。 ・地域や社会に貢献し、活躍できる人材を育成してほしい。
学校教育目標	学校像							
「心身ともに健康で 学ぶことに意欲を持ち主体的に行動する 力ある生徒の育成」	「学びと活力にあふれた清潔な学校」							
<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな学び ○豊かな心 ○たくましい体 	<ul style="list-style-type: none"> ○学びが拓かれる学校 ○感動が響き合う学校 ○地域に信頼される学校 							
	<p>本校先人教育目標（めざす生徒像）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域に誇りと愛着をもち、「ふるさと・盛岡」の良さを語れる生徒 ・地域の課題に気づき、よりよい地域社会の形成のために、具体的に行動できる生徒 ・先人の生き方に学び、自己実現のために見通しをもって粘り強く努力を続けることができる生徒 	<p>下小路中学校区の特徴（強み）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の中心部に位置し、市のみならず県の政治や経済、文化の中心的役割を果たしている。 ・かつての城下町の面影が色濃く残り、歴史的史跡等を直接目にする機会に恵まれている。 ・伝統工芸士や老舗など、長い伝統や技術を守り伝えてきた人々（地域人材）が豊富である。 ・地域の人々が地域に誇りをもっており、教育活動にも大変協力的である。 						

育てたい資質・能力	
○「盛岡の先人」の業績や生き方、地域の文化と生活、また、そこに生きる人々の思いや願いを知り、地域の良さや課題を理解する。【知識及び技能】	○「盛岡の先人」や地域の人々の生き方や考え方について、様々な視点から捉え、自分の考えをもつとともに、他者との関りの中でそれを修正・調整しながら、よりよい地域社会の形成や自己実現のために具体的に行動する。【思考力・判断力・表現力等】
○「盛岡の先人」の業績や生き方、地域の文化と生活、また、そこに生きる人々の思いや願いに関心をもち、主体的に学習に取り組むとともに、よりよい自己実現のために粘り強く努力を続ける。【学びに向かう人間力、人間性等】	
身に付けさせたい具体的な力	
○主体性 ○思考力 ○判断力 ○対話力 ○説明力 ○表現力 ○人間関係力 ○自己調整力 ○自己肯定感 ○他者肯定感	

具体の計画						
学年	小学校の関連	各教科	総合的な学習の時間	道徳	キャリア	生徒会活動
1学年	【めざす子ども像】 「盛岡の先人」や地域の中でお世話してくださる人に関心をもち、郷土の文化や生活に親しみと愛着をもつ。 ・地域探検活動 ・先人読み聞かせ ・盛岡の先人	【国語】 ・盛岡市小中学校俳句・短歌大会作品展 【社会】 ・日本の姿(地理的分野) ・地域の歴史を調べよう(歴史的分野) ・原始・古代の日本と世界(歴史的分野) ・中世の日本と世界(歴史的分野)	○「地」を知る ・ものしり探検隊(訪問インタビュー学習等) →下小路中学校区近辺の町内及び盛岡市内の歴史・伝統・文化・行事等の学習を行う。 ・生き方講座(地域の先輩から学ぶ職業学習) →「自己理解」「他者理解」「将来の夢」等の進路学習のスタートに、地域の職業人から話を聞き、自己の生き方を考える。	○郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・壊れた掲示板 ○我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ・日本の心と技 ○友情、信頼 ・石川啄木と金田一京助	○進路への関心を高める	【全校生徒会】 ・三大文化の継承と発展 ・母校への誇り 【各学年生徒会】 ・学年の強みを伸ばす活動 ・所属意識の高揚 【各学級会】 ・学級の強みを伸ばす活動 ・所属意識の高揚
2学年	【めざす子ども像】 「盛岡の先人」や郷土の発展に尽くした人に関心をもち、郷土の文化と伝統を大切に、郷土を愛する心をもつ。 ・鹿妻穴堰の開発 ・受け継がれる伝統と文化 ・盛岡の先人	【国語】 ・盛岡市小中学校俳句・短歌大会作品展 【社会】 ・地域調査の手法(地理的分野) ・日本の地域的特色と地域区分(地理的分野) ・日本の諸地域…東北地方(地理的分野) ・日本の近代化と国際社会(歴史的分野)…石川啄木	○「人」を知る ・生き方に触れる(職場体験学習) →「働くこと」「職業調べ」等の進路学習をスタートに、職場体験学習を行い、働くことの喜びや大変さを実感する機会とする。 ・社会に目を向ける(修学旅行班別自主研修事前取り組み) →班別にテーマを設定し、訪問学習を基本とした準備を行う。	○郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・五色桜 ○我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ・金閣再建 黄金天井に挑む ○希望と勇気、克己と強い意志 ・原敬	○進路の明確化とその吟味を行う	【地区生徒会】 ・年に2度の地域活動(奉仕活動、地域行事等への参加) ※地域に貢献できる中学生 【図書委員会】 ・副読本 朝読書における「盛岡の先人」の活用 【学習委員会】 ・ものしり検定採点
3学年	【めざす子ども像】 「盛岡の先人」の生き方に学び、それを育んだ盛岡の風土を誇りとし、郷土を愛する心をもつ。 ・学区安全防災プロジェクト ・近代国家の歩み ・輝け！自分の未来 ・盛岡の先人	【国語】 ・石川啄木 ・盛岡市小中学校俳句・短歌大会作品展 【社会】 ・二度の世界大戦と日本(歴史的分野) ・個人の尊重と日本国憲法(公民的分野)…原敬、米内光政、(後藤新平、齋藤實) ・現代社会と私たち(公民的分野) ・個人の尊重と日本国憲法(公民的分野)…金田一京助 ・現代の民主政治と社会(公民的分野) ・私たちの暮らしと経済(公民的分野) ・地球社会と私たち(公民的分野) 【英語】(予定) ・新渡戸稲造「BUSHIDO」※発展学習	○「天」を知る ・社会や未来に目を向ける →修学旅行班別自主研修事前取り組み、当日、事後取り組み ・持続可能な社会実現のために(学年探究学習、個別探究学習) →学年探究学習…防災・減災学習(被災地・若手に生きる～あなたとあなたの大切な人の命を守る、いきる～)かかわる・そなえる～ →個別探究学習…個人テーマを設定し、社会貢献活動を実施したり、広く社会に自分の考えを発信する活動などを行う。	○郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度 ・ねぶたを夢見て ○我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度 ・白川郷に魅せられて ○国際理解、国際貢献 ・杉原千畝 ・新渡戸稲造 ○真理の追究、創造 ・米内光政(平和学習を兼ねる)	○適切な進路選択と自己実現に向かう	【ボランティア委員会】 ・アルミ缶回収 ・ベルマーク回収

地域・家庭等との連携	
【地域】 ・地域の人材等の活用(講座等の講師等) ・下小路中学校区教育振興協議会主催の「ものしり検定」の実施 ・地域行事への参加 など	【その他】 ・図書ボランティアによる「先人コーナー」の設置
【家庭】 ・授業参観や各種通信、保護者面談等を通じた、先人教育への理解と協力	

学 校 名	盛岡市立下小路中学校	児童・生徒数	526名
研究主題	地域の財産(人・もの・こと)を生かした先人教育の在り方 ～小中9年間の関連を図りながら～		

1 研究主題設定の理由

本校は、城下町の面影が今なお色濃く残り、歴史的史跡等を日常的に目にする機会に恵まれた地域に立地している。また、伝統工芸士や老舗など、長い伝統や技術を守り伝えてきた人々（地域人材）も豊富であり、これまでそれらの財産を生かし様々な教育活動を展開してきた。

そこで、これまでの実践を小中9年間を見通した指導計画の中で系統付け、発達段階に応じて盛岡の先人教育の「めざすこども像」の達成に向けて取り組んでいきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

- (1) 地域に誇りと愛着をもち、「ふるさと・盛岡」を語れる生徒の育成を目指す。
- (2) 地域の課題に目を向け、よりよい地域社会の形成のために、具体的に行動できる生徒の育成を目指す。
- (3) 先人の生き方から学び、自己実現のために見通しをもって粘り強く努力を続けることができる生徒の育成を目指す。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ① これまで本校で取り組んできた「先人学習」を小中9年間を見通した指導計画としてまとめ直し、児童・生徒の発達段階に応じて学習内容の深化を図る。
- ② これまで「総合的な学習の時間」を中心に取り組んできた本校の「先人学習」を、道徳科を始め他の教科での取組の中にも広げ、教科横断的に資質や能力を身に付けることができるようにする。また、それぞれの実践に必要な「盛岡の先人」の教材化を図る。
- ③ 教職員のための「盛岡の先人」を学ぶ研修機会を積極的に活用するとともに、研修の伝講と追試により教材化の一例を学ぶ。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ① 年度当初に担当者会議を開き、今年度の研究の方向性を共有する。
- ② ブロック研修を利用した、各校の「先人学習」の授業の実際を参観し合うとともに、「先人教育全体計画」とその具体について全教職員で共通理解を図る。
- ③ これまで各校で行われてきた「先人学習」や「地域学習」などを関連付けて実践を行うこととする。

4 取組の概要

単元名	二度の世界大戦と日本	学年	3年社会科
-----	------------	----	-------

(1) ねらい

近代史の中で、日本や世界のリーダーとして活躍した盛岡（岩手）の先人の業績を、その時代背景とともに理解させ、3年生での「先人学習」の土台の一つとする。

(2) 学習の実際

本校社会科の年間指導計画に従い、授業を実施した。その際、全教室前方に掲示している「先人カレンダー」の肖像写真に触れながら、意識化を図った。また、単元の振り返り項目の一つとして、盛岡の先人について記述させた。以下に、生徒の実際の記述の一部を示す。

<p>新渡戸稲造や原敬については小学校でも少し勉強したけれど、こんなに活躍した人だということに改めてびっくりした。(略) 同じ時期にこんなにすごい人たちが出てきたのはなぜなのかなと思った。</p>	<p>日本が大きく変わる時期にこんなにたくさんの岩手県出身者が活躍したことを知って、嬉しくなった。日本の土台を作ったといっても過言ではないなと思った。授業では触れなかった別の面についても調べてみたい。</p>	<p>特に米内光政の生き方に興味を持った。もし僕が当時の人だったとして、「日独伊三国同盟」に反対はできないと思う。自分の信念を貫く生き方はかっこいいと本気で思う。</p>
--	--	---

単元名	「知を知る」～地域訪問学習～	学年	1年総合
-----	----------------	----	------

(1)ねらい

- ① 下小路中学校区及び周辺地域の歴史・伝統・文化・行事等について学ぶ。
- ② 自己の課題を追求し、主体的に学習に取り組む態度を育てる。
- ③ 状況や場面について適切に判断しながら、仲間と協力して行動することを学ぶ。
- ④ 自分の意見を積極的かつ効果的に相手に伝える力を養う。



(2)学習の実際

- ① 学級テーマに基づいて訪問先を班ごとに決定する。
- ② 訪問先で何を見てくるか、聞いてくるか、調べてくるかを検討する。
- ③ 事前学習として、インターネット検索等を活用しながら訪問先に関わる具体的な情報を収集する。また、訪問先への道順を調べる。
- ④ 訪問、調査活動の実施。
- ⑤ 各学級、模造紙大に拡大した白地図に訪問先を記す。合わせて、その白地図に添付するレポートを作成する。
- ⑥ 学年発表会を開催して学習したことを発表しあい、地域についての見聞を広げる。



(3)学習の成果(○)と課題(●)

- 現地取材活動を通して、生徒が盛岡の先人についての興味や関心を高めるとともに、その知識をより深めることができた。
- 学んだことをレポート形式でまとめ、地図上に貼り付け学年階に掲示しているが、発表会においては、より分かりやすい発表の方法があったのではないかと考える。今後、その方法を学んでいきたい。

単元名	職場体験学習（地域人材の活用）	学年	2年総合
-----	-----------------	----	------

(1)ねらい

- ① 実際に働くことを通して、働くことの喜び、苦勞、誇りなどを感じ取る。
- ② 働くことの意義を考える。
- ③ 職業に対する視野を広げ、自らの生き方を考える。
- ④ 社会で通用する規律やマナーを学ぶ。

(2)学習の実際

- ① 事前学習
希望調査 → 体験事業所の決定 → 事業所・業種について調べ学習 → グループごとの事前打ち合わせ → 訪問マナーの学習



② 体験学習

盛岡市内及び近郊の39事業所に2～6名程度のグループで2日間の体験学習を行う
(事業所によっては短時間、説明のみ、大人数の受け入れとなる場合もあった)

③ 学習のまとめ

各事業所へのお礼状(全員)まとめ個人レポートの作成
学級内交流発表会(全員) 学年交流発表会(各学級代表4名ずつ)



【生徒のふり返り】

- ・人と関わって仕事をしていくのでコミュニケーション力や伝える力が必要だと思った。
- ・相手によって伝え方の工夫も必要であることを知った。服装や言葉遣いも場に応じたものであることが分かった。
- ・成功のためには失敗も必要で、失敗してもあきらめずに挑戦することが大切だ。

- ・様々なことに関心を持ち、視野を広げていこうと思った。
- ・自分が好きなことを仕事にして、楽しく仕事をしている方々は生き生きとしていて、日々、向上し続けていることが分かった。
- ・いろいろなことに挑戦してやりたいことを見つけようと思う。
- ・仕事に誇りをもっている方の姿を見て、この仕事に就きたいと思える仕事に就きたいと思った。

(3) 学習の成果(○)と課題(●)

○人生の先輩である職業人から職業の内容だけでなく、人としての生き方を学んだ。生徒たちは多くの学びや気づきを得ることができた。また、発表会をすることで多くの職業について知ることができた。

●生徒が学校から離れて、他者と関わることの重要性を感じた。人と人の関り方、あいさつ、話し方、行動全般について、様々な機会 で学ばせていきたい。

単元名	生き方を考える(地域人材の活用)	学年	1年総合(R2)
-----	------------------	----	----------

(1) ねらい

地域の職業人から職業についての話を聞き、働くことの意義や職業の世界の実際を知る。

(2) 学習の実際

本実践は過年度実施になるが、「地域の人材」を活用した実践になるため、ここで紹介したい。

進路学習の一環として、地域の職業人を講師に招き、パネルディスカッションを行った。職業の分野については、生徒から事前アンケートを取り希望の多い分野を中心に講師の選定を行った。また、生徒の希望には挙がらなかったが、地域の大きな特色の一つである「伝統産業」の分野からも講師をお招きした。

将来を見据えた有意義なひととき・・・ 職業講座

コーディネーター
二階堂副校長先生

1 T 関連 株式会社ノーザン
システムサービス
代表取締役社長 川村 尚司氏

医療関係 社団医療法人
久仁内丸病院
看護部長 新川 久美子氏

伝統産業 巴染工株式会社
取締役社長 東條 誠氏

**この1枚のマスクが
命を守り 世界を救いますように**

1枚1枚心を込めて作りました。
洗濯して繰り返し使えます。

Save the Earth
Presented by Tomoe Senko

11月27日(金)、3人の講師の先生方をお迎えして、総合学習の一環として職業講座を行いました。今回、司会の役となるコーディネーターを二階堂副校長先生にお願いをしました。
3名の先生方は現在その道の第一線で活躍されている訳ですが、仕事に就いたきっかけ、やりがい、今後の夢等、これからの進路選択に役立つお話をして下さいました。最後に生徒からの質問・感想発表等が行われ、会を締めくくりました。
巴染工の東條さんからは、コロナでマスク不足になった春先に製作したというマスクを、何と生徒全員分頂きました。マスクのロゴの「Save the Earth」世界を見据えて活動を展開している東條さんの熱い思いが伝わってきました。ありがとうございます。

今回の職業講座を聞いて私は、今まで何となく高校に行って、大学に行って、仕事を生きているだけだと思っていました。しかし、就職活動は中学や高校から始まっていると知り、自分が将来仕事に就くためには、たくさんの苦労と努力が必要なのだと学ぶことができました。また、仕事に就いてもそれが新たなスタートだということが分かりました。このようなことをこれから忘れないようにしたいと思います。(1組 女子)

仕事は楽しいだけでなく、苦労したり大変だったりすることもあるけど、一番は「この仕事をやれて良かった」と思えることが大切だと書かれて、僕もそれを基にこれからの将来に生かしていこうと思いました。また、仕事には人と人のコミュニケーションと、その人の価値観も考えることが大事だと知ることができました。今日学んだことを将来へつなげていきたいです。(2組 男子)

僕は、三人の先生方の話を聞いて、自分で会社を立ち上げた方や側の会社を引き継いだ方など、いずれにしても努力して頑張ったことを知りました。三人の方々みんな、高校まで将来について悩んだりどうするか考えたりしており、いずれにしても興味を基に仕事を見出したりしていて、苦労も失敗もいっぱいして人は成功できることを知りました。(3組 男子)

私は今日、講師の方々の話を聞いて、仕事や進路を決める大変さがわかりました。また、仕事に就いてゴールではなく、仕事に就いてからがスタートだということもわかりました。私はまだ、将来の夢がはっきりしていませんが、今日聞いた仕事をす上で大切にしていることをしっかりと意識して、自分の好きなことを職業に就けるようにこれから頑張りたいです。(4組 女子)

世の中には仕事をしている人がいるからこそ、成り立っているものだと深く感じた。良いことだけではなく、苦労や努力があるから、人々の良さが出たり、私達が支えられているのだと感じた。それそれ将来の夢がはっきりしている時期があっても、今の道にたどり着く道はたくさんあると思うので、「自分らしさ」と「人のため」ということを忘れて物事へ取り組んでいきたい。自分の性格を自分で理解して、一歩ずつ前へ進みたい。(5組 女子)

時	主な学習内容	形態
1	・オリエンテーション	学年
2	・働く目的と意義	学級
3	・身近な人の職業調査	学級
4	・職業と適正	学級
5・6	・様々な職業調べ	学級
7	・職業講話	学年
8・9	・まとめと礼状作成	個人
10	・学習の振り返り	学級

(3) 学習の成果(○)と課題(●)

- 生徒の関心が高い職業に携わる講師の話だったため、その講話に熱心に聞き入る生徒の姿がたくさん見られた。また、中学校1年生の段階から意識したほうが良いことを具体的にお聞きできたことで、毎日の生活の中で「自分はこの頑張ろう」という目標を持つことができた生徒も多かった。
- 事前に講師の先生方々への質問を一人一つ以上準備していたが、全体の前で挙手の上発表できる生徒が少なかった。大人数の中でも自分の意見を自信をもって発表できるよう、様々な機会を捉えて指導を積み重ねたい。

単元名	地域のために行動しよう！Funding for NGO/NPO (地域のために行動できる中学生)	学年	1年総合 (R2)
-----	---	----	-----------

(1) ねらい

地域の課題に目を向け、自分たちにできることを具体的に考える。また、ポスターセッションを通して、自分たちの考えを発信する力を身に付ける。

(2) 学習の実際

本実践は、「日本と世界の今を知る～SDGsを視点に～」をテーマに過年度実施した地域学習の一例であるが、生徒が地域の一員として具体的に自らの在り方を考え、実際の行動に結びつけることができた事例のため、ここで紹介したい。

生徒や身近な人たちが感じている「中学校区」の課題をインタビュー調査し、それをもとに班ごとに「仮想 NGO/NPO 立ち上げ」という形でまとめを行い、ポスターセッションの後、fundingを行った。

【学習計画】

時	主な学習内容	形態
1	・オリエンテーション	学年
2・3	・NGO/NPO 調べ	学級
4・5	・ポスター作製	学級
6	・発表練習	学級
7	・ポスターセッション	学年
8	・地域の課題インタビュー学習準備	学級
課外	・インタビュー	個人
9	・インタビュー内容交流、課題の絞り込み	学級
10・11	・テーマ設定、計画案作成	学級
課外	・追加インタビュー	個人
12・13	・ポスター作製	学級
14	・発表原稿作成、練習	学級
15・16	・ポスターセッション、funding	学年
17	・振り返り	学級

【学年通信】

総合学習 自分達で立ち上げた NGO をみんなに披露!

～ 5学級混合でのポスターセッション&ファンディング ～



1年間かけて学習してきた総合学習もいよいよ大詰めとなりました。これまでの学習の集大成として、下小路の学区内で今度は自分達がNGOを立ち上げようということで、各班で知恵を絞って考え出したNGO団体。その活動の目的や内容をポスターにまとめ、発表原稿を考え、練習も行って臨んだポスターセッション。前回は学級内での発表でしたが、今回は学級の枠を越えて5クラスのそれぞれ1班同士・2班同士・・・が発表し合う形式で行いました。いつもは見ることのない、他クラスの仲間の活動する姿に新鮮味を感じながら、色々な考え方があることを知ることが出来た良い機会になったと思います。そして自分達の立ち上げたNGOの活動が、SDGsの「世界を変えるための17の目標」のどれに該当するのかわかり、素晴らしい活動と考えた班に仮想通貨を用いた投資(ファンディング)を行いました。最後に振り返りを行い、2時間の活動が終了しました。みんなのいきいきとした楽しそうな表情がとても印象的なひとときとなりました。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

活動は生活班単位とし、すべての生徒が発表できるよう、班内で2グループに分かれ、前半・後半に分けて実施した。前半終了後には「作戦タイム」を設け、他班から学んだことを自分たちの発表に生かせるようにした。生徒が取り組んだテーマとしては、「放課後の子どもの居場所づくり」、「高齢者の見守り」、「空地・空き家の活用」、「盛岡のPR活動」、「子ども食堂」、「地域の環境保全」などが挙げられた。中学生としてそれにどのように関わっていくか深めきれないところはあったが、自分だったら何ができるかを生徒なりに熱心に考えている姿があらこちらで見られた。

(3) 学習の成果(○)と課題(●)

- 身近な人々(家族や近所の人)などを対象にインタビュー学習を実施したことで、より広い視野で地域の課題と解決のための視点を捉えることができた。また、fundingを行ったことで、よりよいポスター作製やより分かりやすい発表に生徒が積極的に取り組むことができた。
- 生徒の活動の成果を広く外部に紹介できるような機会を設ければ、さらに学習が深まったと考える。

単元名	新渡戸稲造と「遠友夜学校」	学年	3年道徳
-----	---------------	----	------

(1)ねらい


- ①生徒…「遠友夜学校」開設に込められた新渡戸稲造の「教育者」としての願いを資料から読み取り、友達との交流を通して、考えを深めるとともに、その生き方を学ぶ。
- ②教師…盛岡の先人の教材化の一例を実際に指導し、今後の盛岡の先人の教材化に生かす。

(2) 学習の実際 (※夏の公開講座追試)

【指導略案…展開～終末】


【生徒の記述】

10分	<p>学習課題：新渡戸稲造は、どのような願いを込めて「遠友夜学校」を作ったのだろうか。</p>
展開	<p>○「遠友夜学校」はどのような特色を持った学校だったのだろうか。(個人→グループ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業料や学用品が無料 ・男子だけでなく女子も学べる ・仕事をしていても学べる ・年齢を問わない <p>○新渡戸稲造は、なぜ「遠友夜学校」を作ったのだろうか。そこに込められた稲造の願いを自分なりに考えてみよう。(個人→グループ)</p>
30分	<p>○自分が考えた、稲造の願いを発表しよう。(2～3人)</p>
終末	<p>○今日の授業を通して、あなたは新渡戸稲造の生き方について、どのような感想を持ちましたか。</p> <p>○感想を発表しよう。</p>
10分	



私が「遠友夜学校」を作ったのは、

太平洋のかけ橋を作りたいからです。「遠友夜学校」は、年齢、地位、立場、貧富の差などの差別を生まないことを目標としています。また、太平洋のかけ橋と名づくには、異なる国の人々とも平等に接することから、その名を付けました。そのような人々を育てるために、私は「遠友夜学校」を作りました。



私が「遠友夜学校」を作ったのは、

勉強したくても、機会と恵みがない人々を、私に力を与えてくれた。稲造の願いは、年齢関係なく、誰もが学べるようにすることです。大切で、未来を築くことに、若者にとっても必要不可欠だからです。私の願いは、誰もが学べる機会をみんなに与えたいことです。



【生徒の振り返り】

☆授業の振り返り

今日の授業を通して、あなたは新渡戸稲造の生き方について、どのような感想を持ちましたか。

新渡戸稲造の「遠友夜学校」を作った理由を考えてみて、太平洋のかけ橋に何と云う実現に向けての「力」があったという意見を聞いて、私も目標に向かって、太平洋のかけ橋を作りたいという思いが湧きました。有言実行するために自分から動くことが、私には、出来たのかな。できるよななりたいなと思ってきました。全の人に同じく勉強ができるようにしたいという生き方は、どんな人にも希望を与えていますよなと思えました。

☆授業の振り返り

今日の授業を通して、あなたは新渡戸稲造の生き方について、どのような感想を持ちましたか。

稲造の生き方を見、道徳に精進や他人の為に献身的に尽くす姿も私に見習いたいと思ふ。さらに稲造は「太平洋のかけ橋」という目標を、実際に達成しているのだから、彼が盛岡の先人にも名を残した理由が分かった。今の時代「差別をなくそう」という風潮だが、稲造は100年以上前に、既に「遠友夜学校」を作った達成している。よって、彼が偉大な人として名を残した理由の一つだと感じました。

(3) 学習の成果(○)と課題(●)

- 公開講座の伝講を兼ねた授業実践であったが、略案を作成するとともに、本校の生徒の実態に応じて内容を一部オリジナル化したことで、指導者側の予想を超えて、生徒にとっては取り組みやすく、「新渡戸稲造」の生き方への関心をさらに高めることができた「楽しい道徳」になったと言える。また、指導者側も担任の持ち味を生かしながら5学級ほぼ同じような指導を展開することができた。
- 中心発問に対する生徒の思考については、補助発問によって記述内容に大きな差が見られたので、略案の事前検討会を大切にするとともに、道徳的価値の高まりを促すことができるような教師の指導力を高めていく必要性を強く感じた。

取り組み名	ものしり検定	学年	全校
-------	--------	----	----

(1) ねらい

自分たちの住む地域の歴史、地名の由来・伝説、産物、文化財などについて興味をもちながら調べ学習をすることにより、地域の良さに気づき、地域の一員として生活する意義を学ぶ。

(2) 学習の実際

地域の特徴や地域に関わりの深い人物等について、検定形式（4問択一）で出題し、一定の基準を満たした生徒に対し、認定証を発行する。

【活動の計画】

10月中旬	実施ガイダンス	学年集会や各教室にてガイダンスを実施
10月下旬	全校学習会	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは57問の四択の内容である。読むだけで多くのことが学べる内容になっている。 ・1週間（10月24日～27日）の朝読書の時間を学習期間として対応する。
10月28日 (金)	下小路もの知り 検定	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストの57題から50題を選び、4問択一方式で出題する。 ・規定得点(例年は40題以上)の生徒を合格とする。 ア 80点以上 合格認定書 イ 満点者 満点認定書 ウ 学級平均点 優秀学級認定書 ・合格生徒については後日認定書を発行する。満点者は氏名を掲示。
※R3,4 削除した 活動	生徒問題づくり	夏休み等を利用して主に1年生が地域に探検し、問題作成を行っていた。コロナ禍のために実施せず。
	丸つけ・表彰	教育振興協議会のメンバーによる丸つけと表彰

【ものしり検定問題(例)】

盛岡中学で学んでいた宮沢賢治は学区内のあるお寺に下宿していました。賢治が下宿していた部屋があるお寺はどれでしょう。

- ① 徳玄寺 ② 永福寺
③ 真行寺 ④ 法華寺



旧盛岡銀行本店を設計したのは盛岡出身の葛西萬司です。次のうち葛西の設計ではないものはどれでしょう。

- ① 旧第九十銀行 ② 中央公民館別館
③ 現盛岡信用金庫本店 ④ 現岩手医科大学1号館



【生徒の感想】

- ・地域の歴史や文化を知ることができて良かった。
- ・先人たちの生活を身近に感じることができた。
- ・新しいことが知ることができた。下小路、すげえ！

(3) 学習の成果（○）と課題（●）

- 下小路中教育振興協議会の独自の取組であり、地域を知り、キャリア教育にもつながる事業である。継続した活動として、令和4年度で11回目となる。
- 満点合格者 155 名、合格者 181 名と昨年より満点合格者、合格者ともに増加している。(R3 満点 114 名、合格者 174 名)
- 検定問題は、これまでの取組で 170 問程度作成された。170 問を 3 等分し、3 年間で全問題に取り組めるように工夫している。
- 今後の問題作成には、生活や地域でいきる防災問題も含めながら更新していく。

5 成果と課題

【成果】

- ・ブロック研修会を通して、小学校の先人教育の具体的な様子とそれに取り組む児童の姿を直接見ることができたことは大変意義のあることであった。また、本中学校区の3校の活動にたくさんの共通性と関連性を見出すことができたので、小学校での指導を踏まえて、中学校ではより活動を深化させることが十分可能であることが分かった。それを生かした活動を次年度以降も模索していきたい。
- ・生徒は教師が想像する以上に「地域への関心が高く、地域社会に貢献したい」という気持ちが強いかを各種アンケート調査や、実践後の振り返りから知ることができた。それに応えることができるような活動を今後も積極的に提供していきたい。

【課題】

- ・「盛岡の先人」については、その生涯や業績・生き方について、自信をもって指導に当たることができる教員がまだまだ少ない（指導に自信がないという声が聞こえてきたため）と言える。実践の確実な引継ぎと学年間の連携はもちろんのこと、今後とも各種研修への参加を推進するとともに、伝講を行うことが肝要である。社会科や国語科、或いは担当者頼みの先人教育から、全教職員で実施する先人教育になるよう今後も研修を重ねていきたい。
- ・「盛岡の先人」については、様々な立場で書かれた資料を比較検討し、何をどのように教材化することが「生徒の最も望ましい学びにつながるのか」を吟味することが大切だと考える。
- ・小中9年間を見通した指導計画について随時見直しを図ること。また、特別な機会を設定しなくても、学校間で授業参観を日常的に行うことで、発達段階に応じた効果的かつ適切な生き方教育ができるようになる。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ここ数年外部と関わる機会が極端に減少している。しかし、地域の人材との結びつきを切らさないような体制が何よりも大切だと考える。また、まだまだいるであろう地域の人材の発掘も学校として進めていくことも重要である。

令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

郷土を愛し、自分の生き方・考
え方について考えを深める児童
の育成

—盛岡の先人・本校の先人

× カリキュラムマネジメント

× ICT—

盛岡市立城南小学校

Ⅸ-2 先人教育全体計画

学校教育目標	盛岡市「めざす市民像」	盛岡の先人教育キャッチフレーズ
<ul style="list-style-type: none"> ○ まごころをつくす子 ○ 考える子 ○ たくましい子 	多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かな心とすこやかな体を持ち、自ら学び、共に生きる未来を創る人	～盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を～

先人教育目標
<ul style="list-style-type: none"> ○多くの先人をはぐくんできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつあたたかさを理解する。 ○盛岡の先人の生き方について考えるとともに、自分の生き方について考えることができる。 ○郷土（ふるさと盛岡）への誇りを持ち、より高い価値を志向していこうとする心をもつ。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
重点	・盛岡の先人の顔と名前を知るとともに、身近な地域の自然やお世話になっている人々に関心を持ち、積極的に関わろうとする子どもを育てる。 【重点5家庭・地域との連携 ③地域の教育力】		・盛岡の先人の簡単な業績を知るとともに、郷土の発展に尽くした人々、郷土の文化や伝統について興味を深め、郷土に愛着をもつ子どもを育てる。 【重点5家庭・地域との連携 ③地域の教育力】		・盛岡の先人や郷土の人々の生き方に学び、郷土に誇りをもつとともに、自分の将来に夢や希望をもつ子どもを育てる。 【重点5家庭・地域との連携 ③地域の教育力】	
各教科・領域等との関連	【生活】 ・みんなのこうえんであそぼう ・こうえんであきをさがそう ・むかしからつたわるあそびを楽しもう ※中津川河原 ※盛岡城跡公園・二の丸(啄木歌碑)	【生活】 ・春のまちを歩こう ・どきどきわくわく町たんけん ・まちのカメラマンになろう ・もっとなかよし町たんけん つながる広がるわたしの生活 ※天満宮の梅 ※天満宮の石碑(啄木歌碑) ※天満宮の狛犬	【国語】 ・国語辞典の使い方 ・俳句を楽しもう ・短歌を楽しもう 【社会】 ・わたしたちのまちと市 【南芳タイム】 ・盛岡文化博士になろう ※岩手銀行中の橋支店・盛岡信用金庫 ※久慈次郎石碑 ※八幡宮米内像	【国語】 ・漢字辞典の使い方 短歌・俳句に親しもう 【社会】 ・昔から今へ続くまちづくり ・盛岡の先人たち ・国際交流が盛んなまちづくり 【南芳タイム】 ・共に生きる ※岩山・啄木詩の道	【国語】 ・日常を十七音で 【社会】 方言と共通語 ・伝統工芸 【南芳タイム】 ・地域に学ぶ伝統工芸職人技 【道徳】 ・太平洋のかけ橋 新渡戸稲造	【国語】 ・やまなし 【社会】 戦争と人々の暮らし 平和で豊かな暮らしをみざして 【南芳タイム】 魅力ある自分を目指して
扱う先人	【校訓】 【久慈次郎】	【○田子一民】	【○葛西萬司】 【金田一京助】	【○大西民子】 【石川啄木】	【○照井栄三】 【長岡輝子】 【鈴木盛久】	【○米内光政】 【原敬】
その他	【掲示】 ・各教室に先人カレンダーを掲示し、盛岡の先人に関心をもつことができるようにする。 ・「先人掲示コーナー」を設置し、盛岡の先人及び代表的な活躍を遂げた本校の卒業生にかかわる情報に接する機会とする。 【先人ゆかり給食】 ・先人たちにちなんだメニューを通して、先人が過ごした生活文化に触れ、行事や栄養面などの知恵や知識に触れる機会とする。 【作品応募】 ・盛岡市俳句・短歌大会、原敬記念館児童生徒作品展、一筆啓上等の作品応募を通して、先人に親しむ機会とする。 【開校記念集会】 ・母校の先人の業績や人柄、学校や地域に関わる逸話を紹介し、先人の生き方や考え、感じ方を学ぶ機会とする。					

学 校 名	盛岡市立城南小学校	児 童 数	398 名
研究主題	郷土を愛し、自分の生き方・考え方について考えを深める児童の育成 —盛岡の先人・本校の先人 × カリキュラムマネジメント × ICT—		

1 研究主題設定の理由

研究指定をいただいた今年度は、本校の先人教育の基盤作りが重要と考えた。そこで、「盛岡の先人教育」第2期推進計画に則り、本校の先人教育の計画段階から再編することを今回の研究の主眼とした。

2 研究の目標

- (1) 盛岡には優れた先人がいることを知り、その先人を身近に感じたり、先人が愛した郷土のよさに気付いたりすることができる。
- (2) 先人の生き方・考え方に学び、よりよく生きようとする意識や態度を培う。
- (3) 先人の生き方・考え方、先人を育てた郷土や母校に愛着や誇りをもつ。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

①カリキュラムマネジメントの視点

- ・各学年の学習内容や行事に、より強いつながりがある本校の先人を学べるようにする。
- ・中学校で学ぶ予定の「盛岡の先人」を本校の先人に結び付けながら概要を紹介する。
- ・先人教育の時数を確保する。

②先人を身近に感じられる手立てを組む

- ・自分たちに近い存在の人や事例を挙げて、子どもたちと先人をつなぐ。
- ・先人の学童期の様子や行動、大切にしたい考えなどに焦点を当てて紹介する。
- ・城南小学校、本校の学区、学区にある建物など、身近な場所や物とのつながりから先人の紹介に移る。

③ICT活用

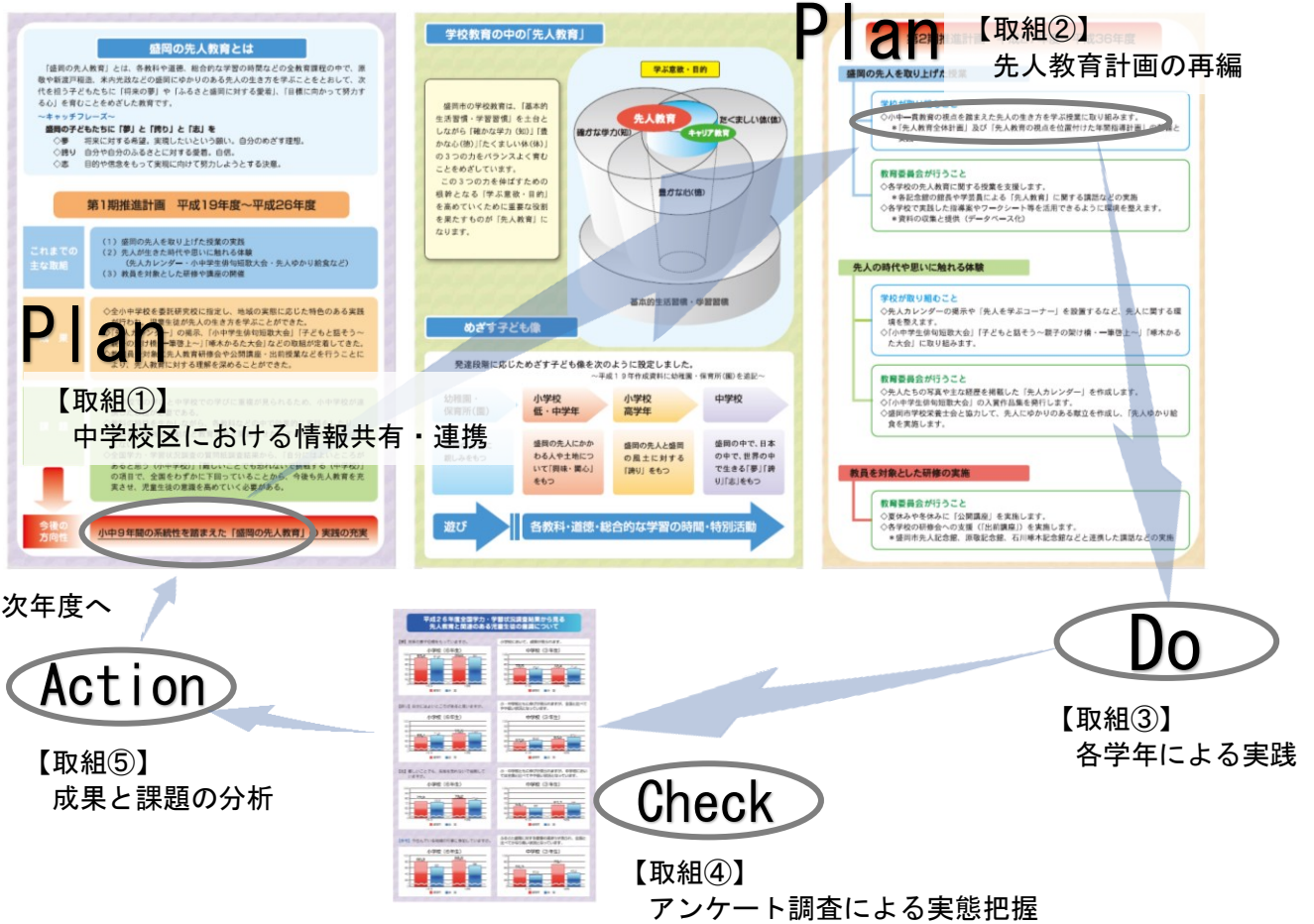
- ・アンケート調査を行う際に、ロイロノートのアンケート機能を活用する。来年度以降も活用できるほか、どの子がどの回答をしたのか瞬時に分かるほか、集計もスムーズに行えるなどの利点を生かす。
- ・Microsoft teams にパワーポイント資料を上げ、各学年で活用・編集できるようにする。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・城東中学校、山王小学校と計画段階から打ち合わせを行う。(5月・6月・10月・12月)
- ・小学校段階で知識として理解しておくべき内容の確認を行う。
- ・先人を複数人学ぶことで、比較・分類・整理・統合などの思考を働かせられるようにする。

4 取組の概要

(1) 城南小研究計画（アウトライン）



(2) 取組の実際

【取組①】 中学校区における情報共有・連携

5月30日に、城東中学区である三校の担当者会議をもった。各校の先人教育全体計画と今までの実践を持ち寄り、「第1期推進計画における課題」を改善すべく、系統性について話し合った。確認したことの中で、主要な部分は以下の通りである。

- ・ 内容の重なりではなく、質的な重なりにならないように盛岡の先人教育のねらいを小・中学校の各段階で捉え直し、計画・実践を行うこと
- ・ 業績だけでなく、先人の生き方や考え方、貫き通した夢や志など、内面を大切にすること
- ・ 扱う先人に指定はないが、中学校へのスムーズな接続のため、盛岡の先人（主な4人）について大まかに把握すること
- ・ 複数人学ぶことで、比較・整理・統合など、自分の考え方を伸ばすことにつながる可能性があること
- ・ 上記の内容をブロック研で伝え、共有化を図ること

【取組②】先人教育計画の再編

令和4年度先人計画は、前年度末の段階で整理がされていたが、カリキュラムマネジメントの視点で再編を図った。

Ⅹ-2 先人教育全体計画						
学校教育目標 ○ まごころをつくす子 ○ 考える子 ○ たくましい子		盛岡市「めざす市民像」 多くの先人を育ててきた美しいふるさと盛岡を愛し、豊かふ心とすこやかな体をもち、自ら学び、共に生きる未来を創る人		盛岡の先人教育キャッチフレーズ ～盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を～		
先人教育目標 ○多くの先人をはぐくんできた郷土について、自然の美しさや高い文化、人々のもつあたたかさを理解する。 ○盛岡の先人の生き方について考えるとともに、自分の生き方について考えることができる。 ○郷土（ふるさと盛岡）への誇りをもち、より高い価値を志向していこうとする心をもつ。						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年
重点	・盛岡の先人の顔と名前を知るとともに、身近な地域の自然やお世話になっている人々に関心をもち、積極的に関わろうとする子どもを育てる。 【重点5家庭・地域との連携 ③地域の教育力】	・盛岡の先人の簡単な業績を知るとともに、郷土の発展に尽くした人々、郷土の文化や伝統について興味を深め、郷土に愛着をもつ子どもを育てる。 【重点5家庭・地域との連携 ③地域の教育力】	・盛岡の先人や郷土の人々の生き方に学び、郷土に誇りをもつとともに、自分の将来に夢や希望をもつ子どもを育てる。 【重点5家庭・地域との連携 ③地域の教育力】			
	各教科・領域等との関連	【生活】 ・みんなのこうえんであそぼう ・こうえんであそびをしよう ※中津川河原 ※盛岡城跡公園・二の丸(啄木歌碑)	【生活】 ・春のまちを歩こう ・どきどきわくわく町たんけん ・まちのカメラマンになろう ・もっとなかよし町たんけん つながる広がるわたしの生活 ※天満宮の梅 ※天満宮の石碑(啄木歌碑) ※天満宮の狍犬	【国語】 ・国語辞典の使い方 ・俳句を楽しもう ・短歌を楽しもう 【社会】 ・わたしたちのまちと市 【南芳タイム】 ・盛岡文化博士になろう ※岩手銀行中の橋支店・盛岡信用金庫 ※久慈次郎石碑 ※八幡宮米内像	【国語】 ・漢字辞典の使い方 ・短歌・俳句に親しもう 【社会】 ・昔から今へ続くまちづくり ・盛岡の先人たち ・国際交流が盛んなまちづくり 【南芳タイム】 ・共に生きる ※岩山・啄木詩の道	【国語】 ・日常を十七音で 【社会】 ・方言と共通語 【南芳タイム】 ・地域に学ぶ伝統工芸職人技 【道徳】 ・太平洋のかけ橋 新渡戸稲造
扱う先人	【校訓】 【○久慈次郎】	【○田子一民】	【○葛西萬司】 【金田一京助】	【○大西民子】 【石川啄木】	【○照井栄三】 【長岡輝子】 【鈴木盛久】	【○米内光政】 【原敬】
その他	【揭示】 ・各教室に先人カレンダーを掲示し、盛岡の先人に関心をもつことができるようにする。 ・「先人揭示コーナー」を設置し、盛岡の先人及び代表的な活躍を遂げた本校の卒業生にかかわる情報に接する機会とする。 【先人ゆかり給食】 ・先人たちにちなんだメニューを通して、先人が過ごした生活文化に触れ、行事や栄養面などの知恵や知識に触れる機会とする。 【作品応募】 ・盛岡市俳句・短歌大会、原敬記念館児童生徒作品展、一筆啓上等の作品応募を通して、先人に親しむ機会とする。 【開校記念集会】 ・母校の先人の業績や人柄、学校や地域に関わる逸話を紹介し、先人の生き方や考え、感じ方を学ぶ機会とする。					

再編の視点①時数確保 Before

時数「0」

After

朝会として行っていた開校記念集会と統合し、年間の教育課程の中に先人の学習を「学校行事1」として時数を確保した。

再編の視点②結び付きの強さを生かす配列 Before

本校の先人を全校で集まって年間一人ずつ紹介していた。

After

開校記念集会の内容を「本校の歴史」「本校の先人」と2部構成にした。また、「本校の先人」は、各学年の学習内容と結び付きの強い先人を選び、配列した。

太線：

当該学年の中での関連

細線：

学年をまたいでの関連

再編の視点③盛岡の先人（主な4人）の学びの機会の設定

Before

中学校との確認で挙げられた“概略を学んできてほしい4人の先人”について学ぶ機会がなかった。

After

各学年の中で結び付きの強い人を配列し、6年間を通じて必ずふれるようにした。

- 金田一京助 → 3年生 辞典学習
- 石川啄木 → 4年生 短歌学習
- 米内光政・原敬 → 6年生 社会科・総合

開校記念集会実施計画(129周年) 細案						
9月22日 タイムスケジュール						
時間	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
8:15	朝の会(健康観察程度)					
8:20	移動①開始					
8:30	生活科ルーム		3-2館 WS	あさかげ	体育館	
	本校の先人紹介スタート					
	全体集会(本校の歴史)スタート					
	久慈次郎	田子一民	葛西萬司	1はじめの言葉(副校長)	2城南小学校の歴史(先人担当)	3校長先生のお話
8:45	※3年生は可能であればLoLoノートにてアンケート回答					
	終了後各教室に戻り、タブレット準備(1-3年生が移動し、既に教室が空いている場合はすでに「本校の先人紹介」を開始してよい。)					
8:50	移動②開始					
9:00	体育館		3-2館 WS	各教室	あさかげ	
	全体集会(本校の歴史)スタート					
	1はじめの言葉(副校長)	2城南小学校の歴史(先人担当)	3校長先生のお話	4おわりの言葉(副校長)		
9:20	終了後1年生から各教室へ戻る。			LoLoノートにてアンケート回答後、終了		

【取組③】各学年による実践

6年間を通して本校の先人を学び、「盛岡の先人教育のねらい」の達成と「本校の校訓」を身に付けることができるよう、担当で資料のたたき台となるパワーポイントを作成した。各学年では、その資料を基に（必要に応じて加除修正しながら）9月22日の開校記念集会にて先人の紹介を行った。

（3ページ右下資料参照）なお、6年間誰が担当しても同程度の内容項目が網羅されるよう、パワーポイントには発表者ツールにおける「原稿」も添付している。

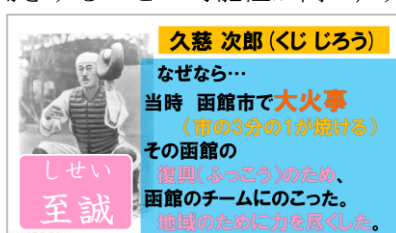
資料作成の際は、中学校との協議で話題になった「先人は素晴らしい生き方をしているが、今の児童と心理的・時間的距離があるのが課題だ」という点に配慮した。

本校出身の先人



1 学年「久慈次郎」

○本県出身の大谷翔平選手→ベーブブルース→そのベーブブルースと戦った日本のキャプテン「久慈次郎」と、身近な（普段見聞きすることの可能性が高い）人からのつながりで紹介した。



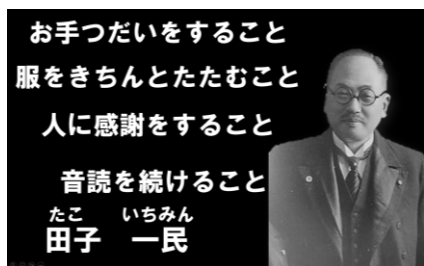
ある日、算数の難しい問題を粘り強く解き終えた支援学級1年生のKさんは「久慈次郎さんみたいにけんにんの心でがんばりました」と発言した。

難しい言葉にも関わらず、具体的なイメージをもつことができたようである。

2 学年「田子一民」

○衆議院議長を務めた政治家「田子一民」の子どもころ実践していたことを主に伝えた。

川徳など、今も残るデパートでの出来事（読書に関すること）などを紹介し、自分たちとの共通点をもたせた。



「お話を聞いて、田子一民さんみたいに、家族や友だちに優しくできるようにぼくもなりたいたいと思いました。」と2年生Eさんは、集会後感想を述べた。

自分に引き寄せてお話を聞いている様子うかがえた。

3 学年「葛西萬司」

○町探検で見えてきた建物「岩手銀行」「信用金庫」や、写真や映像で見たことのある建物「東京駅」「国技館」などの建物から導入を図り、その設計者である葛西萬司につなげた。



3 年生は、町探検で葛西萬司の設計した建物を見てきている。T くんや S さんをはじめ、多くの子どもたちが「あ、知ってる！」「行ったことがある！」「それを作った人なんだ。すごい！」と口々に話した。

身近な建物から、先人とのつながりを意識できたようである。

4 学年「大西民子」

○遠足や今までの町探検で訪れたところにあった「石川啄木の石碑」の写真を紹介した上で、その啄木に憧れて歌人になった「大西民子」を紹介した。

5 学年「照井栄三」

○盛岡市出身の女優（演出家でもある）長岡輝子さんの盛岡弁による朗読を紹介し、その長岡輝子さんが憧れた人として声楽家（朗読でも有名になった）「照井栄三」を紹介した。

6 学年「米内光政」

○城南学区に住んでいたこと、皇后のおじい様が本校出身で「米内光政」の海軍の先輩でもあることなど、場所的つながりと人物同士のつながりを手掛かりにしながら紹介した。

先人新聞

6 年生では、総合的な学習の時間に「盛岡の先人」について情報を集め、特に調べたい人物を設定して学習を進めた。学習のスタートは「将来像をより具体的に描きたい」という子どもたちの思いからであった。その後、「幼少期の様子」や「貫いた考え方」「残した言葉」などを分類・整理・統合しながら、その人物像に迫っていった。その中で、自分の生き方・考え方につなげていきたいこと、強く感銘を受けたことなども記述に残している。

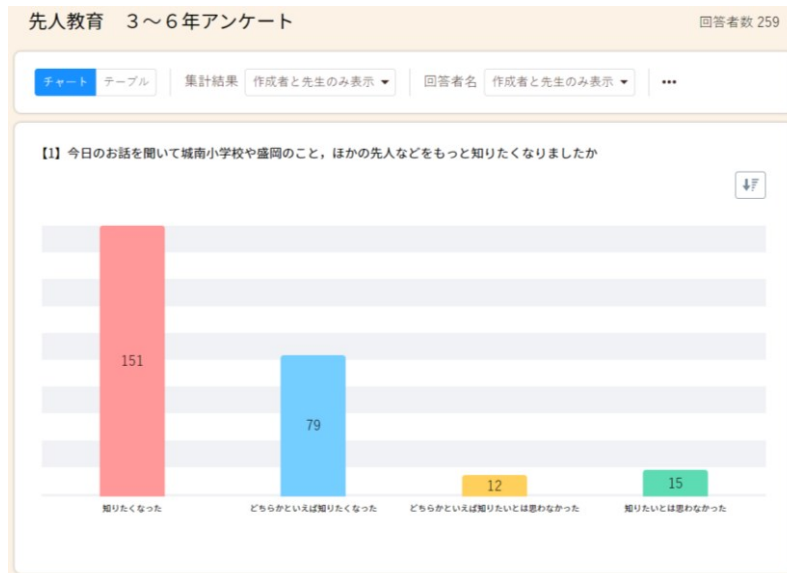
それらの中から情報を精選して、新聞という形で発信する学びを行っている。

【事実】→【人物像】の思考は、具体的な行動や発せられた言葉を分類し、統合しながら言葉を選んで抽象化を図っている。思考のプロセスでの学びがあると同時に、先人の価値高い行動や考え方を自分のもの（言葉）として深く理解することの一助になっている。

まとめ部分には、自分の考え方につながったことなどを記述している。今後、国語の「自分の考えの形成」との関連を図りながら、さらなる高まりを目指していきたい。

【取組④】アンケート調査による実態把握

開校記念集会後、1・2年生は口頭発表のアンケートを、3～6年生は、ロイロノートのアンケート機能を活用して行った。紙面の都合上、アンケートの一部を紹介する。



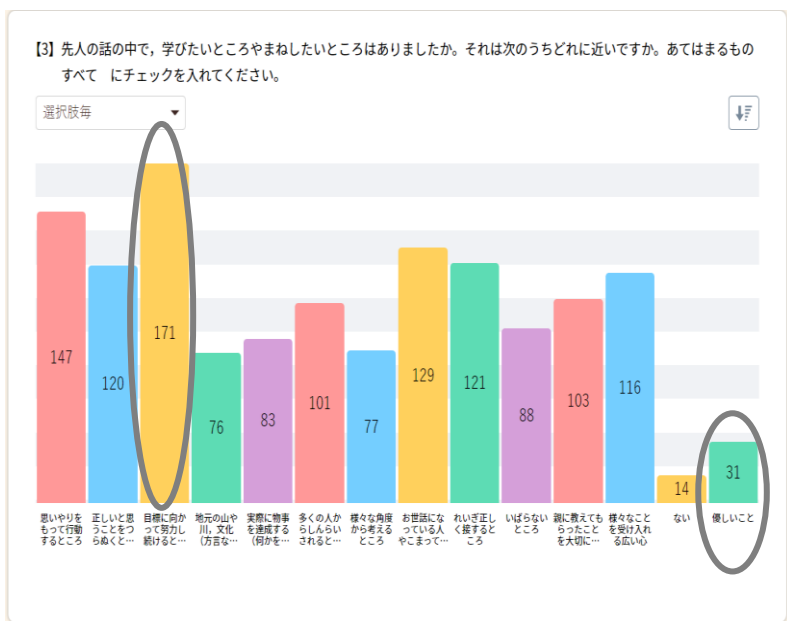
結果

回答者数 257 名中
肯定的回答は 230 名

考察

およそ 90% の子どもたちが本校の歴史や先人について興味関心を高めたことがうかがえる。

しかしながら、今年度が一回目となるため経年変化の観点では分析できない。27 名の子どもたちに特に気を配りながら、目標達成に迫る必要がある。



結果

最も多かった回答は、選択肢③の「目標に向かって努力し続けるところ」の 171 名であった。

次いで選択肢①の「思いやりをもって行動するところ」が 147 名である。

考察

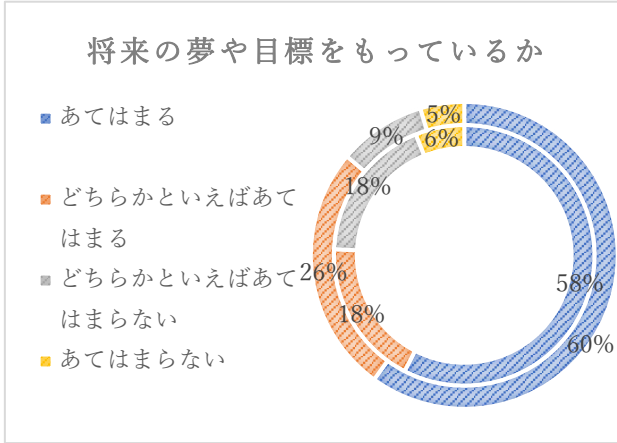
上記選択肢③はいわゆる「志」につながる部分である。その部分の醸成につながったことは先人教育の観点からみても成果と言える。選択肢①は本校校訓「至誠」にあたる。

以上のことから、今回の取組がこれらのことを感じられた内容であったこと、あるいは子どもたちに「至誠」と「志」の視点がすでに育まれてきているとも見ることができる。

また、特筆すべき点として、棒グラフ右端の項目が挙げられる。アンケートの形態を「児童も選択肢の編集可」に設定していた。そうしたところ、4年生児童が選択肢「優しいこと」を自ら作成した。同意した児童がその後 30 名いたことも分かる。提示された選択肢を選ぶだけに留まらず、能動的に先人の学びに向かい、試行している様子も垣間見ることができた。

ロイロノートのアンケートから6年生のみ抽出して、全国学力・学習状況調査（以下全国学調）のアンケート結果と比較してみた。

ドーナツグラフの内側が全国学調時のもの（4月）、外側が今回のもの（9月）である。

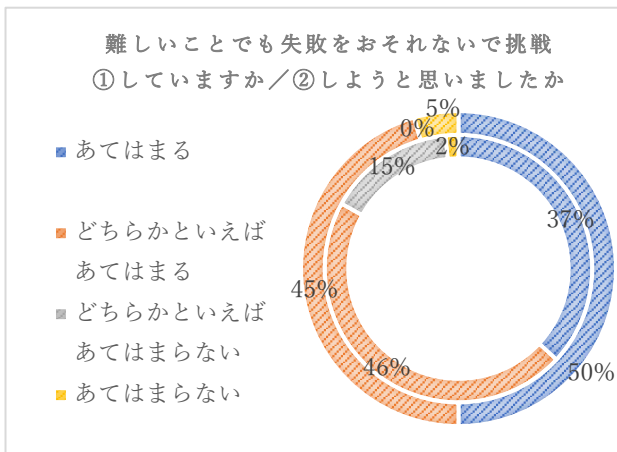


結果

肯定的回答数の割合を全国学調と比べてみると10%ほど増えている。とくに「どちらかといえばあてはまらない」と感じていた児童が「どちらかといえばあてはまる」に移行している。

考察

学調の日以後に行われた総合的な学習の時間における先人学習や本実践などにより、将来の目標や夢が具体的にイメージできてきたと考えられる。

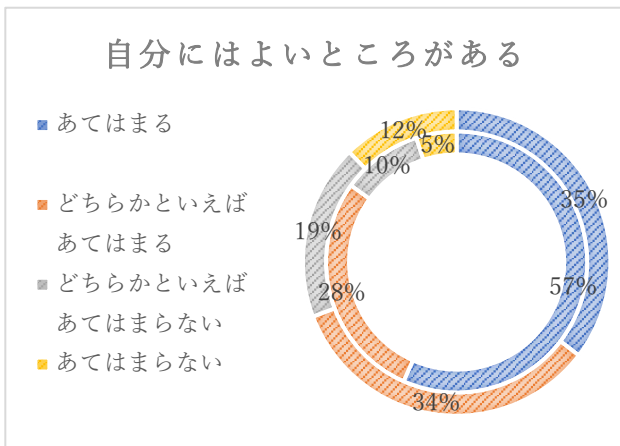


結果

全国学調では、「挑戦している」を選択した児童は83%、先人アンケートでは「挑戦しようとしている」を選択した児童が95%であった。

考察

このアンケート項目は文言が若干異なるため厳密な比較ができない。しかし、児童の大部分は挑戦しようという意思をもっていることが分かった。その気持ちを汲み、経験を積み重ね、自信につながれるとよいと考える。同時に、挑戦しようとする意思があるものの実行に移せずにいる児童12%の理由や原因などの分析を行っていく必要がある。



結果

全国学調と比べると、よいところがあると感じている児童の割合が16%も下がっている。左記のグラフにはないが、「先人のような長所が一つはあると思う」という質問に対しては全国学調の「自分にはよいところがある」とほぼ同数の回答があった。

考察

以上のことから16%の児童は、「自分にはよいところが少なくとも一つはあると自覚しているが、自信をもって言えるほどではない」と考えていることが見えてきた。「一つはある」という認識でいることを生かし、その部分を認め伸ばしつつ、自己肯定感を高める。そうすることで、ほかのことへ挑戦する意欲や自信が生まれてくる可能性がある。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・各学年に関わりの深い先人や先人の愛した場所、ゆかりのある建物などにふれられるように配列することで、子どもたちはより強い結び付きを感じながら学ぶことができた。
- ・「現代の人・現代にある物」など、今の自分が実際にふれられるものを媒介とすることで、子どもたちは先人がより身近に感じられたようである。
- ・6年生段階で、先人の詳細を学びながら自分の生き方・考え方を見つめる学習において、今までの知識や校訓などを生かしながら思考することができ、これからの自分について考えを深めることができた。
- ・3校で計画段階から打ち合わせをすることができ、目標の共有と、内容の整理がスムーズに行えた。
- ・3校の打ち合わせの上で本校の指導体制を再編することができた。時数の確保、6年間分のパワーポイント資料の作成ができ、今後継続的に行える基盤づくりができた。

(2) 課題と改善の方向性

- ・各学年に強い結び付きがある先人を配列した。その上で、今後は学年をまたいでのつながりにも目を向け、学びが積み重なっていくような具体的手立てを考えなければならない。
- ・6年生は先人の姿から学び、自分の生き方・考え方について深める単元が設定されている。先人の資料を読み比べたり、読み重ねたりしていきながら自分の生き方・考え方を見つめ、まとめていく活動であることを考えると、次の点を考える必要がある。一点目は、国語科の目標【思考力・判断力・表現力等 C読むこと「オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」と「カ文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」】との関連性を意識した指導、二点目は、適切な言語活動の模索である。自分の考えをまとめ、表現していく形がどのようなものであると、より必要感をもてるのか、効果的なのかという視点で再編していきたい。
- ・その他の学年では、6年生のように長期に渡って学びを深める時間が確保されていない。開校記念集会での先人学習を通し、どのようなことを考えたのか記述式で振り返るアンケートも行い、考えの形成を図る機会を設定していく必要がある。

令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

将来の夢や希望をもてる子ども
の育成

～「盛岡の先人教育」を通して～

盛岡市立山王小学校

盛岡市立山王小学校 先人教育全体計画

学校教育目標	盛岡の先人教育指導目標
自ら伸びていく力をもった子どもの育成 ・豊かな心をもつ子 ・深く考える子 ・心身をきたえる子	各教科や特別の教科道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、原敬や新渡戸稲造、米内光政などの盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育む。 <キャッチフレーズ> 盛岡の子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を 夢：将来に対する希望。実現したいという願い。自分の目指す理想。 誇り：自分や自分のふるさとに対する愛着。自信。 志：目的や信念をもって実現に向けて努力しようとする決意。

教科・領域などにおける盛岡の先人教育の指導内容

低学年指導目標		中学年指導目標		高学年指導目標	
○自分たちの住んでいる地域やお世話をしてくださる人たちに関心をもたせる。		○盛岡の先人たちに関心を持ち、身近に感じながら、そのすばらしさにふれさせる。		○盛岡の先人たちの生き方から、自らの生き方を考え、市民としての誇りをもたせる。	
各教科	特別の教科 道徳	総合的な学習の時間	盛岡の先人学習室		
○基礎基本の定着 ○日本や世界の人物の生き方や業績を学ぶ。 ○調査やまとめ方、発表の仕方を学ぶ。	○自分でやろうと決めたことをねばり強くやりとげる。 ○相手に尊敬と感謝の気持ちをもつ。 ○郷土の文化や伝統を大切にし、先人の努力を知り、郷土を愛する心をもつ。	○主体的な探究活動 ○自らのよりよい生き方を考える場 ○見学学習、調査学習などの活動	○盛岡の先人たちの学習したまとめを展示する。 ○展示室を工夫して児童の学び場とする。 ○資料の充実を図る。		

<各学年の生活科・総合的な学習の時間における先人教育計画>

年	学習の対象	おもな学習内容
全学年	・先人ゆかり給食 ・盛岡の先人カレンダーの掲示 ・「子どもと話そう～親子の架け橋・一筆啓上～」参加の働きかけ（3年生以上）	・給食を通して、先人たちの生活や生きた時代に関心をもつ。 ・日々の生活の中で盛岡の先人を意識する。 ・盛岡の先人について親子で関心をもつ機会となるよう、参加の呼びかけをする。
1年	〈生活科〉 ・学校だいすき ・おじいさんおばあさんはあそびのめいじん	・自分たちの学校生活を支えてくれる人々がいることを知る。 ・おじいさん、おばあさんのすばらしさ、友達や自分のよさに気付く。
2年	〈生活科〉 ・山王の町にとびだそう ・つくろう！ぼくらの山王まつり	・山王の町のよさに気付き、大切にしたいという気持ちをもつ。 ・盛岡八幡宮の例大祭に関心を持ち、自分たちのお祭りを計画して実行する。
3年	〈総合〉 ・石川啄木	・石川啄木について知る。 （どこで生まれたか、どのような生涯を送ったかなど） ・啄木カルタに親しみながら、俳句、短歌について知る。 ・啄木の句碑を知る。（岩山・天満宮・盛岡城跡公園・駅前など） ・短歌や俳句を作ってみる。
4年	〈総合〉 ・新渡戸稲造 ・金田一京助	・原敬、米内光政、新渡戸稲造、金田一京助について知る。 （どのような生涯を送ったか。どのような人物だったのか。人々のためにどのようなことをしたのか。）
5年	〈総合〉 ・原敬	<先人記念館出前授業> ・学習したことを新聞などにまとめる。 ・これからの自分に向けて、先人の残した言葉や書を書く。
6年	〈総合〉 ・米内光政	・先人学習を通して、自分を見つめなおし、自分の生き方について考える。

学校名	盛岡市立山王小学校	児童数	130名
研究主題	将来の夢や希望をもてる子どもの育成 ～「盛岡の先人教育」を通して～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市教育振興本計画における「目指す市民像」は、「多くの先人を育ててきた美しいふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体を持ち、自ら学び共に生きる未来を創る人」である。それを受け、盛岡市の小中学校では、各教科や特別の教科道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、原敬や新渡戸稲造、米内光政などの盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むとした「盛岡の先人教育」を行っている。

本校は、学校教育目標を「自ら伸びていく力をもった子どもの育成 ー豊かな心をもつ子 深く考える子 心身をきたえる子」としており、「目指す市民像」と重なる部分が多い。また、様々な学力調査の質問紙の集計結果を見ると、本校は「自分にはよいところがあると思う」という項目が低く、これも「盛岡市の先人教育」の第1期推進計画にあった「課題」と合致している。

そこで、前述の推進計画の「今後の方向性」にある「小中9年間の系統性を踏まえた『盛岡の先人教育』の実践の充実」を図ることにより、同じ課題をもった本校の児童の自己肯定感を高め、将来の夢や希望をもてる子どもを育成するため、本主題を設定した。

2 研究の目標

盛岡市の先人たちの生き方や考え、業績などを学習することを通して、目標や信念をもって努力することの大切さを学び、将来の夢や希望をもたせる。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・ 中学校までの9年間を見通し、小学校では、盛岡の先人5名の業績や人となりや学年に応じ一通り学ぶ機会を設け、中学校でより深く学ぼうとする礎を築く。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・ 学年ごとに、教科や学習する内容とできるだけ関連付けて、全員が盛岡の先人5名について調べたり、知ったりできるようにする。(例) 3学年：理科・社会で行う岩山探索の時、岩山に多くの啄木短歌の石碑があるので、啄木に興味をもたせやすいので啄木を扱うようにする。
- ・ 中学校と連携を図り、盛岡の先人についての中学生の発表を聞く機会を設けることにより、中学校での活動の見通しをもち、学習活動に対する憧れをもてるようにする。(この内容については「城東中学校」の実践報告を参照のこと。)

4 取組の概要

単元名	もりおかのせんじんをしろ	学年	第1学年
-----	--------------	----	------

(1) ねらい

盛岡市には、様々なことで活躍した人たちがいることを知る。

(2) 活動の様子

- ① 先人カレンダーを見て、どんな人がいるか知らせた。原敬など聞き覚えのある名前を知っているものの、どんな人なのかはわかっていない。そこで、簡単に先人についての話をした。
- ② 先人給食のとき、どんなことをした人物か、好んで食べたものは何かを聞いて、今との違いに驚いたり、給食を味わって食べようとしたりしていた。
- ③ 心に残った給食についておうちの人に話し、おうちの人子どもだった時、どんなものが好きだったのか、また昔はどんな給食だったのかなどを聞くことにした。

単元名	先人を知ろう	学年	第2学年
-----	--------	----	------

(1) ねらい

先人の名前と顔が分かり、簡単な功績を知ることができる。

(2) 学習内容

- ① 先人の名前と顔が分かる。(朝学習)
 - ・先人カレンダーの活用
 - ・盛岡には素晴らしい多くの先人がいることを知る。
- ② 先人の簡単な功績を知る。
 - ・先人ゆかり給食の時に、栄養教諭から出された先人についての資料を読み聞かせをした。また、好きだった食べ物や時代背景、どんなことをした人なのかを補足説明した。
 - ・朝読書時間に、石川啄木について「盛岡の先人」の読み聞かせをした。短い生涯であったが自分の思いを歌で表現したことを知った。また、石川啄木の歌にふれた。

「先人ゆかり給食(金田一京助)」の資料→

きん だいち きょうすけ せんじん きゅうしよく
金田一 京助 先人ゆかり給食



【金田一 京助の紹介】

- 1882年(明治15年)5月5日 盛岡市四ツ茶坊(現在の本町通)生まれ。
- 日本を代表する言語学者の一人。アイヌ語(北海道やサハリンに昔から住んでいたアイヌ民族の人々が使う言葉)の研究で有名。
- 時代かなづかい(例:てふてふ→ちよちよ/けふ→今日)や歌謡など、今わたしたちが使っている日本語のまじりものをつくる。
- 金田一京助が中心となつてつくられた国語辞典や教科書などが多くある。



アイヌの人たち

金田一京助は、大学の先生の影響で、それまで誰も研究してこなかったアイヌ民族の人たちの言葉である「アイヌ語」の研究を始めます。その縁もあり、アイヌ民族の人たちとの関わりも大きかったようです。そこで、今日の給食には金田一も食べたであろうアイヌの食事を取り入れました。

『ハスカップゼリー』

ハスカップは、北海道でとれるブルーベリーに似た果実です。もともとは、サハリヤンやシベリアなどの寒い地域でとれるものでした。『ハスカップ』は、アイヌ語の「ハツカブ=根の上になくさんなるもの」からきています。



『かぼちゃと豆のラタトゥイユ』

『ラタトゥイユ』とは、山菜、野菜、豆など数種類の食材を混ぜ合わせて煮るアイヌ料理の一つ。冬は寒さが厳しく作物がとれないため、アイヌの人たちは暑からぬかして乾燥させた保存食ながら食べていたそうです。今日は、かぼちゃと豆を使ってラタトゥイユを作りました。



『揚げだし豆腐のきのこあん』

豆腐は、金田一の一番の大好物でした。夏は冷感、冬は湯豆腐など年中とおして食べたそうです。また、ハツタケというキノコが好きで、よくハツタケ狩りをしていました。この話から、今日は揚げ豆腐にきのこあんをかけてみました。



ハツタケ

『雑穀ごはん』

アイヌの人たちは、かなり古い時代からヒエやアワを栽培していました。これらの雑穀を、普段はおかゆにして食べたり、儀式のときには団子にして食べたりしていたそうです。今日は、ヒエとアワをごはんに混ぜて飲みました。



『チュエオハワ(鮭の具だくさん汁)』

アイヌ民族の言葉で「オハワ」は「汁」という意味。山菜、野菜、肉や魚などを煮て、器や塩で味付けをした料理です。基本的に奥だくさんの汁物で食材が魚であれば「チュエオハワ」、肉だと「カムオハワ」と言うそうです。



チュエオハワ

単元名	石川啄木について知り、作品に触れよう。	学年	第3学年
-----	---------------------	----	------

(1) ねらい

石川啄木の生涯や短歌に込められた思いを調べたり、短歌に触れたりすることを通して、啄木の郷土への思いの深さを知り、自分の郷土や家族への思いを新たにします。

(2) 指導計画

段階	内容
導入（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> 盛岡の先人たちの写真や年表から、石川啄木について関心をもたせる。 学習問題を設定する。
展開（3時間）	<ul style="list-style-type: none"> どんな人物かを調べる。 啄木の短歌に親しむ。（岩山の「啄木詩の道」と「啄木かるた」）
終末（1時間）	<ul style="list-style-type: none"> 啄木はどのような人か自分の考えを書く。 自分の郷土への思いを込めながら、俳句を作る。 学習のふり返しをする。

(3) 活動の様子

① 課題設定

「盛岡の先人たち」の表紙に写る5名を見比べ、啄木だけ若く見えることに気付いた。そこで、年表を調べ、啄木だけがとても短い生涯であったことを知った。そこから、「なぜ若くして亡くなったにも関わらず、多くの人たちから認められているのか。石川啄木は、どんなことをした人なのだろう。」という理由が設定された。

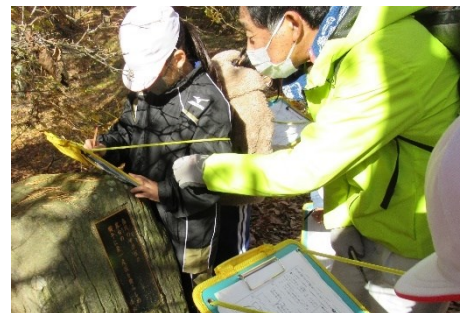
② 調べる活動

児童はインターネットを使い、盛岡や盛岡以外の場所にも、啄木の句碑が多く存在することを知った。また、教師から提示された資料でおおまかな生涯と結び付けたことで、故郷の「岩手、盛岡、渋民」だけでなく、他の地でも生活していたことを知ることができた。

③ 親しむ活動

- ア 岩山の散策：「啄木詩の道」や石川啄木の銅像
- イ 「啄木かるた」

総合的な学習の時間の岩山登山と並行して行い、啄木の短歌や銅像に関するクイズに挑戦した。また、学校では「啄木かるた」を数回行った。その結果、楽しみながら数多くの短歌に触れ、啄木の詩には「啄木自身の生活や歌人としての苦労、故郷や家族などを思う気持ち」が、多く綴られていることに気付いた。



④ 学習のまとめ

- ア 啄木はどのような人物か、これまでで知ったことや児童が思った人物像を文章で書く。

啄木の生涯のおおまかな出来事や作品を知っただけではなく、歌人としての苦労と家族や友人との思い出を大切にす気持ちを感じ取ったことがうかがえるまとめの記述が見られた。

〈児童の記述①〉

啄木は死ぬ前は詩集が売れなくてびんぼうだったけど、死んでからは友人たちががんばってくれたおかげで、今はとても有名になることがかないました。昔も今も「チームワーク」「友達」は大事なのだなと思いました。

〈児童の記述②〉

さい後まで、いろいろ詩に書いて死んでしまったから、啄木は「さい後まであきらめずにやる人だ」と思いました。

イ 自分の故郷をテーマにして、啄木のように郷土や家族・友だちへの思いを深めながら、俳句を作成した。

ウ 自分の郷土・家族への思いを文章で書く。

児童は、自分が生まれ育っている郷土、家族や友達との思い出がつまった時間や場所を、「価値ある大切なもの」とであると、改めて思い直していた。

〈児童の記述①〉

ぼくは生まれた場所のことはおぼえていないけど、今、ぼくは啄木が思ったようになつかしいなあと思います。啄木のように、はなればなれにならないで、ぼくとぼくの家族が、今くらしていることがよかったなあと思いました。

〈児童の記述②〉

家族がいたから今の自分がいるので、家族にかんしゃする気持ちが大切だと思います。

単元名	盛岡の先人のみりょく、発見！	学年	第4学年
-----	----------------	----	------

(1) ねらい

新渡戸稲造と金田一京助の生い立ちや業績を知り、盛岡の先人を身近に感じ、誇りをもつようにする。

(2) 指導計画

段階	内容
導入（6時間）	・副読本「盛岡の先人たち」を読み、金田一京助と新渡戸稲造の生い立ちや業績の概要をつかむ。 ・盛岡市先人記念館の出前授業を通して、自分の課題を決める。
展開（5時間）	・2人の先人のうち1人を選択し、課題解決のための見通しをもつ。 ・調べ学習を行い、まとめる。
終末（2時間）	・まとめたことを交流し、学習を振り返る。

(3) 活動の様子

① 盛岡市先人記念館出前講座「金田一京助・新渡戸稲造」

副読本「盛岡の先人たち」を読むだけでは児童にとって内容が難しい部分もあるが、先人記念館の方のスライドを使った分かりやすい説明を聞くことで理解が深まり、2人の先人への興味関心を高めることができた。

② フォトコラージュ作り



先人が生きた時代背景や彼らの業績について児童が長い文章でまとめることは難しいと考え、フォトコラージュにしてまとめた。先人に関する写真を集め、どの写真を使い、説明するかという観点で情報を取り扱うため、主体的に考える場を増やすことができた。



③ 先人学習で学んだことを3年生と交流

朝読書の時間に先人学習でまとめたものを読み合い、感想を付箋に貼って伝えた。異学年交流を通して、昨年自分が学習した先人を思い出したり、来年自分が先人学習する際の見通しをもったりすることでできた。また、学級以外の友達に認められる喜びを感じる姿も見られた。

単元名	資料を使って原敬について書こう	学年	第5学年
-----	-----------------	----	------

(1) ねらい

原敬の生き方を調べ、意見文を書くことを通して盛岡の先人についての理解を深める。

(2) 指導計画

導入 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・原敬について調べ、自分の考えをもつ。 ・意見文の書き方、組み立てを知る。
展開 (4)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに合った資料を選び、資料からわかる事実と、そこから考えられることを書きだす。 ・組み立てメモを書き、資料を用いた意見文を書く。
終末 (1)	<ul style="list-style-type: none"> ・書いた文章を友達と読み合う。 ・学習のまとめをする。

(3) 活動の様子

① 調べる・考えをもつ

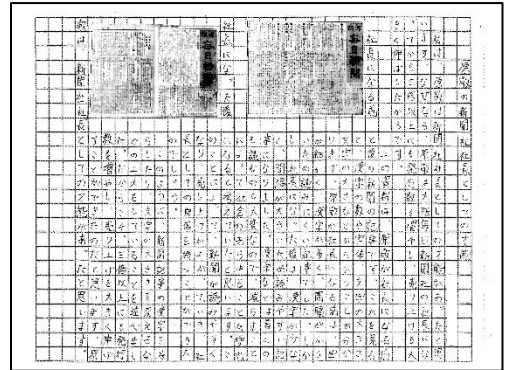
夏休みの課題で盛岡の先人たちのことを調べた経験もあり、原敬の名前や生き方を知っている児童は多かった。意見文を書くために、「原敬は〇〇な人」「原敬から〇〇のことを学ぶことができる」の形で自分の考えをもたせた。

<児童の考えの例>

- ・原敬から、目標を達成しても努力を惜しまず、さらに上を目指すことを学べる。
- ・原敬は、たくさんの努力をし、常に人に思いやりをもっていた人
- ・原敬から、平等に接するということを学べる。・原敬は、新聞社社長としての才能がある人
- ・原敬は、日本を大きく変えた人
- ・原敬は、母思いのとても優しい人

② 書く

自分の意見に対し、根拠となるような資料を選ばせた。「資料の説明」「資料からわかること」「思ったこと・考えたこと」を構成メモに書き出し、意見文の例を見ながら、文末表現を真似して書かせた。資料をよく見て、情報を読み取る活動にもなった。また、1つの出来事をピックアップして書かせたので深い学びとなった。

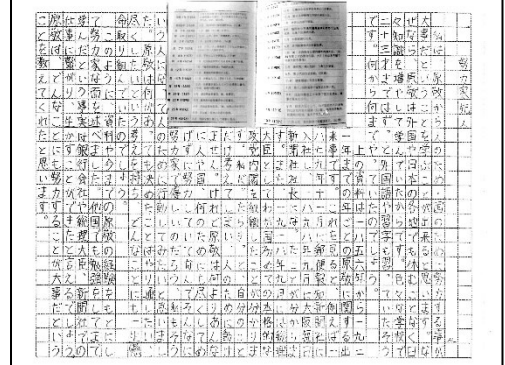


③ 読み合う

友達の書いた文章を読み合い、新しく知ったことなどをノートに書かせた。

<児童の感想>

- ・友達と文章を読み合ってみて改めて本当に原敬はすごいと実感しました。いろいろな人と読み合ったのに、内容が被ることなく一人一人それぞれ違った考えが見られました。そこまで多くのすごいこと、学べる事があるなんて本当に愛されていたのだらうと思います。私も原敬のように人のために尽くしてみんなのためになってみたいです。
- ・私は、原敬のことを調べてみて、いろんなことをした人だと思いました。国のため、国民のために努力をしていたと他の人の文章を読んで感じました。原敬のことが書いてある本を読んで、原敬はすごい人だけど、全てうまくいったわけではなく、少しはつまずいて、それでも努力し続けたのだと分かりました。そこから学べることもあると思いました。



単元名	盛岡の先人を知ろう～米内光政～	学年	第6学年
-----	-----------------	----	------

(1) ねらい

盛岡の先人の業績を知り、その業績の裏にある先人の生き方に学び、自己のこれからの生き方を考える。

(2) 指導計画 (12時間)

段階	内容
導入 (4時間)	オリエンテーション ・今の自分を振り返る。 ・「盛岡の先人」を読むなどし、知識を広める。 ・課題づくり、学習の見通し
展開 (6時間)	・調べる1 課題に沿って資料を使って調べる。 ・出前授業 先人記念館の出前授業を活用して、理解を深める。 ・調べる2 まとめる 調べる活動と並行してまとめていく。
終末 (2時間)	・発表会 ・ふりかえり

(3) 活動の様子

【導入】

- ・全国学力テストにおいて、自分の良さを肯定的にとらえられない児童が全国平均より多く見られた。また、将来の夢や目標をもてずにいる児童もおり、そのため、導入段階で、今の自分について、将来の事、夢について考える時間を設け、先人学習を進めた。

【展開】

- ・調べ学習の段階で、米内光政の生涯は歴史との関連性が強く、時代の流れや背景を知らなければ理解が難しかったり、自分の課題に沿って進めていくにつれ、新たな疑問が出てきたりして、なかなか課題に迫ることができずにいた。しかし、先人記念館の出前講座によって、解決できた部分が多くあり、理解を深めることができた。
- ・先人の業績を調べることにより先人の志や生き方について考えることができ、今の自分を見つめなおす機会となった。また、これからの自分の生き方に関わるような考えをもつことができ、キャリア教育と関連付けながら学習を進めることができた。



【終末】

- ・まとめ・発表はパワーポイントを使用した。シートの構成を考え、内容を厳選することにより、より相手に伝わる発表を意識することができた。
- ・同じ人物を調べたにもかかわらず課題によって調べる視点が変わり、友達の発表を興味深く聞くことができた。また、米内光政の生き方と照らし合わせて自分のこれからのについても発表したことにより、新たに友達の考えや思いを知り、相互理解につながった。
- ・学習後、全国学力テストと同様のアンケートを取った結果、自分の良さを肯定的にとらえる児童がやや増えた。また、将来の夢や目標を全くもてなかった児童がいなくなり、当てはまると答えた児童が増えた。



5 成果と課題

(1) 成果

- ・高学年では、先人記念館の方のお話を聞くことで、資料では調べられなかった具体的な話をお聞きすることができ、学びを深めることができた。
- ・活動後の児童の感想などを見ると、学年が上がるにしたがって、先人の業績を知るだけでなく、自分の生き方の参考にしようとする児童がふえていったことがうかがえる。

(2) 課題

- ・これまでの学習を継承しつつも、より効果的な学習がないかどうか試行錯誤しながら実践を深めていきたい。例えば、業績をなぞるだけでなく、そのような業績を残せた裏にある先人の努力や考え、行動などをうかがい知ることのできる資料をさがしたり、教材化したりできると良い。

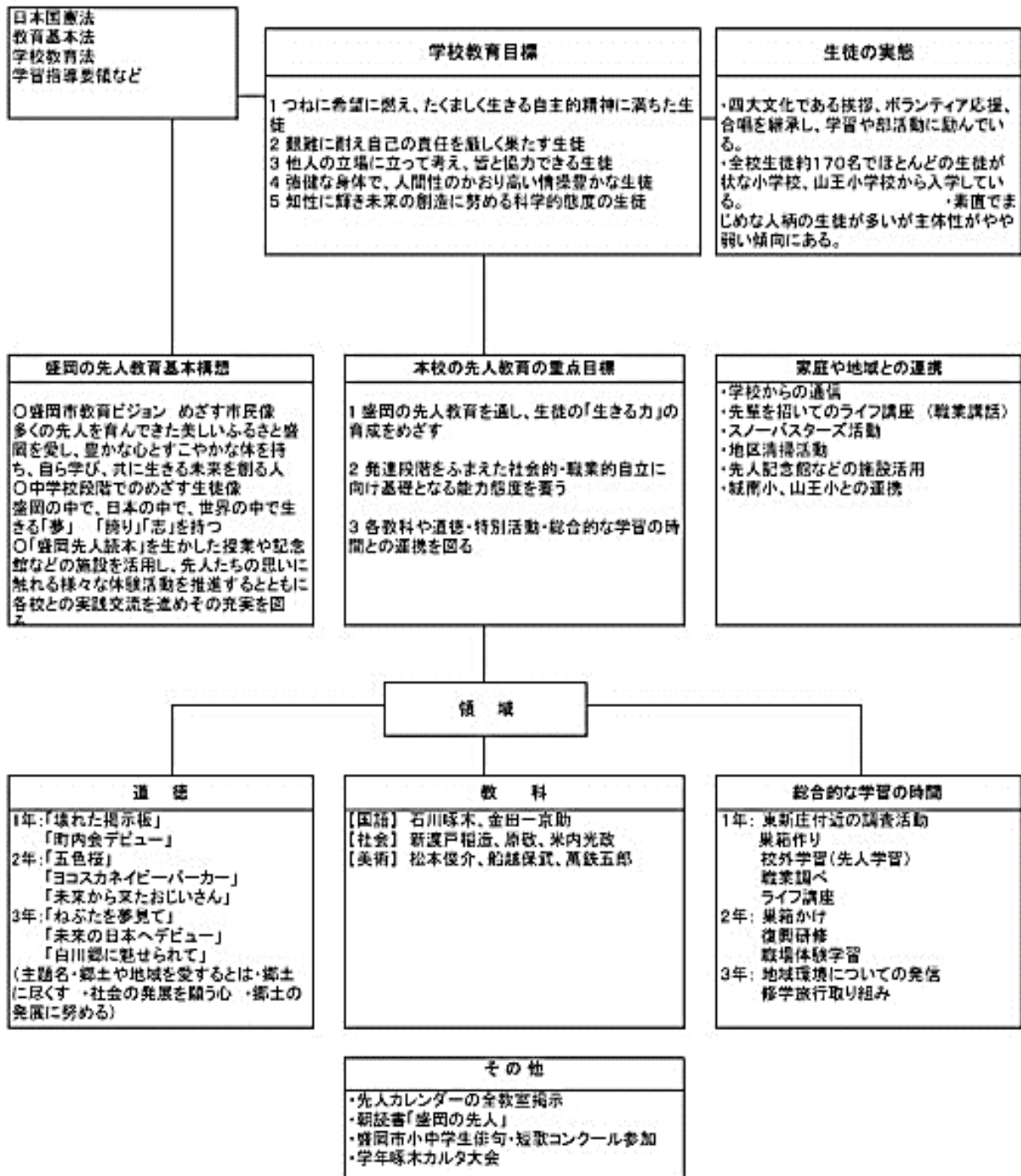
令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

＜研究主題＞

**盛岡の先人教育を通じた生徒の
「生きる力」の育成
～伝える活動を通して～**

盛岡市立城東中学校

先人学習全体計画



学校名	盛岡市立城東中学校	生徒数	170名
研究主題	盛岡の先人教育を通した生徒の「生きる力」の育成 ～ 伝える活動を通して ～		

1 研究主題設定の理由

盛岡の先人教育振興基本構想によれば『盛岡の中で、日本の中で、世界の中で、「夢」と「誇り」と「志」を持つ』ことが中学校段階でのめざす子ども像である。一方、本校における先人教育は「盛岡の先人に学ぶ」と題した校外学習を中心的な行事に据え、主に総合的な学習の中で取り組みを深めてきた。盛岡の先人の生き方を学ぶことで、予測困難な時代を生き抜き、自己実現を果たすたくましさとしなやかさを身につけてほしいと考え、本主題を設定した。

また、活動の目玉となる取り組みとして小中交流会を設定した。小学生への伝え方を模索する中で先人への理解をより深め、豊かな情報発信力を身につけさせたい。併せて、対象となる小学生には中学生が発表する姿を通して中学校生活への期待を持たせたい。

2 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・盛岡市先人記念館、原敬記念館、石川啄木記念館などと連携した先人学習「プロジェクト盛岡の先人の魅力を伝えよう」を実施する。
- ・事前学習やまとめ、小中交流会でのプレゼンテーションにタブレットを活用し学習を深める。
- ・従来は先人学習で学んだ内容を個人またグループでまとめ同じ学年の生徒に発表していた。今年度は小学生に「先人の魅力をどうしたら伝えられるか」を生徒に考えさせる探求的学習を仕組むことで以下の力を身につけさせたい。
 - ①交流会本番のゴール達成のため、逆算しながら取り組みを進める力（計画）
 - ②本番で練習の成果を発揮する力（本番）
 - ③本番を振り返りより良く改良する力（振り返り）

(2) 小中連携の工夫および配慮

- ・2学期にまたがる取り組みのため、生徒の意欲が持続するよう①どの先人について学ぶか②どのような形式でまとめるかを生徒に選択させた。
- ・小学校との事前打ち合わせで小学校の学習内容を確認し、交流会で小学生が関心を持ち参考となるような構成を工夫した。

3 取組の概要

単元名	【総合的な学習の時間】 プロジェクト「盛岡の先人の魅力を伝えよう」	学年	1 学年
-----	--------------------------------------	----	------

(1)ねらい

小学生に「先人の魅力をどうしたら伝えられるか」を生徒に考えさせる探求的学習に取り組ませる。

- ①交流会本番のゴール達成のため、逆算しながら取り組みを進める力（計画）
- ②本番で練習の成果を発揮する力（本番）
- ③本番を振り返りより良く改良する力（振り返り）の3つの力を身に付けさせる。

(2)指導計画（24時間計画）

	月日	活動内容	コマ		月日	活動内容	コマ
①	6/7	先人学習オリエンテーション	1	⑫	8/31	グ・まとめ③	1
②	6/17	グ・「相手に魅力が伝わる発表」	1	⑬	10/5	グ・交流会リハーサル	1
③	6/23	グ・「訪問前に得られる情報」	1	⑭	10/7	交流会学年リハーサル①	1
④	6/24	グ・「発表の構想」	1	⑮	10/11	グ・修正リハーサル	1
⑤	6/28	グ「訪問先でほしい情報」	1	⑯	10/18	交流会学年リハーサル②	1
⑥	7/6	タブレット・日程の確認	1	⑰	10/19	山王小学校交流会	2
⑦	7/7	校外学習（行事）	6	⑱	10/25	グ・振り返りと修正	1
⑧	7/8	グ・まとめ①	2	⑲	11/1	学年修正リハーサル	1
⑨	7/15	学年啄木かるた大会	1	⑳	11/16	交流会学年リハーサル②	1
⑩	8/19	交流会オリエンテーション	1	㉑	11/18	城南小学校交流会	2
⑪	8/26	グ・まとめ②	1	㉒	11/22	先人学習全体の振り返り	1

グ・はグループでの活動

(3)活動の様子

① 校外研修



8時間の事前学習の後、石川啄木記念館、先人記念館、県立美術館、原敬記念館を訪問した。施設により多少異なるが、事前に申請を行えばタブレットでの撮影が許可された。デジカメなどに比べ撮影したデータの処理・加工がしやすく便利さを実感した。岩手山の風景、木造校舎や茅葺の家屋、手書きの資料などに触れ先人をより身近に感じることができた。

②学年カルタ大会

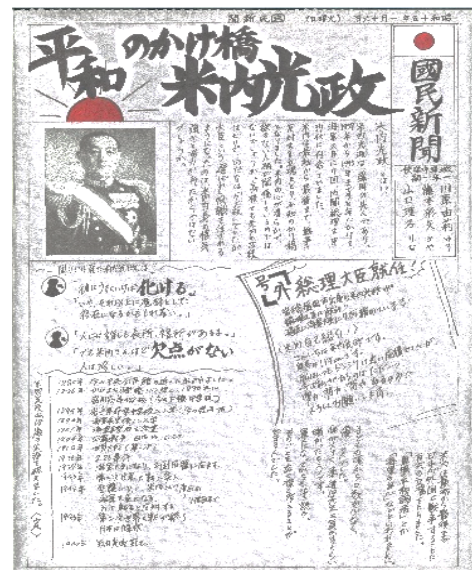


体育館で学年啄木カルタ大会を行った。10個の班で予選を行い、代表10人による決勝戦と代表井垣の生徒で学級対抗戦を行った。大会を盛り上げるため応援や拍手などの態度も学習し、小学校との交流会に活かすことができた。

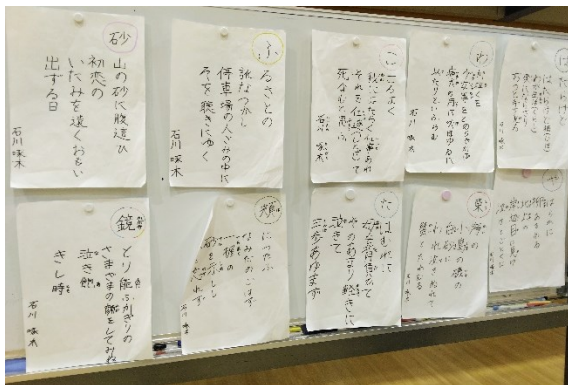
③小学校との交流会



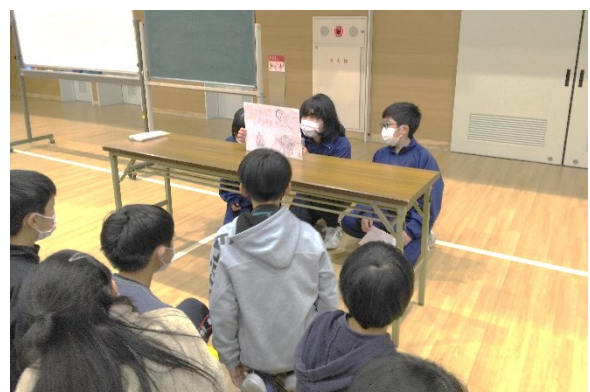
【 新聞 】



【 カルタ 】



【 マンガ 】



【 パワーポイント 】



【 演劇 】



④小学生からの感想

山王小学校との交流会の後、小学生から感想が届けられた。丁寧に描かれた表紙や「発表の〇〇〇〇が参考になった」「自分の発表で〇〇〇〇を取り入れたい」といったコメントが生徒の意欲につながった。

自分は内容の面で、ぼく達にわからずらいために、ぼく達でもわかるような言葉を使って説明してもらいました。また、他の視点からも自分達に演劇やカルタを使って伝えてくれました。その中でも、パワーポイントでの写真を使った説明がわかりやすかったです。なぜなら年表や先人が行った事を表を使って、わかりやすく説明してくれたからです。

自分は、この事を学んで、今後の総合(歴史)の学習でも、もと使っていきたいです。今日は、本当に盛岡の先人の説明をしていただき、ありがとうございます。

ありがとうございます。総合の発表のやり方で、演劇チーム、カルタチーム、新聞チーム、マンガチーム、プロジェクトチームなど5種類のチームに分けてくださり、とても分かりやすかったです。今回の1年生の発表を、これからの6年生の総合学習で参考にさせていただきます。ぜひ、みなさんの発表を見て、説明の仕方、プロフィールから発表しているところ、川原を学んで発表するところがすごいと思いました。

今日は、みなさんのおかげで楽しく学びました。本当にありがとうございました。

城東中学校 1年生の皆さんへ

先日は先人について教えてくださりありがとうございました。パワーポイントや劇など、さまざまな形で発表していただき、見てとても楽しかったです。

6年生では今、米内光政について調べています。発表を見て、自分ももっと知りたいと思ったことがたくさんありました。クイズやカルタで実際に発表にも参加して楽しめました。より頭に入ってきたと思います。また新聞では、米内光政について、さまざまなコーナーに分けて書かれています。見出しも読み手の心を引きつけるようになっていました。さらに新聞らしい装飾もあって、ぜひ読んでみたいと思わせるようになっていました。

先日は本当にありがとうございました。私も総合学習でみなさんのような聞き手の心を引きつける発表ができるようがんばります。

⑤城南小学校交流会に向けての改善シート

- ①本番に向けてゴールを達成するために計画と取り組みを逆算で考える力(計画)
- ②本番で、練習の成果を発揮する力(本番)
- ③本番を振り返り、よりよく改良する力(振り返り)

そこで、前回の山王小学校での発表を以下の観点で振り返り、次の城南小学校でさらに良い発表にできるよう、改善に挑戦しましょう。

①「本番の発表」を振り返って

・ 実際に行ってみないとわからないこともあって、練習どおりに上手くいかないところもあったけど、自分たちなりにフォローし合うことができたので良かったと思う。次は流れがある程度わかっている状態だと思うので今回以上に良い発表にできるようにしたいです。

②「参観の態度」を振り返って

・ もう1つのかるたグループが発表しているときに盛り上げることにできました。参加してくれた小学生のみんなも、ルールを説明したときに1回で理解してくれて、そのおかげでスムーズに進められて良かったです。

全体的にスムーズに進めることができました。PCも話しながら、良いタイミングで動かせた。反省点は、クイズのとき手が上がらないうわさりを考えていなかったこと。だから、城南小での発表のときは手が上がらないうわさりを何秒待つか、どう話すかを考えた上で発表したい。

カルタのシミュレーションと中間発表のタイミングを話し合っていた。何周するのかを決めていなかった。五・七・五・七・七のリズムでしっかりと読めた。

①6年生が楽しめるよう、拍手のタイミングができた。
 ↓↓
 6年生がもっと盛り上がるように場に合ったふんばりを出す

より分かりやすく伝えるためには、題名で何を伝えるのか、分かるようにしたり、写真を活用することで、言葉だけでなくおもしろいところや読む気になったりすること

振り返りの時間の導入では、客観的に自分たちの発表を見て振り返り、発表についてお互いアドバイスをした。また、個人の振り返りはグループ内で共有されて改善に活かした。プロジェクトが行った発表の評価について、5段階で振り返って可視化することができれば、より効果的であったと考えている。そうすれば、課題のみでなく成果も交流されるので、その後の発表に向けた強化や深化が期待される。

⑤ 先人学習全体の振り返りシート

先人学習：盛岡の偉人の魅力を伝えよう【発表に関する まとめ】

【情報を発信する力を高めるために】

① 「本番の発表」を振り返って

- ・山王小学校と城南小学校での発表を経て、自分自身で改善に向けて工夫したところはどんな部分ですか？
- ・他者の発表を振り返り、どんな発表が記憶に残っていますか？ それはなぜですか？

最初は、効率の良い発表の仕方わからず、悩んでいて、話し合いを重ね、相手にいかに伝えるように大きな紙に拡大で見せるなどの工夫をしました。
 新聞のチームが、現代ではなく昔の新聞をイメージして、自分の感想やアイデアを載せました。

- ② 今後は、総合的な学習の時間だけでなく、入試や校内で発表をする機会が増えていきます。そこで、「よい発表」をするにはどのようなことに気を付けられたいと思いますか？ 以下にまとめてみましょう。

今回、私たちが実践したように、まずはどのような発表にしたいかをイメージして練習し、改善すべきところを実際に改善していくと良いと思います。それから、自分たちの現状を確認することが必要だと思います。

・1回ごとに声の大きさを意識して裏からのセリフを言うときも、大きい声で発表するところを工夫した。・カルタで相手を楽しませるように工夫していた。

- ② 今後は、総合的な学習の時間だけでなく、入試や校内で発表をする機会が増えていきます。そこで、「よい発表」をするにはどのようなことに気を付けられたいと思いますか？ 以下にまとめてみましょう。

明るい声で、はっきり話すこと、伝わりやすい表現にしたことなどを工夫した。えんぴつチームの発表が記憶に残っている。発表時のことだけでなく、余った時間、アドリブで話している場を盛り上げていたところがいいと思った。

- ② 今後は、総合的な学習の時間だけでなく、入試や校内で発表をする機会が増えていきます。そこで、「よい発表」をするにはどのようなことに気を付けられたいと思いますか？ 以下にまとめてみましょう。

・どんな事が起きても大丈夫なように、事前準備をしておく事。

・明るい声、伝わりやすい言葉遣い、はっきり、一生懸命、分かりやすく、大きい声

しっかりその立場になって考えて発表すること。相手の立場になって、どんなことが大切かをはっきりさせて発表した。

米内光政の人生やすごいところが分かったので、小学生にも伝えるように大きい新聞で見やすくしたり、クイズを出したりした。このような工夫をすれば、小学生に伝わりやすいことを学んだ。

生徒の振り返りの記述からは、メタ認知能力の差が見られた。今後の総合的な学習の時間において、より探求的に目標に向かって自己改善できるように支援していきたい。

各小学校へは徒歩で移動した。こういった経験は初めての経験であったため、集団作りの視点から考えても学びとなった。また、次年度に本校に入学してくることを加味すると、後輩となる児童との初の交流の場でもあったため、参観の態度や先輩としての在り方についても考えることができた。

4 研究のまとめ

(1) 成果

○能動的な態度の育成

探求的な活動を仕掛けるうえで最も大切なのは、生徒自身が学習内容に対して当事者意識をもって取り組むことができるかどうかである。そのために、教師が指示したことを忠実にを行うという「受動的な態度」から一歩踏み込み、生徒自身が発表の仕方等について自己決定をする場面を設けて、さらに個人での活動ではなく、目標を共有するグループを作って活動をするプロジェクト型の学習形態が効果的であること感じられた。

○小学校での学習からの系統性を踏まえた学習の展開

三校合同会議の場で、各校の先人学習の内容を把握したことで、「小学校では何をどこまで学習すれば中学校での学習がスムーズに進められるのか」「中学校ではどのような形で自分たちの学習内容を伝えれば小学生の学習に役立つのか」を踏まえた小中交流会を実施できた。また、単元計画を立てるうえで、外化することを前提として知識を獲得することで、より深い学びにつながったと考えている。

○修正能力の向上（メタ認知能力の向上）

1回目の交流会後、先生や生徒から具体的な評価や励みとなる感想をもらったことで、2回目の交流会がよりよい発表になるよう、前向きに修正に取り組むことができた。また、グループ内でよい部分を交流することによって、自分では気づくことができない長所や修正点に目を向けて修正をすることができた。

(2) 課題

▲「知識を自分の生き方に当てはめる」

先人の生き方や偉業等を知ることや伝えることはできているが、自分自身とより深く紐付けて考え、行動に移すことができれば、さらに学びの価値が高まると考えている。今後の学校生活やキャリア教育の中でも、先人について折に触れながらより深い学びにつなげていきたい。

▲「より効果的な学習方法の確立」

今回の指導を振り返ると、次回の探求活動では、さらによりよい指導方法や学習方法の提示ができると考えている。例えば思考ツールを活用して先人の行動や思いを可視化してセッションをしたり、ブレーストーミングやKJ法を使いながらさらにテーマを絞ったり、さらにロイロノートを活用したりできたと考えている。今後も生徒とともに我々教員も新たな知識や技能を獲得して今後の教育活動に活かしていければと考えている。

今回の小中連携を振り返って

カリキュラムマネジメントの視点から交流会の実施を振り返ると、コロナウイルス感染拡大の中、スケジュール調整や変更等、小学校の皆様には多大なご理解と尽力をいただいた。また、校外学習においても先人記念館の皆様や地域の皆様からも価値ある指導を頂戴することができた。この場を借りて感謝の気持ちを伝えさせていただきたい。誠にありがとうございました。

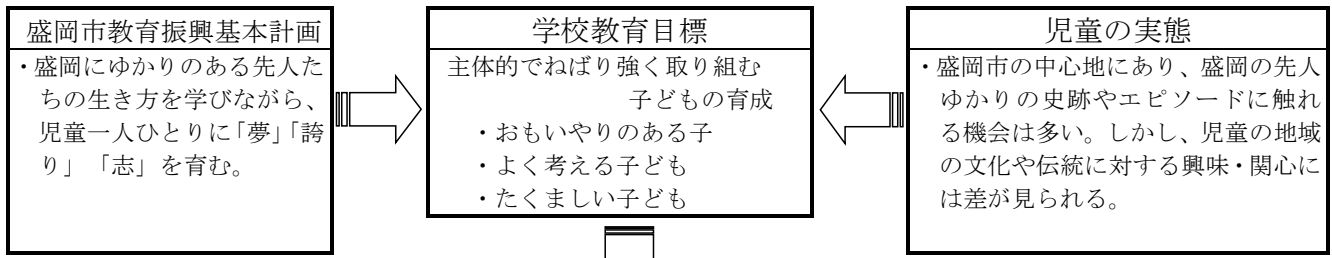
令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

<研究主題>

**児童生徒一人ひとりの能力の伸
長と「生きる力」の育成
～小中連携を通して、自己の生き
方を見つめる指導のあり方～**

盛岡市立河北小学校

河北小学校 先人教育全体計画



目指す子ども像		
1・2年	3・4年	5・6年
・地域でお世話してくださる方に関心を持ち、郷土の暮らしや文化に親しみと愛着をもつ子ども	・盛岡の先人や郷土の発展に尽くしてきた人々に関心を持ち、郷土の文化や伝統を大切にし、郷土を愛する心をもつ子ども	・先人の生き方や考え方に学び、夢や志をもって努力をする子ども ・郷土の伝統や文化に愛着や誇りをもつ子ども

各学年における教科・領域等における指導内容

	1・2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
生活科 総合的な 学習	「むかしあそびをおそわろう」 ・昔遊びという伝統文化の伝承活動を通じて、地域のお年寄りとの交流を楽しみ、感謝の気持ちをもたせる。	「さんさ踊りを調べよう」 ・さんさ踊りについて地域の達人からお話をうかがい、盛岡の伝統芸能を守り伝えてきている先人に感謝の気持ちをもつ。 「盛岡探検隊」 ・盛岡の伝統文化、地場産品、食事、祭りなどについて調べ、郷土の文化と伝統を大切にする気持ちを育てる。	「盛岡の先人を調べよう」 ・郷土のために尽くした先人の数々のエピソードやその功績、名所・ゆかりの史跡等について調べさせる。 ・先人ツアーを行う。 (先人記念館・原敬記念館・石川啄木記念館・盛岡てがみ館等) ・伝記の読書活動を行い、先人を敬慕する気持ちを育てる。	「われら、エネルギー調査隊」 ・エネルギーについて調べるとき、自然とともに生きることに考えたり、郷土のよさを見つけたりする。	「自分の将来を探ろう」 ・盛岡・岩手の先人について、生い立ちや人となり分かるようなエピソード、成人してからの数々の功績について学ばせ、敬慕の念をもたせる。 ・卒業を前に、先人の生き方に学ばせ、自身も目的や信念を持ち、進むべき道を探していこうとする態度を養う。
道徳 ふるさと いわでの 心 (郷土 教材)		(勤勉・努力) 「心に決めて～ 田中館 愛橘」 「おらが育てる」	(自然愛護) 「野の花に思いをよせて」 (伝統文化の尊重、 国や郷土を愛する態度) 「わたしたちの誇り 世界遺産」	(伝統文化の尊重、 国や郷土を愛する態度) 「よみがえった街なみ」 (伝統文化の尊重、 国や郷土を愛する態度) 「ふるさとの道を開く」	(希望と勇気 努力と強い意志) 「天に続く道」 (伝統文化の尊重、 国や郷土を愛する態度) 「虎舞」
教科の 学習		【社会】 「盛岡のりんごづく り」 地域の先人	【国語】 「声に出して読もう」 郷土の歌人 石川啄木 【社会】 「鹿妻穴堰」 鎌津田甚六	【社会】 「食料生産を支える人々」 地域の先人 「わたしたちの国土」 金田一京助 【国語】 「季節の言葉」 石川啄木	【国語】 「楽しみは」 石川啄木 「イーハトーブの夢」 宮澤賢治 【社会】 「近代国家に向けて」 原敬 新渡戸稲造 米内光政
全校での 活動	1 先人コーナーの設置と活用 (学習指導部：図書館) 2 先人ゆかり給食 (生活指導部：給食)				

学 校 名	盛岡市立河北小学校	児童数	160 名
研究主題	児童生徒一人ひとりの能力の伸長と「生きる力」の育成 ～小中連携を通して、自己の生き方を見つめる指導のあり方～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育では、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目指している。その3つの力を伸ばすための根幹の「学ぶ意欲・目的」を高めていくために重要な役割を果たすものの一つとして「盛岡市の先人教育」位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳科、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

そこで上田中学校区では、ブロック研究会での授業研究会、児童生徒理解のための情報交換、小中合同あいさつ運動の推進、共通の学習規律モデルの共有など、小中連携の様々な取組をおこない、小中連携を通して自己の生き方を見つめられる先人教育を目指すこととした。

この「先人教育」を充実させることは、本校の学校基本目標である「主体的でねばり強く取り組む子どもの育成」姿の実現に重なることから、この主題を設定した。

2 研究の目標

「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。

身近な地域や郷土の自然や文化、歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」をもてるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・先人教育の視点と各教科・道徳・総合的な学習の時間の関連を図った指導を実践的に推進する。
- ・先人コーナーの充実と児童の作品掲示の工夫をすることで、先人に関する児童の興味や関心を高める。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・上田中学校区3校共通主題による実践
- ・中学校での学習活動を理解し、9年間を見通した小学校での実践

4 取組の概要

単元名	盛岡の先人を調べよう	学年	第4学年
-----	------------	----	------

(1) 目標

- ・盛岡の先人や郷土の発展に尽くしてきた人々に関心をもち、郷土の文化や伝統を大切にし、郷土を愛する心をもたせる。
- ・盛岡の先人のエピソードやその功績について調べ、先人を敬慕する気持ちを育てる。

(2) 指導計画（31時間）

段階	学習活動	時数
一次	○ 先人ポスターを使い学習のめあてをもつ。 ○ 石川啄木を例にとり、調べ方を知る。	4
二次	○ 詳しく調べたい先人を決め、課題を見つける。 ○ 「先人記念館」で調べたい先人について調べる。 ○ 先人すごろく、啄木かるたで先人に親しむ。 ○ 副読本を読み、課題について調べる。	15
三次	○ 調べて分かったことを整理し、まとめ方について考える。 ○ 自分なりに「盛岡の先人」についてまとめる。 ○ クイズ・すごろく・短歌などを作り、先人の功績や考え方について友達に発信する。	12

(3) 活動の様子

① 石川啄木の短歌から

・「東海の 小島の磯の 白砂に 我泣きぬれて 蟹とたわむる」から、啄木は北海道できつと悲しい思いをしたんだと思う。何があったのだろう。だれか死んだのかなと思いました。

② 先人記念館を訪ねて

・米内光政と背比べをしたら、すごく大きかったです。177cm、体重68kgだったということが分かりました。体が大きくて海軍で活躍してすごいと思いました。
・ぼくは、稲造さんの家族やキリスト教への道りを学びました。キリスト教の考えが大事だと思いました。
・金田一京助が、アイヌ語を研究したことや国語辞典を作ったことなどが知れて楽しかったです。



③ 先人すごろく・啄木かるたをして

・友達と一緒にすごろくをして、先人のことをたくさん知れたし、楽しかったのでまたやりたいです。
・啄木かるたをして、読みにくいのもあったけれど、「あーそうだな」と思える短歌がたくさんありました。こんな短歌を4000首以上も作ったなんて、すごい人だと思いました。



(4) 考察

- 一次で啄木を例にした学習、二次で先人記念館見学、先人すごろく・啄木かるたに取り組んだことにより、4年生なりに先人学習への興味をもたせ、その後の学習意欲をもたせることができた。
- 啄木の短歌を題材にしなが、木の生き方について考えたり、どんな物の見方や考え方をしていたのかを考えさせたりすることによって、これから調べる先人についても見通しをもたせることができた。
- 先人すごろくをすることにより、友達と楽しみながら先人の生き方を端的に知ることができた。
- 4年生の段階として、先人の生涯や生き方などについてどの程度深めさせれば良いか迷いながら指導した。

単元名	盛岡の先人に学ぼう ～太平洋のかけ橋～	学年	第5学年
-----	---------------------	----	------

(1) 単元の目標

- ・新渡戸稲造の生涯や功績を知り、その生き方から自分に生かしたいことを考え、夢や希望をもって生きていこうとする態度を養う。

(2) 指導計画（8時間）

段階	学習活動	時数
一次	○道徳科 「太平洋のかけ橋～新渡戸稲造～」の学習 ○オリエンテーション	2
二次	○講話 「新渡戸稲造」（講師来校） ○調べ学習 感想をまとめ、さらに知りたいことについて調べる。	3
三次	○まとめる 調べたことや学んだことをリーフレットにまとめる。 ○交流する 学級交流会を行う。	3

(3) 活動の様子

① 新渡戸稲造がどんな思いで『武士道』を書いたのか話し合う（道徳）

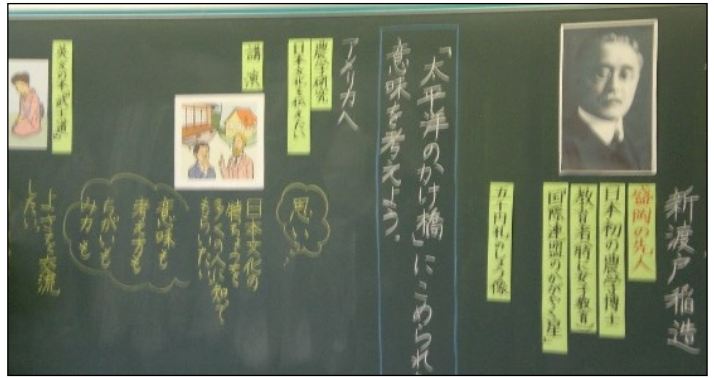
「ねむの木ノート」（道徳ノート）より

・これからも日本の文化を伝えたいです。そしてぼくもかけ橋のようにおたがいの文化を伝えたいです。おたがいの気持ち分かり合い外国の人と交流することも大切だと思いました。



・私は、稲造さんから「太平洋のかけ橋」について学びたいです。理由は、外国文化の特ちょう、日本文化の特ちょうなどを伝え合い、知り合い、日本のいいところ、外国のいいところを分かり合えるからです。また、外国と日本でちがうところもくわしく分かり合えることから意味があると思いました。

・私は最初「太平洋のかけ橋とは何だろうな。」と思いました。けれど、みんなの発表を聞いて、新渡戸稲造さんは他の国や地域との交流を深めたいのかなと考えました。これからは、自分と考えがちがってもその人の考えを認めるということも大事だということ意識して行動してみたいなと思いました。



② 新渡戸稲造についての講話を聞いて、自分に生かしたいことを考える。



講話後の感想より

・私は今まで学習してきたものをつなげながら話を聞くこともできた。稲造さんの功績、岩手や世界にも名前が知られるほどのすばらしい人だということを改めて知った。稲造さんの心の強さがあったということも初めて知った。稲造さんのことをこれからも尊敬していきたい。さらに海外の人はなぜ武士道に興味をもったのか調べたい。

(4) 考察

○昨年度は、先人の功績について大まかなことを知る学習であったが、今年度はさらに道徳資料、外部講師による講話を通して、先人の生き方や考え方についてより深く捉えることができた。発達段階に合った学習内容であった。

○図書室に先人コーナーを設けていただいたり、道徳科や国語科と関連付けたりしながら横断的な学習を展開することができた。

●今回は、新渡戸稲造に焦点を当てた学習となったが、同じ先人についての個々の学びの交流を、どんな目的で行うのか十分に吟味しておく必要がある。



【学校図書館 先人コーナー】

単元名	盛岡の先人に学ぶ～自分の夢に向かって～	学年	第6学年
-----	---------------------	----	------

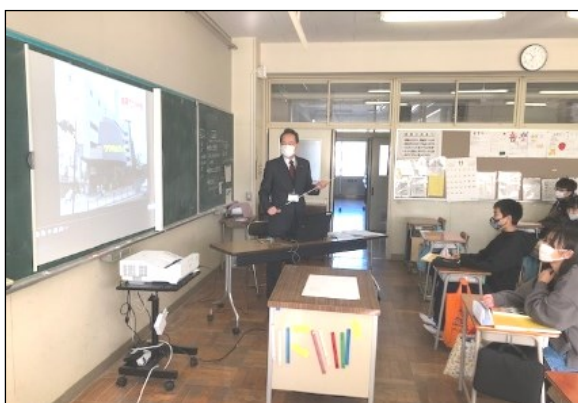
(1) 単元の目標

- ・新渡戸稲造の生い立ちや業績を調べ、稲造の見方・考え方にふれ、自分の考えをまとめる活動を通して、自分のよさを生かし、将来の夢を実現しようとする態度を養う。

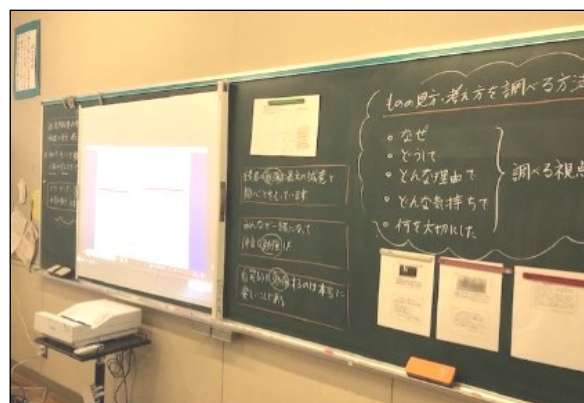
(2) 指導計画（8時間）

段階	学習活動	時数
一次	○オリエンテーション 講話（新渡戸稲造の生い立ちと業績）	2
	○「新渡戸稲造」の「遠友夜学校」を例に先人学習の進め方を知る。	1
二次	○「新渡戸稲造」のものの見方・考え方につながる資料やエピソードを調べる。	2
三次	○「新渡戸稲造」のものの見方・考え方から学んだことについて交流する。	1
	○「新渡戸稲造」から学んだことについて、自己の考えをまとめる。	2

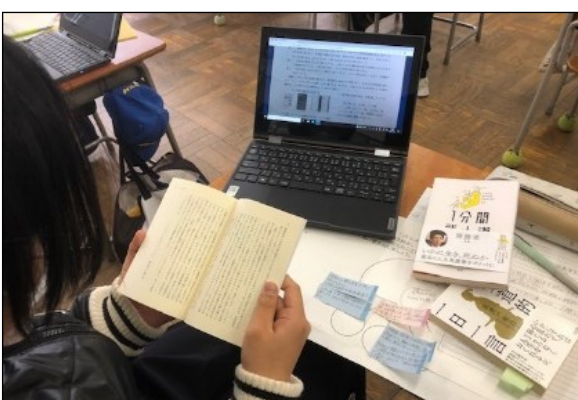
(3) 活動の様子



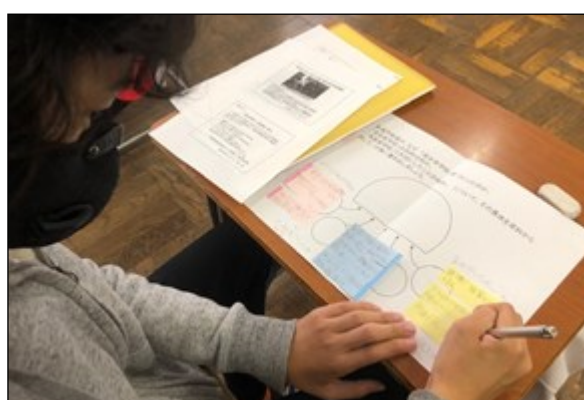
盛岡てがみ館の及川館長から「新渡戸稲造」の生い立ちと業績についての講話を受ける。



「新渡戸稲造」の「遠友夜学校」を例に先人学習の進め方を知る。



児童各自がそれぞれ新渡戸稲造のものの見方・考え方につながる資料やエピソードを調べる（集める）。



「クラゲチャート」を活用し、エピソードについて自分自身がどのような価値を感じているかを明らかにする。



「新渡戸稲造」のものの見方・考え方から学んだことについて交流する。



新渡戸稲造から学んだことについて、自己の考えを新聞にまとめる。

- ・稲造は、遠友夜学校で教師として学んだ経験を生かして、外国人にも日本の道徳教育を理解してもらおうと「武士道」を作ったのだと思いました。夢をもち努力しようとした心があったから、今につながったのかなと思いました。私も夢をもち努力して、あきらめない心を育てていきたいです。

児童の感想より

- ・ 私は新渡戸稲造の「武士道」「遠友夜学校」を中心に、生い立ちや経験、業績から稲造の考え方を学びました。私を感じたのは、「人との関わりの大切さ」「自分の経験」を大切に生きてきたと感じました。例えば「遠友夜学校」では、自分が昔、経験した勉強の大変さ、苦勞から考えを導き出し、自分の思いと考えで実現させたところが、「信念を貫き通し行動に移せる」すごい人だなと思いました。また、「人との関わりの大切さ」は、「武士道」では、日本の心を世界に知ってもらい、人間の魂から人と人との平等を願い、「遠友夜学校」では、リンカーンの言葉から精神を伝え、学ぶ楽しさと様々な人との交流で教えていて、グローバルな考えをもつ人だとも思いました。

私は、空手をやっているのですが、空手も立派な日本の武道ということから、「武士道」の心を常にもち、この人間としての魂の伝統を受け継ぎたいと思いました。ほかにも、「自分の経験」を稲造のように糧とし、考えの視野を広げた生き方をしたいです。「人との関わりの大切さ」では、これから社会でたくさんの人と出会い、過ごす中でとても大事なことになるはずです。大人になるまで、なってからももちろん、より一層意識しようと思いました。また、稲造のように太平洋の架け橋にはなれないけれど、この稲造の考えを胸に生き、多くの努力を積み重ね、全国、世界に羽ばたいていける人間に私はなりたいです。

(4) 考察

- 先人の生き方（見方や考え方）にふれ、自分の考えをもつことができるような「単元のねらい」「本時のねらい」を設定した。
- 単元のオリエンテーションとして副読本「盛岡の先人たち」を読んだあと、外部から講師として盛岡てがみ館の及川館長をお招きし、講話を聞いたことにより人間の「生き方」についての興味を引き出し、関心を高めることができた。
- 探求の過程を、①「課題の設定」、②「情報の収集」、③「整理・分析」、④「まとめ・表現」として、児童に意識させたことにより、先人の生き方や見方・考え方を生かして、自分のよさを生かし、将来の夢を実現しようとする態度を養うことができた。
その際、「整理・分析」する思考のための技法として「クラゲチャート」を活用し、整理・分析に役立てることができた。
- 盛岡の先人教育のねらいに迫るためには、先人の授業において指導内容や身に付けさせたい力を明確にし、先人の生き方や見方・考え方まで高めるような手立てを工夫する必要がある。

5 成果と課題

(1) 成果

- ・道徳科で自分事として考えたり、国語科でリーフレットや新聞作り、短歌作りをしたりするなど、効果的に教科等との関連を図った指導を実践することができた。
- ・各学年で発達段階に即した学習活動を展開することにより、先人の生き方や考え方から、よりよい自分の姿を考えたり、これからの自分を考えたりすることができた。
- ・学校図書館を中心とした先人コーナーの充実等を図ることで、先人について全校児童の興味や関心を高めることができた。

(2) 課題

- ・盛岡の5先人への出会いとなる4年生では、導入、展開時の工夫について、計画の見直しも含めて考えていかなければならない。
- ・最終学年までに盛岡の先人教育のねらいに迫るようにするには、「先人教育全体計画」を含め、各学年で指導内容や身に付けさせたい力を一層明確にし、先人の生き方や見方・考え方を通して、自分のよさを生かし、将来の夢を実現しようとする態度まで高める手立てを工夫する必要がある。



【廊下掲示 もりおかの先人】



【図書室掲示 盛岡の先人たち】

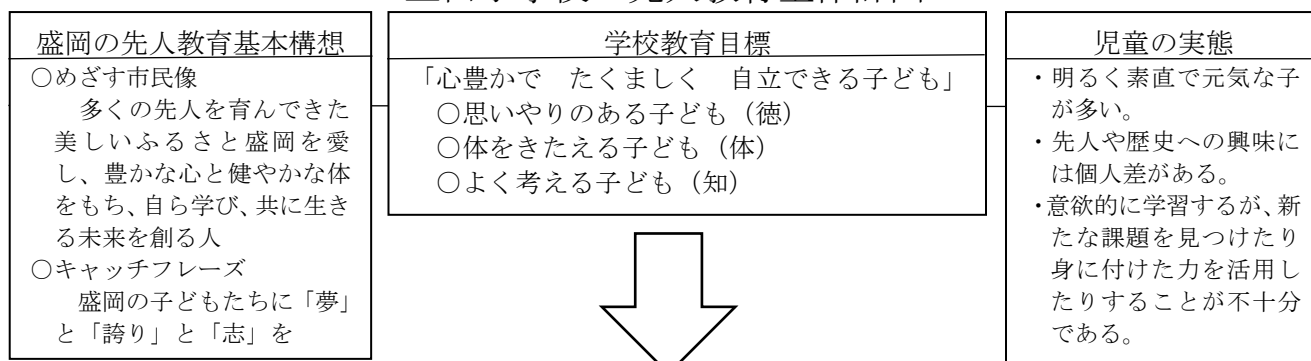
令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

<研究主題>

**児童生徒一人一人の能力の伸長
と「生きる力」の育成
～小中連携を通して、自己の生き
方を見つめる指導のあり方～**

盛岡市立上田小学校

上田小学校 先人教育全体計画



目指す子ども像		
低学年	中学年	高学年
「盛岡の先人」や地域の中でお世話してくださる人に関心を持ち、郷土の文化や生活に親しみと愛着をもつことができる。	「盛岡の先人」や郷土の発展に尽くした人に関心を持ち、郷土の文化と伝統を大切に、郷土を愛する心をもつことができる。	「盛岡の先人」の生き方に学び、それを育てた盛岡の風土を誇りとし、郷土を愛する心をもつことができる。

	1・2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
生活科 総合的な 学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・がっこうだいすき ・どきどきわくわくまちたんけん ・みんなでつかうまちのしせつ 	「先人『石川啄木』について知ろう」 <ul style="list-style-type: none"> ・石川啄木の作品にふれ、盛岡出身の先人啄木への関心をもつ。 ・啄木の短歌に親しんだり、お気に入りの短歌を短冊に書いたりする。 ・記念館や歌碑を見学し、調べたことをリーフレットにまとめ、読み合う。 	「盛岡の先人～原敬について」 <ul style="list-style-type: none"> ・副読本を読み、原敬への関心を持ち、原敬記念館を見学する。 ・課題を設定し、インターネットや本で調べる。 ・調べたことや考えたことを壁新聞にまとめる。 	「盛岡の先人～金田一京助～ <ul style="list-style-type: none"> ・金田一京助の生涯について関心を持ち、先人記念館の出前授業で学んだことや副読本「盛岡の先人たち」や図書などの資料を使って調べる。 ・学んだことをリーフレットなどにまとめ、意見を交流する。 	「郷土の先人から学ぶ～新渡戸稲造・米内光政」 <ul style="list-style-type: none"> ・副読本「盛岡の先人たち」を読み、二人の先人についておおまかに知る。 ・どちらかを選んでインターネットや資料で調べる。 ・先人記念館を見学し、学びを深める。 ・自分に取り入れたい生き方について考える。 ・調べたことや考えたことを新聞などにまとめる。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・さけがもどる川（ふるさといわての心） ・おらもいしゃになる ・見つけたよ 	<ul style="list-style-type: none"> ・おらがそだてる～小田嶋熊吉～（ふるさといわての心） 	<ul style="list-style-type: none"> ・石っこけんさん 宮沢賢治（ふるさといわての心） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとの道を開く（ふるさといわての心） ・太平洋のかけ橋 「新渡戸稲造」 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代製鉄の父 大島高任（ふるさといわての心） ・マザーテレサ ・奴隷解放の父 リンカーン ・差し出し続けた大きな手
教科の学習	<ul style="list-style-type: none"> ・わらしべちょうじゃ(国) ・こんなものみつけたよ(国) ・日本のうたをたのしもう(音) 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語辞典を使おう(国) ・俳句を楽しもう(国) ・わたしたちのまちと市(社) ・わたしたちの市のあゆみ(社) 	<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県の様子(社) ・昔から今へと続くまちづくり(社) ・短歌、俳句に親しもう(国) 	<ul style="list-style-type: none"> ・やなせたかし(国) ・日常を十七音で(国) ・日本の音楽に親しもう(音) 	<ul style="list-style-type: none"> ・近代国家を目ざして(社) ・戦争から平和へ(社) ・イーハトーブの夢(国) ・共に生きる地域の生活(家) ・日本や世界の音楽に親しもう(音)
全校での活動	1 先人コーナーの設置と活用 2 先人ゆかり給食				

学校名	盛岡市立上田小学校	児童数	354名
研究主題	児童生徒一人一人の能力の伸長と「生きる力」の育成 ～小中連携を通して、自己の生き方を見つめる指導のあり方～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育では、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目指している。その3つの力を伸ばすための根幹の「学ぶ意欲・目的」を高めていくために重要な役割を果たすものの一つとして「盛岡市の先人教育」を位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛着」、「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

そこで上田中学校区では、ブロック研究会での授業研究会、児童生徒理解のための情報交換、小中合同のあいさつ運動の推進、共通の学習規律モデルの共有など、小中連携の様々な取組をおこない、小中連携を通して自己の生き方を見つめられる先人教育を目指すこととした。

この「先人教育」を充実させることは、本校の教育目標である「思いやりのある子ども」「体をきたえる子ども」「よく考える子ども」の姿の実現に重なることから、この主題を設定した。

2 研究の目標

「盛岡の先人たち」の生き方や考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。

身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」をもてるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・先人教育の視点と教科・道徳・総合的な学習の時間の関連を図った指導を実践的に推進する。
- ・先人コーナーの充実と児童の作品掲示の工夫をすることで、先人に関する児童の興味や関心を高める。

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・上田中学校区3校共通主題による実践
- ・中学校での学習活動を理解し、9年間を見通した小学校での実践

4 取組の概要

単元名	先人「石川啄木」について知ろう	学年	第3学年
-----	-----------------	----	------

(1) 探求課題

先人の生き方と、自己の生き方

自分が住む盛岡について調べ、郷土の発展に尽くした人に関心をもち、盛岡を愛する心を育てる。

(2) 指導計画

段階	学習活動	時数
一次	○石川啄木について興味をもつ ・副読本「盛岡の先人たち」の石川啄木の少年時代についてを読み、啄木と啄木の短歌について関心をもつ。	4 h
二次	○石川啄木について知る。 ・「啄木かるた」でかるた遊びをすることで、啄木の短歌に親しむ。(3) ・啄木記念館を見学し、啄木についての理解を深める。(4) ・さらに副読本を読み、啄木の生涯について知る。(5)	12 h
三次	○調べたことをリーフレットにまとめ、交流する。 ・調べたことをリーフレットにまとめる。(6) ・お互いのリーフレットを読み合い、交流する。(2)	8 h

(3) 活動の様子

<児童の振り返りから>

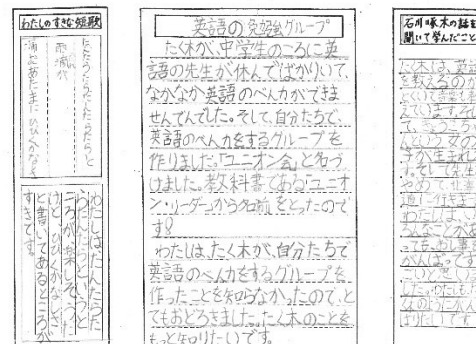
- ・ぼくは、石川啄木について学んで、啄木はとてもすごい人だな、と思いました。どうしてかという、お金がなくても、最後まであきらめないで短歌を書いていたからです。
- ・啄木がいろいろな人ががんばれと応援してもらえたのは、正直で分かりやすい短歌を作り続けていたからだと思います。

児童が作成したリーフレット



<石川啄木記念館を見学して>

- ・石川啄木が勉強していた教室で紙芝居を読んでもらいましたが、とても暗く、紙芝居があまりよく見えませんでした。こんなに暗い教室で勉強していたなんて、とても驚きました。
- ・啄木が、たくさんの短歌を作ったと聞いて、とても驚きました。そして、英語の先生もしていたと聞き、凄いなと思いました。



(4) 考察

- 記念館を見学したり「盛岡の先人たち」を読み進めたりすることで、啄木が27年の生涯を短歌を中心に自分の夢をあきらめないで努力し続けたことに気づくことができた。
- 啄木かるたでは、主に25首に親しみ、その短歌からも郷土を愛していたこと、自然が好きなことを感じ、改めて自分たちの住んでいる盛岡の良さに気づくことができた。
- 児童向けの資料が少なく、学習を深めていくことが難しかった部分も多かった。資料を精査して児童に提示しなければならないので、事前の教材研究をしっかりとしなければならないと感じた。

単元名	宝積って何だろう ～盛岡の先人原敬から学ぶ～	学年	第4学年
-----	------------------------	----	------

(1) 探求課題

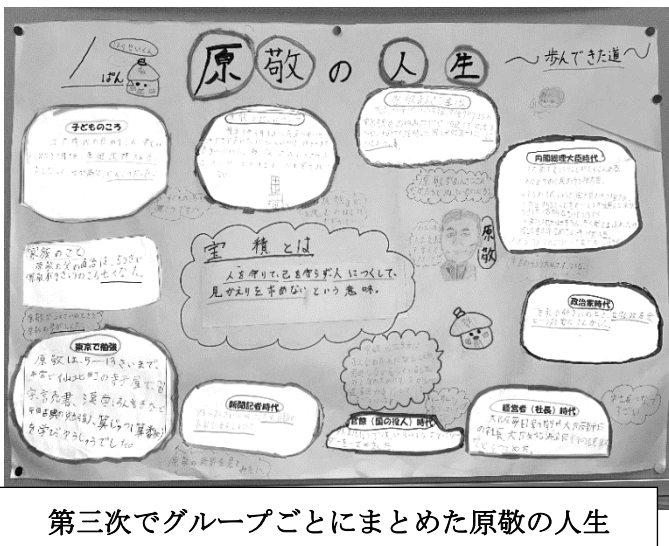
郷土の発展に尽くした人の生き方

郷土に尽くした先人原敬の生い立ちや業績を調べ、原敬の生き方に対する考えをもち、自分の生活にいかしていく。

(2) 指導計画

段階	学習活動	時数
一次	○先人読本を読み、原敬に関心をもち、課題を設定する。	6 h
二次	○原敬記念館を見学したり、インターネット等で調べたりする。	5 h
三次	○調べたり、考えたりしたことグループでまとめる。	5 h

(3) 活動の様子



第三次でグループごとにまとめた原敬の人生

(活動の振り返り)

私は、原敬の生き方からたくさん学んだことがありました。

- ①自分がすごいことをしてえらい身分になって楽できる道があったとしても、決して楽はせずみんなと同じようにする。
- ②何かを決めたりする時は、みんなで一緒に公平に考える。
- ③自分に関わりのある人やお世話になった場所を大切にし、世話になった分、自分も何かをするという考えをもち行動する。

- ④仏教など昔からの教えの言葉の心を大切にし、どうしたらそうできるか考えて実行する。
- ⑤どんなに体が大きく、力が強いとしても絶対に争わない。(人との違いをからかわない。)
- ⑥どんなに難しく、苦しいときがあっても、強い心で自分の道を切り開く。
- ⑦みんなの生活がよくなるように平和を目指した対策を考える。(相手の立場になって、嫌なことをさしている人がいたら声をかけたりする。)

(4) 考察

○4年生にとって政治的な詳細の理解は難しいが、先人読本を読み解いたり、原敬記念館を見学し、生家の中で説明を聞いたりしたことにより、原敬の人柄や生き方に関心や親しみをもち共感する児童が多くいた。

●原敬の生き方を示す言葉「宝積」をキーワードにしたが、意味を調べることはできたが内容の理解にまでは至っていない。今後の生活の中で考えさせていきたい。

単元名	盛岡の先人から学ぶ ～金田一 京助～	学年	第5学年
-----	--------------------	----	------

(1) 探求課題

- 盛岡市にゆかりのある先人（金田一京助）について学習し、その業績や生き方から、自分の生き方や考え方を学ぶ。
- 先人について自ら課題をもって進んで調べ学習したりリーフレットにまとめる活動を行ったりして、自主的で実践的な態度を養う。

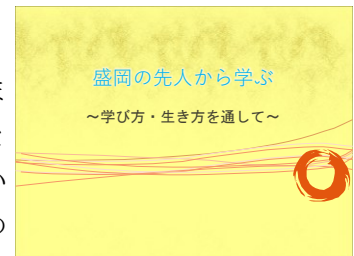
(2) 指導計画

段階	学習活動 全10時間	時数
一次	○オリエンテーション○課題設定（2）	2 h
二次	○先人記念館出前講座（1）○個人の調べ学習（4） ※調べ学習には先人副読本、インターネット等を使用した。	5 h
三次	○リーフレット作成（2）○発表・振り返り（1）	3 h

(3) 活動の様子

【第一次】

- ・はじめに、パワーポイントで金田一京助の生涯と業績について、大まかに説明した。その中で、疑問に思ったことや深く調べてみたいことを課題として設定する時間を設けた。課題は①生涯②アイヌ語について（研究者としての業績やアイヌの人々との交流について）③友達との存在（主に石川啄木）に分かれた。その中で2つ以上は調べることにした。



【第二次】

- ・先人記念館の方に講師として来ていただき、金田一京助について詳しく教えていただいた。特にアイヌ語の研究についての事柄を、小学生にもわかりやすくお話しいただいたことで、さらに関心を高めた児童が多かった。
- ・調べ学習は先人副読本の他、タブレットで調べることができた。休日に先人記念館に行って、調べて来た児童もいた。タブレットでは先人記念館のサイトの他、岩手県立図書館のサイトにアクセスしていた。



【第三次】

- ・リーフレットは、9切画用紙を三つ折りにして作成した。はじめに、教師が割り付け方を説明した。その後、自分の課題としていたことや、活動を通して学んだことや考えたことを後書きに書いて、学習を深めたり広げたりした。
- ・校内の「かがやきコーナー（総合的な学習の時間の掲示コーナー）」に掲示して、全校の児童や参観日でいらした保護者に見ていただいた。

(4) 考察

- 導入を工夫することにより関心を高めることができ、児童は課題を進んで見つけることができた。
- 課題を大きく3つにしたことで、調べた事柄を児童同士が交流し合いながら、学習活動を進めることができた。
- 図書資料がほとんどないため、調べ学習はインターネットが主になってしまった。副読本以外の図書資料があるとよい。

単元名	郷土の先人から学ぶ～新渡戸稲造・米内光政～	学年	第6学年
-----	-----------------------	----	------

- (1) 探求課題
日本の政治や文化に尽力した盛岡の先人たちの生き方と考え方
- (2) 指導計画

段階	学習活動	時数
一次	○新渡戸稲造・米内光政の生涯について概要を知り、学習課題を設定する。 ・副読本「盛岡の先人たち」を読み、新渡戸稲造・米内光政の生涯について関心をもつ。 新渡戸稲造・米内光政の生き方を学び、「新渡戸新聞・米内新聞」を書こう。	4 h
二次	○新渡戸稲造・米内光政の生き方を学ぶ。 ・自分が調べたい人物を決め、調べる計画を立てる。 ・書籍・インターネット等で、副読本で学べなかった新渡戸・米内の情報を得る。 ・先人記念館を見学して、新渡戸・米内の生き方をより詳しく知る。 ・自分に取り入れたい生き方について考える。	10 h
三次	○新聞でまとめる。 ・各自調べ、学んだことを新聞でまとめる。 ○新聞を読み合い、交流し合い活動を振り返る。	6 h

(3) 活動の様子

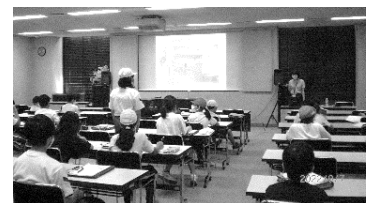
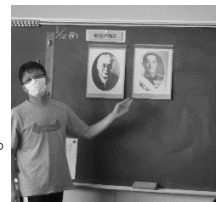
①単元の導入

単元の導入では2人の人物の写真を見て、誰なのか、どんなことをした人なのかを出し合った。

詳しいことについては知らない子が多く、興味をもって副読本を読み始めた。

②先人記念館見学

子どもたちの詳しく知りたい内容が明確になってきた調査・探求段階で見学を実施した。先人記念館では展示物の見学の他にそれぞれの人物についての講座での学習を行うことで学びを深めることができた。



自分に取り入れたい先人の生き方(新聞より)

- ・米内光政の戦争反対の心を「貫く」ことを自分に取り入れたい。
- 私は大勢の人の意見に振り回されてしまうから自分の意志を「貫く」生き方を取り入れたい。
- ・米内はどんなことも恐れず堂々と生きていた。私もそんな風になりたい。
- ・僕は米内光政のことを調べたら自分の考えが変わりました。光政はみんなのことを考えて行動しました。ぼくだったらあまり関係ないからいいやと考えたと思います。光政みたいにみんなのことを考えて行動したいです。
- ・稲造は世界の平和のために話し合いで解決できるようにしていました。自分も話し合いでいろいろなことを解決できるようにしていきたいです。
- ・稲造が「太平洋の橋になりたい。」と自分の夢を言えるのはすごいと思った。僕も大きい夢をもち、かなえたい。

【児童作品】



(4) 考察

- 副読本、インターネットでの情報収集、先人記念館での学習を適切な段階で位置付けて課題を追究することができた。
- 新聞の作り方についても指導することで調べたことを整理してまとめることができた。
- 「自分に取り入れたい先人の生き方」では、自分自身の行動や考え方等を振り返った上で考える子が多く見られた。
- 新聞を読み合って交流し合う活動をさらに工夫していきたい。

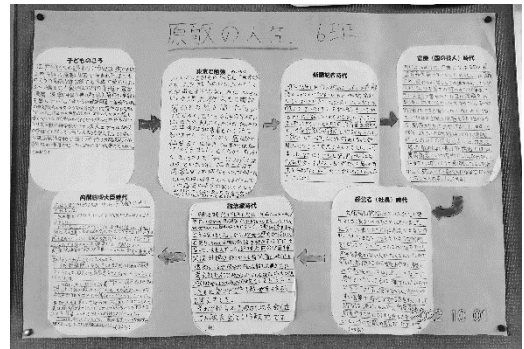
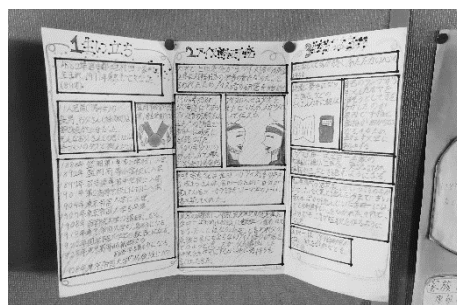
5 成果と課題

(1) 成果

- ・3年生における石川啄木の学習は、音読や「啄木カルタ」などの活動を通して、楽しみながら短歌に親しむことができ、石川啄木に対する興味をもたせることができた。
- ・高学年は、盛岡の先人を学ぶことを通して、盛岡のよさを再認識し、自分自身の行動や生き方を考える児童が増えた。
- ・「石川啄木記念館」や「先人記念館」、「原敬記念館」の各施設を利用することにより、学んだことを深めたり広げたりすることができた。

(2) 課題

- ・先人教育を進める上で、学年の実態や内容に応じた教材や資料の準備が必要である。
- ・先人教育をさらに充実させていくには、各学年の実践について共通理解を図り、改善点を明らかにし、今年度の学習を次年度に引き継いでいくことが必要である。



令和4年度
「盛岡の先人教育」実践事例

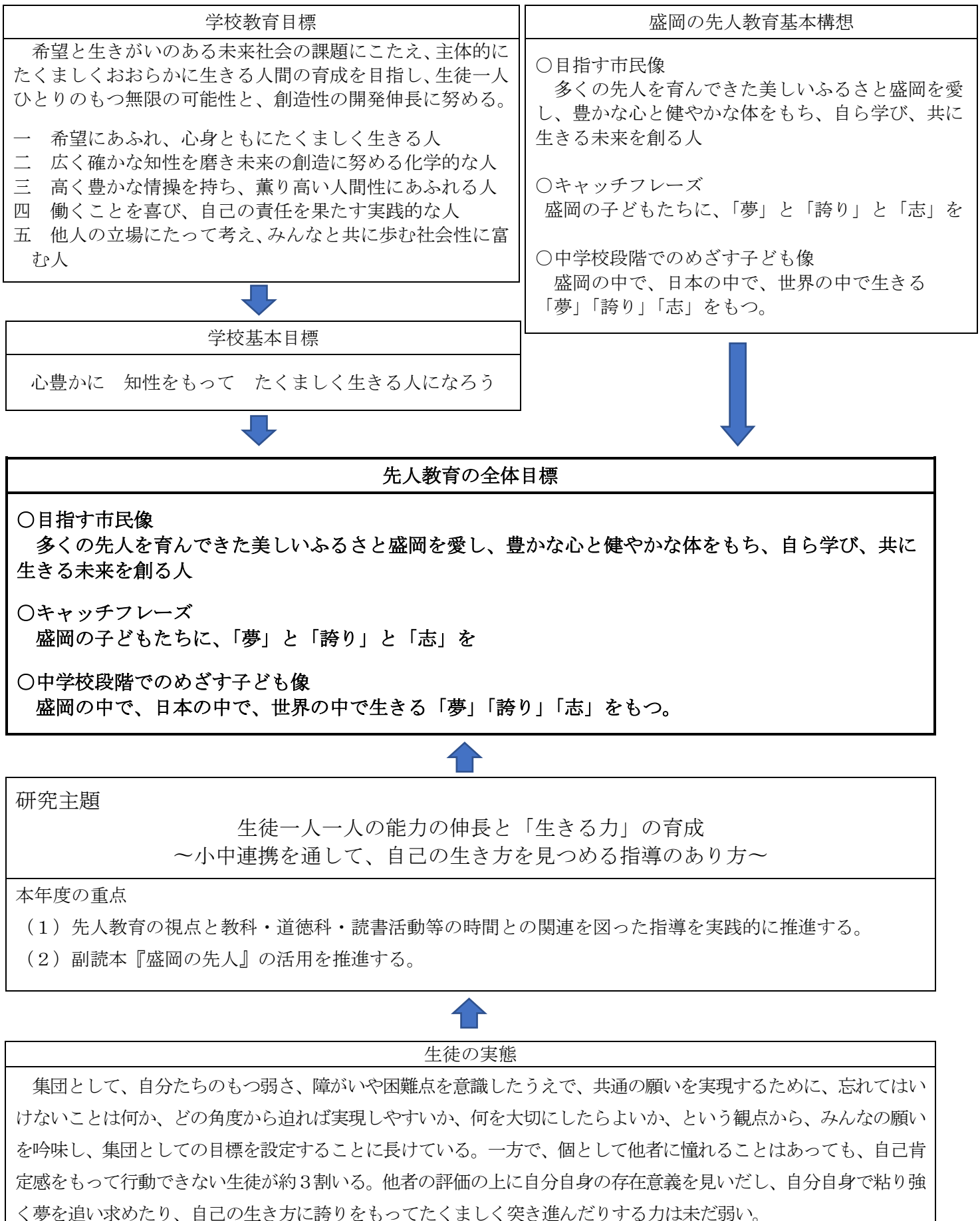
＜研究主題＞

生徒一人一人の能力の伸長と「生きる力」の育成
～小中連携を通して、自己の生き方を見つめる指導のあり方～

盛岡市立上田中学校

先人教育全体計画

盛岡市立上田中学校



学校名	盛岡市立上田中学校	生徒数	363名
研究主題	児童生徒一人一人の能力の伸長と「生きる力」の育成 ～小中連携を通して、自己の生き方を見つめる指導のあり方～		

1 研究主題設定の理由

盛岡市の学校教育では、「確かな学力（知）」「豊かな心（徳）」「たくましい体（体）」の3つの力をバランスよく育むことを目指している。その3つの力を伸ばすための根幹の「学ぶ意欲・目的」を高めていくために重要な役割を果たすものの一つとして「盛岡市の先人教育」位置付けている。

「盛岡市の先人教育」は、各教科や道徳科、総合的な学習の時間などの全教育課程の中で、盛岡にゆかりのある先人の生き方を学ぶことを通して、次代を担う子どもたちに「将来の夢」や「ふるさと盛岡に対する愛情」「目標に向かって努力する心」を育むことを目指している。

そこで上田中学校区では、ブロック研究会での授業研究会、児童生徒理解のための情報交換、小中合同あいさつ運動の推進、共通の学習規律モデルの共有など、小中連携の様々な取組を行い、小中連携を通して自己の生き方を見つめられる先人教育を目指すこととした。

この「先人教育」を充実させることは、本校の学校基本目標である「心豊かに 知性をもって たくましく生きる」姿の実現に重なることから、この主題を設定した。

2 研究の目標

「盛岡の先人たち」の生き方を考え、業績などを学ぶことを通して、自分自身を見つめ、自分の将来に夢と希望をもち、それに向かって努力し続けようとする心情を育てる。

身近な地域や郷土の自然や文化・歴史や伝統に触れることで、郷土に対する「愛情」と「誇り」をもてるようにする。

3 研究の基本的な考え方

(1) 本年度の重点

- ・教科との関連性を大切に先人教育の実践
- ・先人教育の視点と教科・道徳科・総合的な学習の時間のねらいとを関連付けた実践
- ・副読本「盛岡の先人」の活用

(2) 小中連携の工夫及び配慮

- ・上田中学校区3校共通主題による実践
- ・小学校での学習活動を理解し、9年間を見通した中学校での実践

(3) 取組の内容

- ・社会科歴史的分野との関連を図った先人教育の実践
- ・道徳科との関連を図った先人教育の実践
- ・読書活動の時間を活用した先人教育の実践
- ・先人教育関連行事への参加（「一筆啓上」への参加）

4 取組の概要

単元名	【道徳科における取組】 「共生の中で支え合う」	学年	1 学年
-----	----------------------------	----	------

扱う主な先人	金田一京助
--------	-------

(1) 単元の目標

どのような社会が心豊かなのかについて、公共の場での出来事などの日常的な光景に加え、共生社会の観点からも迫り、社会に生きる一人として大切な心について考える。

(2) 単元の指導計画

年間 テーマ	中単元	小単元	主な内容項目・教材名	
「心豊か」	共生の中で支え合う (15 時間)	心豊かな社会 (4 時間) どのような社会が心豊かなのかについて、自分が所属する町内会や公共の場での出来事などの日常的な光景に加え、共生社会の観点からも迫り、社会に生きる一人として大切な心について考える。	第 1 時	D (22) 『盛岡の先人』 (本時)
			第 2 時	B (6) でんでんむしは優しさを乗せて
			第 3 時	C (10) 傘の下
			第 4 時	C (11) 公平とはなんだろう

(3) 先人教育と関連づけた授業「金田一京助から学ぶ」について

① 本時のねらい

金田一京助の生き方を小学校での学習の想起と『盛岡の先人』を手がかりに学び、中単元のテーマ「共生の中で支え合う」について考えを深める。

② 本時の手立て

『盛岡の先人』の読み物としてのおもしろさを生かし、金田一京助との新たな出会いを丁寧に演出する。

(具体)

- 導入において、9つのヒントをもとに「私は誰でしょう？」クイズを考えさせることで、小学校で学習したことを想起させる。学区外から入学した生徒も考えることができるように、生徒から既存の知識を引き出しながら進める。
- ユーカラを原資料として制作されたアニメ「カラスの会話」(公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構)を音声のみで聴いたり、字幕とともに聴いたりすることで、金田一がアイヌ語の翻訳に取り組んだことの偉大さを実感させる。



- ・ 金田一の取り組んだ概要を生徒がつかんでから資料を読むことで、詳細で長編な『盛岡の先人』の資料としてのおもしろさをクローズアップする。
- ・ 話し合いの中で、思考をゆさぶる発問を工夫することで、アイヌ語やユーカラに取り組む偉大さを表面的な理解に終始しないようにする。

③ 実際の授業場面（授業記録より）

T：どうしてこんなに貧乏暮らしをしてお金にならないのに、研究しようと思ったのだろう？

S1：ユーカラが知られないままより、世の中にこういうのがあったんだよと伝えた方がいいと思ったんだと思います。

S2：もともと北海道のアイヌの翻訳があったけど雑だったから、それだったら正しいものに変えてみんなが理解できるようにしたかったのかなあと思いました。

S3：アイヌ語があったってことをみんなが知らないでアイヌ人が死んだらもったいないから、広めたいと思った。

S4：同じ。ユーカラがアイヌの人のおじいさんとおばあさんしか知らなくて、死んじゃったら誰も知らないから、もったいないなど…。

T：みんなもそう思う？（はい）でもさあ、塩ご飯…でもやる？（うーん）

T：金田一は、アイヌじゃなかったらやらなかったのかな？

S：いや…

T：「異文化を大切にする」と「自分の利益」…金田一はどっちがでかい？

S：異文化…

T：なんでそこまでできるのかな？

S5：（『盛岡の先人』を見ながら…）「就職口のない学問をすることは、長男はもっと生産的な学問をした方がいいのにと周囲から白い目で見られる」とあるけど、ずっと読んでいくと「世界の学会の謎になっているアイヌ問題の解決は、日本の学者が世界の学会に負う責任なんだ。金にならないからそういう研究をしながらないんだ。そういう研究をするのは私ぐらいなものなんだ」と言っているから、金がなくても研究するのは自分ぐらいなんだと自覚しているんだと思いました。

T：なるほど。みんなの中で内心思っている人いませんか？「別にアイヌ語伝わらなくてもいいんじゃないか？」って。（あー）

S6：使わないし、見ないし…。社会やらなかったら知らなかったし。

T：なんでこんなに価値を見いだすんだろう？

S7：アイヌ族といっても同じ日本人として、どこかでかかわる場面が出てくるんじゃないかなって思っ…アイヌ語を研究したんじゃないかなって思います。

T：「共に生きる」の話になってきたね。やっぱり金田一がやったことは価値があった？

S：はい…。

S8：金田一京助が研究しなかったら「北海道人」ができていたかも。

T：「もし研究していなかったら」という逆の発想で考えたのね。分かれていたかもしれないんだね。

S8：日本人とは別の…。

T：価値があるとすればどんな価値があったのか、という視点で、ノートに書いてみよう。
（S：ノートに記述）

S9：一つの大切な文化が世の中に伝わるし、アイヌとのやりとりもできるようになるかと思ったんだ

取組名	【親子読書】 「親子の架け橋～一筆啓上」	学年	2 学年
-----	-------------------------	----	------

扱う主な先人	盛岡市ゆかりの先人（原敬 新渡戸稲造 米内光政 金田一京助 石川啄木）
--------	-------------------------------------

(1) 取組のねらい

新渡戸稲造が、母親からの手紙を生涯大切にしていたという逸話に基づき、「盛岡の先人」に関わる親子読書、感想交流を行い、今後の生き方を考える取組を通して、子どもたちに「夢」と「誇り」と「志」を育む。

(2) 取組の概要

生徒	保護者
①『盛岡の先人』朝読書で読む。 ②「親子の架け橋～一筆啓上～」の用紙に感想を記入する。 ③用紙と『盛岡の先人』を持ち帰り保護者にも読んでもらう。	③ 1 か月程度の期間内で、生徒が持ち帰った『盛岡の先人』を、生徒と同じ人物について選んで読む。
⑤用紙を学校に提出する。	④子どもが持ち帰った本を読み、用紙に感想を記入する。
⑥校内に掲示された作品を見合い、他の親子の感想交流のよさを味わうとともに、盛岡の先人から学んだ生き方について考えを深める。	

(3) 寄せられた作品から

親子の架け橋～一筆啓上～

＜親子で話し合った先人の名前＞
新渡戸 稲造

新渡戸 稲造は、収入が全く出ないことから、教育への熱意を感じた。

保護者

親子の架け橋～一筆啓上～

＜親子で話し合った先人の名前＞
原 敬

初の本格的な政党内閣で実現した「平民宰相」原敬の評伝。原は粘り強い現実主義者として傑出した政治家だと再認識した。世の中を巻き込んで大きな夢を描いた、と、今の私達も、原が教えるように、夢を描いていきたい。

保護者

親子の架け橋～一筆啓上～

＜親子で話し合った先人の名前＞
米内 光政

誰かのためにと言うのは簡単だけれど、それを実行することには心からそう思い、続けることは大変なことだ。光政のように、そう思える人が出ない。その時に、心から続ける心をもてほしいと願っています。

保護者

米内光政は総理大臣にまでなったものの、上に立つことを目指さず、いつも日本のため、選抜を志して来た人だ。戦争は無念だとして、終戦の時には、自ら早く終戦をせよと進言したことから、常に先を見越して、日本を救うことを誰よりも考えていたと感じられた。また、父親の研究のために借金をしてまで仕送りを続けたり、後輩で小柄な金田一京助に、金で助けたりする優しさも、月々の借金を産み出した。米内光政の、謙かのため「風さび」といふ思いをもつ「折衝」に移して、自分も折衝されるようになった。

子ども

親子の架け橋～一筆啓上～

＜親子で話し合った先人の名前＞
金田一京助

一つのものを熱心に取り組むのは、非常に多難なことがあると理解しました。

保護者

親子の架け橋～一筆啓上～

＜親子で話し合った先人の名前＞
石川 啄木

石川啄木は、自分の結婚式も行かない、自分勝手でいい人。これが私の第一印象だった。しかし、自分のやりたいことや興味のあることをどんな状況下でも続けられるのは当たり前ではないと思います。だから、石川啄木は普通の人とは違う、ものすごい才能の持ち主だと思いました。私も好きなことを続けられる自分になりたいです。

子ども

【考察】生徒は、自分の感想と親の感想を比べながら、親子の間だからこそ通ずる感性を発見したり、親の人生観の深さを感じたりすることができたのではないだろうか。また、親から子へ、先人の生き方を通して子の成長を願う記述がみられ、親子の架け橋となっていると言える。

単元名	【社会科における取組】 歴史的分野「恐慌から戦争へ」	学年	3 学年
-----	-------------------------------	----	------

扱う主な先人	米内光政
--------	------

(1) 単元の目標

第二次世界大戦に突入してしまった時代背景を理解するとともに、日本が太平洋戦争を回避するチャンスがあったとすればどのタイミングだったのかを考えることを通して、現在と未来の平和に必要な考え方を追究することができる。

(2) 単元の指導計画（この他に単元のテーマの設定1時間、単元のまとめ1時間を設定している）

時	ねらい	学習活動	観点	記録	評価方法
1	学習課題：世界恐慌に各国はどのように対応したのか。		思・判・表		学習シート OPPシート 観察
	第一次世界大戦後、国際協調の機運が高まっていたにもかかわらず、世界が自国第一主義に傾倒していった背景を世界恐慌から考察し、表現している。	世界恐慌のメカニズムを教科書から理解し、植民地をもって自国経済を守らざるを得なかった状況を資料から読み取り、自分の考えを書く。			
2	学習課題：世界恐慌は日本にどのような影響を与えたのか。		知・技		学習シート OPPシート
	世界恐慌の日本への悪影響を資料から読み取っている。	世界恐慌以前から関東大震災や金融恐慌が起こっていたことを理解し、世界恐慌によって日本経済がさらに追い詰められたことを学習シートにまとめる。			
3	学習課題：日本はなぜ軍国主義の道を歩み始めたのか。		思・判・表	○	学習シート OPPシート 観察
	日本が国の危機を回避するため方策が、軍縮と満州侵略に二分される中で、満州事変について政府と軍部の考え方が対立した背景から、暴走が始まった要因を考察し、表現している。	満州事変後、国際連盟に置いて42対1で日本以外のすべての国が満州を承認しなかった謎について資料から考察する。			
4	学習課題：日中戦争はどのように展開したのか。		知・技		学習シート OPPシート
	日中戦争開戦までの経緯について、日本経済と関連づけながら理解している。	日中戦争開戦までの経緯について、日本経済と関連づけながら資料を読み取る。			
5	学習課題：第二次世界大戦はどのように展開したのか。		知・技		学習シート OPPシート 観察
	第二次世界大戦の経緯について、各国の状況をふまえて理解している。	第二次世界大戦の経緯について、各国の状況をふまえて資料を読み取る。			
6	学習課題：日本はなぜアメリカと戦争を始めたのか。		思・判・表	○	学習シート OPPシート 観察
	日本が太平洋戦争開戦に踏み切った理由について、経済、外交、国民生活の3つの視点から考察し、表現している。	日本が太平洋戦争開戦に踏み切った理由について、資料と教科書から言えることを読み取り、開戦の理由について書く。			
7 8	学習課題：太平洋戦争はどのようにして終結したのか。		態度	○	学習シート リフレクションカード 観察
	日本が降伏するまでに起きた出来事を整理し、降伏のタイミングを考えることを通して、当時の日本の為政者の視点と国民の視点から、徹底抗戦と降伏で判断が揺れ動いたことについて関心を高めている。	1945年に日本で起きた出来事を学習シートに整理する。映画「日本でのいちばん長い日」の一部を視聴し、鈴木首相や阿南陸相、米内海相など当時の為政者が考えていたことに思いを馳せる。			
9	学習課題：平和の実現のために歴史から学べることは何か。		思・判・表 態度	○	学習シート OPPシート 観察
	平和構築や戦争回避について米内から学べることを考え、未来の平和について必要なことを考察し、表現している。	『盛岡の先人』の米内光政の描写から終戦直前の動きを整理するとともに、開戦時の東條首相の演説を比較することで日本の当時の状況を踏まえた上で、米内から学べることを考え、未来の平和について必要なこと学習シートにまとめる。			

5 成果と課題

(1) 成果

- 副読本『盛岡の先人』を、読書だけではなく、社会科や道徳科の資料として活かしたことで、先人教育を教科横断的に実践することができた。
- 教科と関連づけた学習では、副読本『盛岡の先人』をすべて読ませるのではなく生徒の問いの核心となりうる部分を指定して読ませたことで、視点をもって活用することができた。また、すべて読ませなかったことで、その続きや生い立ちが気になった生徒が、自らさらに読み広げる姿が多く見られた。
- 小中で連携して実践したことで、学区の生徒が小学校時代にどのような学習をしてきたかを把握し、既習事項を活かしながら学習を進めることができた。
- 読書活動として実践した学年では、より深く知りたい先人を自ら選択して読み、親子読書（「親子の架け橋～一筆啓上～」）を行ったことで、親の子への願いを先人の姿を通して交流することができた。
- 学年の実態に合わせて教育課程上無理のない範囲で取り組むことができた。

※1 学年…小学校での学習が最も新鮮であることを活かした道徳科

※2 学年…自立の準備が始まり、親子関係を考えるのに適した時期であることを活かした親子読書

※3 学年…「戦争」という事象を扱い、平和構築という高度な思考が求められる学年であることを活かした社会科の歴史的分野

(2) 課題

- 授業を通して深く扱った先人が米内光政と金田一京助に偏ってしまったため、原敬や石川啄木、新渡戸稲造にも国語科や社会科等との学習と関連付けて先人教育に取り組む必要があること。
- 副読本『盛岡の先人』を、教科の特性に応じて活用ができるよう、より工夫が必要であること。



中学校副読本
『盛岡の先人』



上田中学校卒業の漫画家
そのだつくしさんが描いた金田一京助
(盛岡市先人記念館)